

地域の福祉活動に関する市民意識調査
報 告 書

平成 28 年 12 月
札 幌 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の内容.....	1
3 調査の概要.....	1
4 回収状況.....	1
5 本調査結果利用上の注意事項.....	1
第2章 調査結果	2
1 あなた自身のことについて.....	2
性別	2
年代	3
職業	4
家族形態	5
居住年数	6
居住形態	7
2 地域活動について.....	8
地域活動の参加経験	8
参加経験のある地域活動実施団体	9
地域活動団体への参加内容	10
地域活動への参加頻度	11
地域活動への参加動機	12
地域活動の情報を得る手段	13
地域活動継続（再開）意思の有無	14
地域活動非継続（非再開）理由	16
今後の地域活動への参加意向	17
地域活動に非参加である理由	18
3 ご近所との付き合いについて.....	19
近所付き合いの程度	19
日常生活での相談先	21
今後理想とする近所付き合いの程度	22
4 住民による支え合い活動について.....	26
近所に手助けが必要な方がいるかの認知度	26
近所の手助けが必要な方へできること	27
近所の方に手助けしてほしいこと	29
住みよい地域づくりのさまたげと感ずること	30

5	札幌市の地域福祉施策について.....	31
	福祉のまち推進センターの認知度	31
	福祉のまち推進センターを知った手段	33
	福祉のまち推進センターの活動への参加や手助けを受けた経験	34
	福祉のまち推進センターの活動への参加意欲	35
	福祉のまち推進センターによる手助けの享受	37
	福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策	40
	地域での手助けや支え合いの担い手	41
	地域福祉課題解決のために効果的な取り組み	42
6	地域活動と住民の支え合いに関する意見（自由記入）	43
	「福祉のまち推進センター」について	44
	情報提供・PR について.....	44
	教育・啓発活動について	46
	個人のプライバシーについて	46
	近隣の人との関係について	47
	地域の福祉活動の担い手・リーダーの育成について	48
	地域福祉活動への参加について	48
	地域福祉活動の活動主体について	49
	地域福祉活動の拠点づくり	50
	費用負担について	51
	地域福祉活動活性化のための仕組みづくり	51
	その他	52

資 料	55
-----------	----

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本市に居住している方々の地域活動、近隣との交流状況及び「福祉のまち推進センター」の事業を含めた地域の支え合い活動やそれらの活動に対する意識を把握することを目的とする。

2 調査の内容

- (1) あなた自身のことについて
- (2) 地域活動について
- (3) ご近所との付き合いについて
- (4) 住民による支え合い活動について
- (5) 札幌市の地域福祉施策について

3 調査の概要

(1) 調査対象

平成 28 年 9 月 1 日時点で札幌市に住民登録がある市民の中から、16 歳以上の方 3,000 人を無作為抽出

(2) 調査方法

郵送法による無記名アンケート調査

(3) 調査期間（調査票発送～投函期限）

平成 28 年 9 月 29 日（木）～平成 28 年 10 月 20 日（木）

4 回収状況

発送数	回答総数	有効回答	無効回答	有効回答率
3,000 件	1,170 件	1,165 件	5 件	38.8%

5 本調査結果利用上の注意事項

- (1) Nとは、比率算出の基礎となるサンプル数のことである。
- (2) 各回答の比率は、回答者数を分母とした百分率であり、小数第 2 位を四捨五入している。
- (3) 1 人の対象者につき 2 つ以上の複数回答を認めた質問の場合は、回答者数を分母としているため、個々の比率の合計は、100.0%を超えることがある。

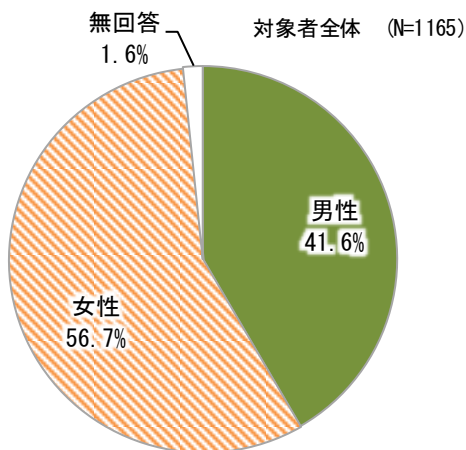
第2章 調査結果

1 あなた自身のことについて

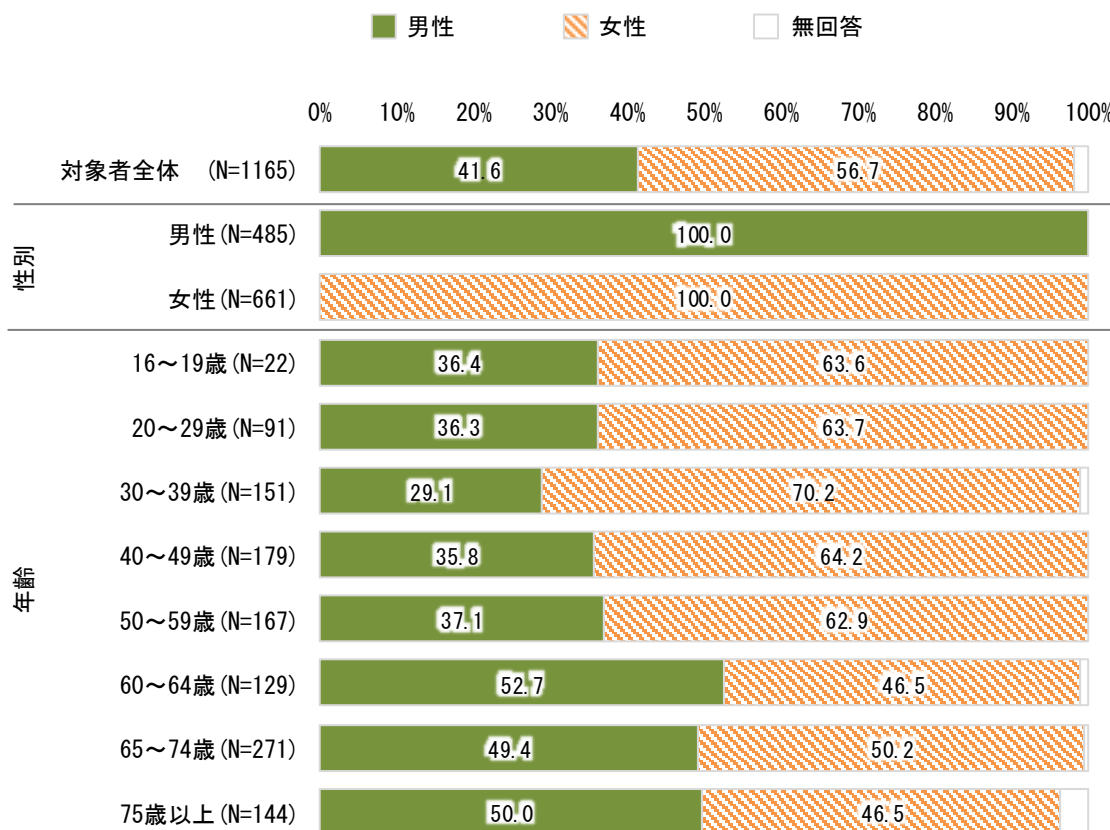
性別

【問1】性別について、あてはまるものに○をつけてください。

性別については、「男性」が41.6%、「女性」56.7%となっている。



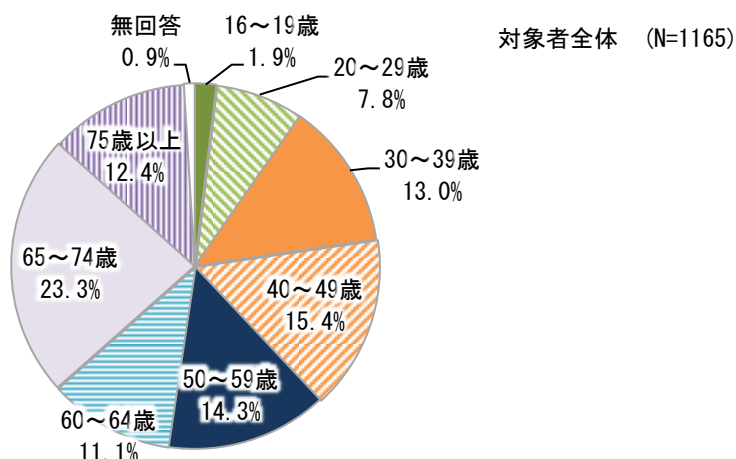
また、性別を年代別にみると60～64歳、75歳以上で「男性」が高い割合となっている。10歳代～50歳代では「女性」が6割以上となっている。特に、30歳代は「女性」が70.2%と高い割合となっている。



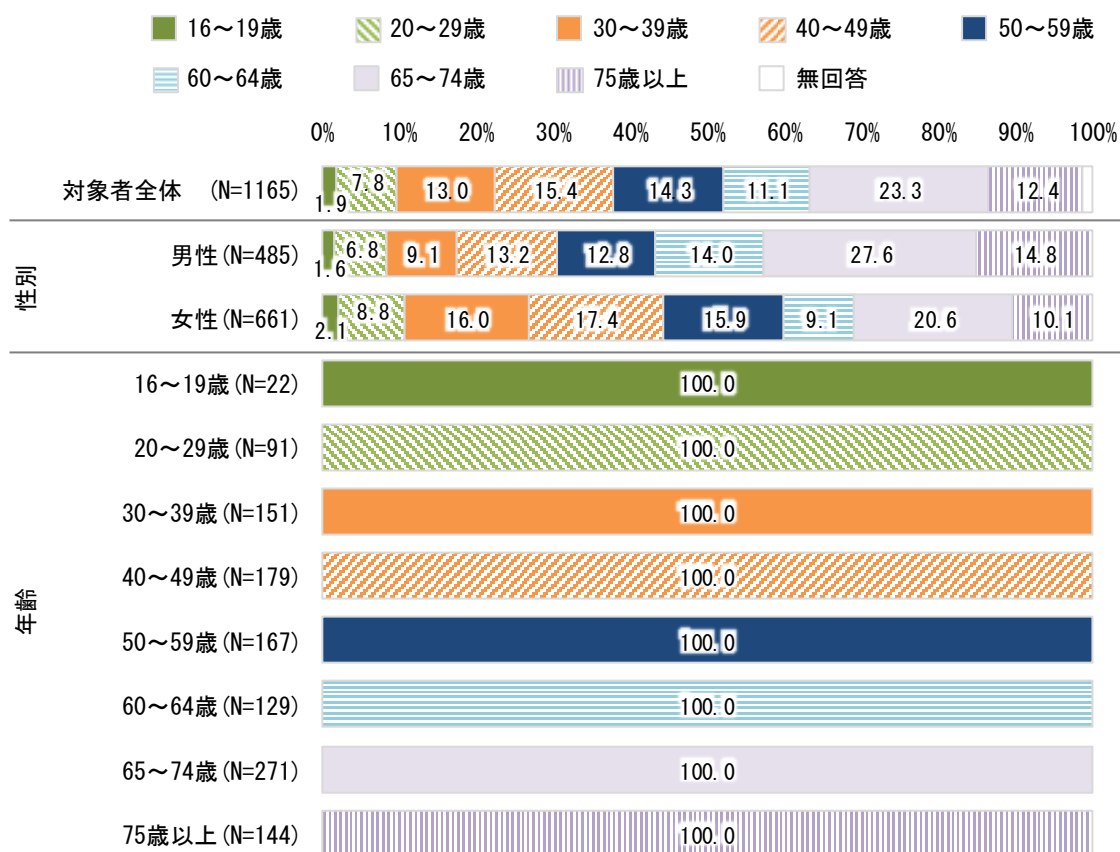
年代

【問2】現在の年齢について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

年代については、「65歳～74歳」が23.3%と最も高く、次いで「40～49歳」が15.4%、「50～59歳」が14.3%となっている。



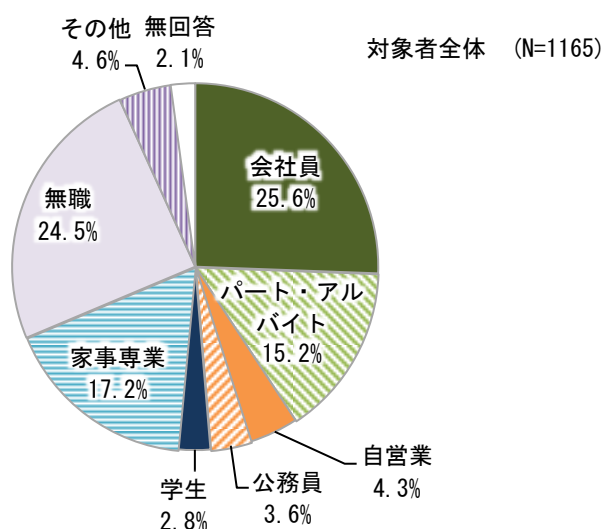
年代を男女別にみると男女共に「65～74歳」が最も高く、男性で27.6%、女性で20.6%となっている。次いで、男性は「75歳以上」が14.8%、女性は「40～49歳」が17.4%と高くなっている。



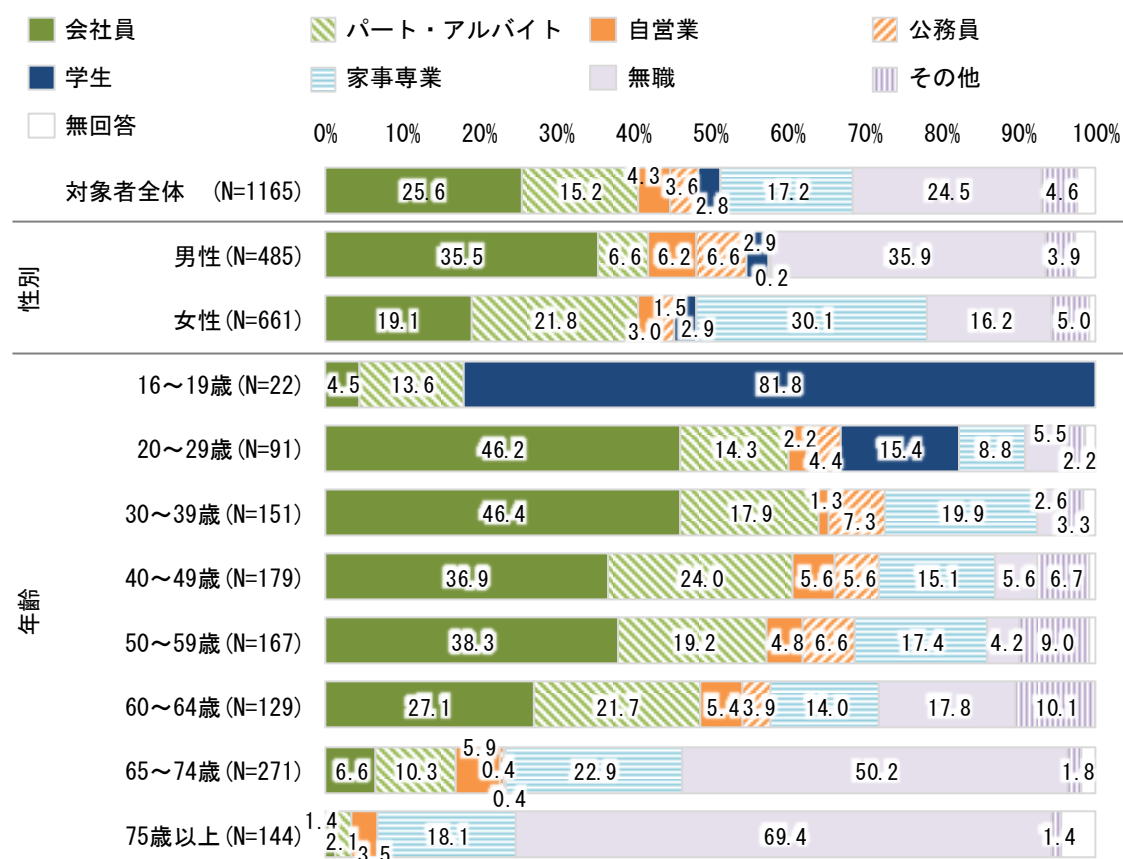
職業

【問 3】 ご職業について、あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

職業については、「会社員」が 25.6%と最も高く、次いで「無職」が 24.5%、「家事専業」が 17.2%と高くなっている。



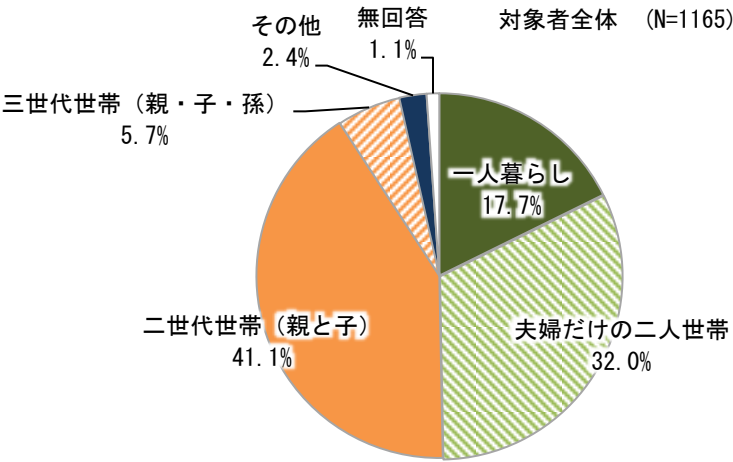
また、職業を男女別にみると男性では「無職」が 35.9%、「会社員」が 35.5%と割合に大きな差はない。女性では「家事専業」が 30.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 21.8%となっている。さらに年代別にみると 10 歳代は「学生」が 8 割以上と最も高く、20 歳代～50 歳代及び 60 歳～64 歳では「会社員」が最も高い割合となっている。



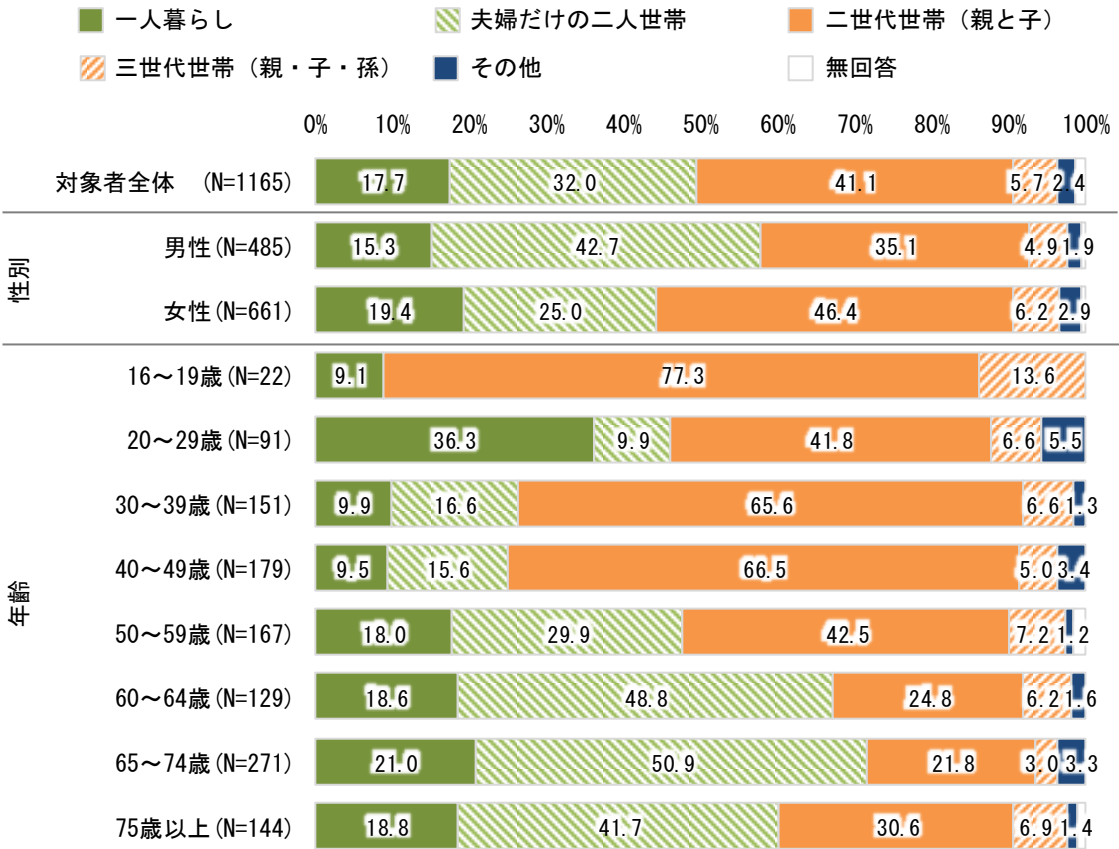
家族形態

【問 4】
家族の形態について、あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

家族形態については、「二世世代世帯（親と子）」が 41.1%と最も高く、次いで「夫婦だけの二人世帯」が 32.0%、「一人暮らし」が 17.7%となっている。



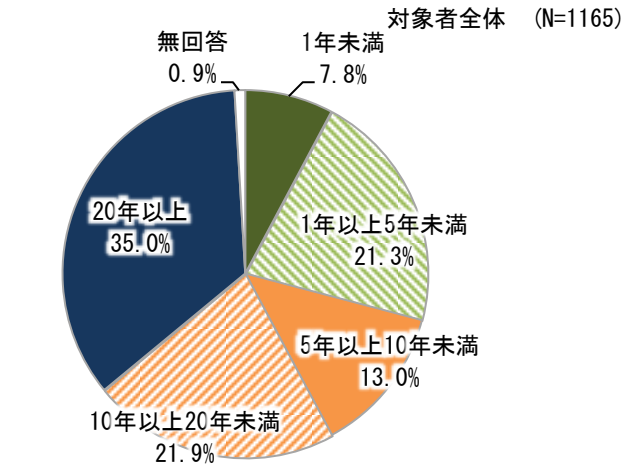
また、家族形態を男女別にみると男性で「夫婦だけの二人世帯」が 42.7%、女性で「二世世代世帯（親と子）」が 46.4%と最も高い割合となっている。さらに年代別にみると 20 歳代では「一人暮らし」が他の年代と比較し高い。30 歳代以降は、年代が高くなるにつれて「夫婦だけの二人世帯」が高くなっており、特に、65 歳～74 歳で 5 割以上となっている。



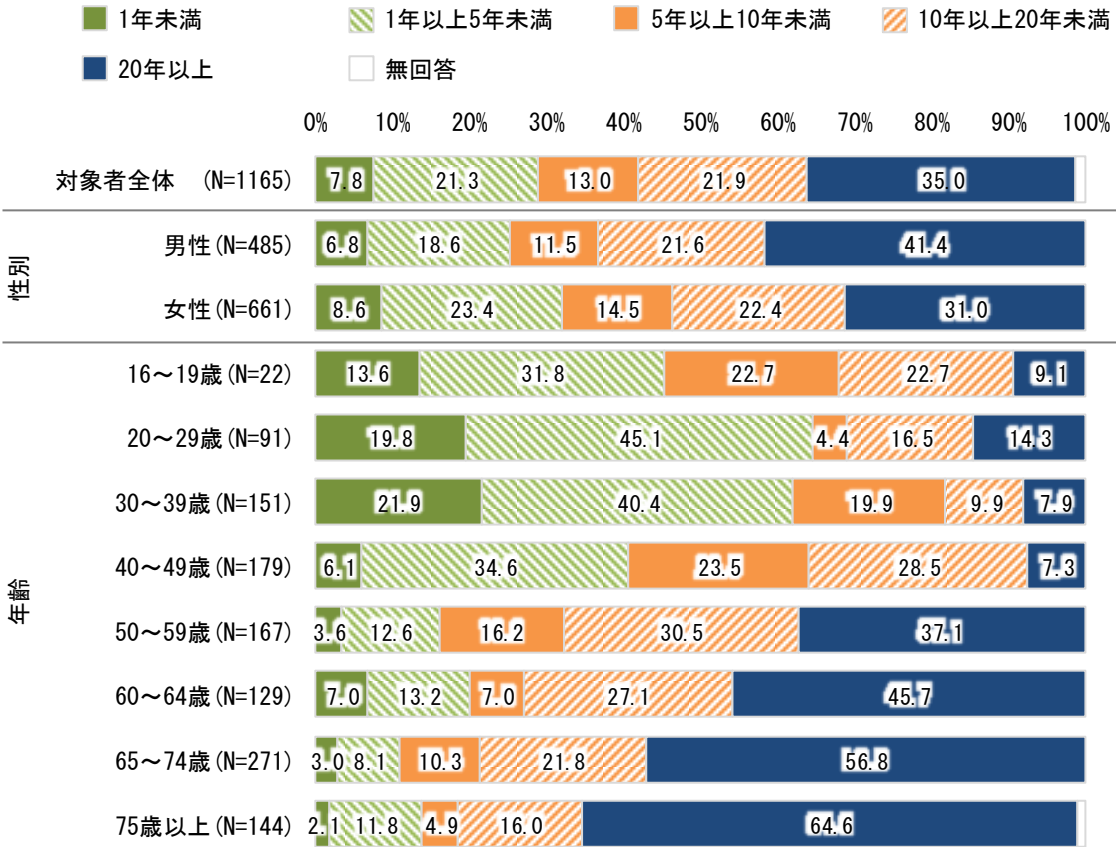
居住年数

【問 5】現在のところにお住まいの年数について、あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

居住年数については、「20 年以上」が 35.0%と最も高く、次いで「10 年以上 20 年未満」が 21.9%、「1 年以上 5 年未満」が 21.3%となっている。



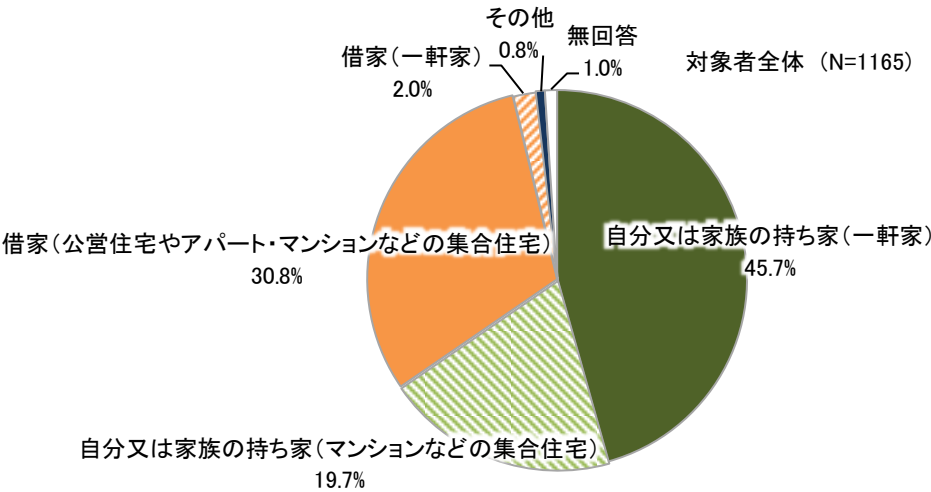
また、居住年数を男女別にみると男女共に「20 年以上」が最も高く、次いで男性で「10 年以上 20 年未満」が 21.6%、女性で「1 年以上 5 年未満」が 23.4%となっている。さらに年代別にみると 10 歳代～40 歳代では「1 年以上 5 年未満」、50 歳代～75 歳以上は「20 年以上」が最も高くなっている。



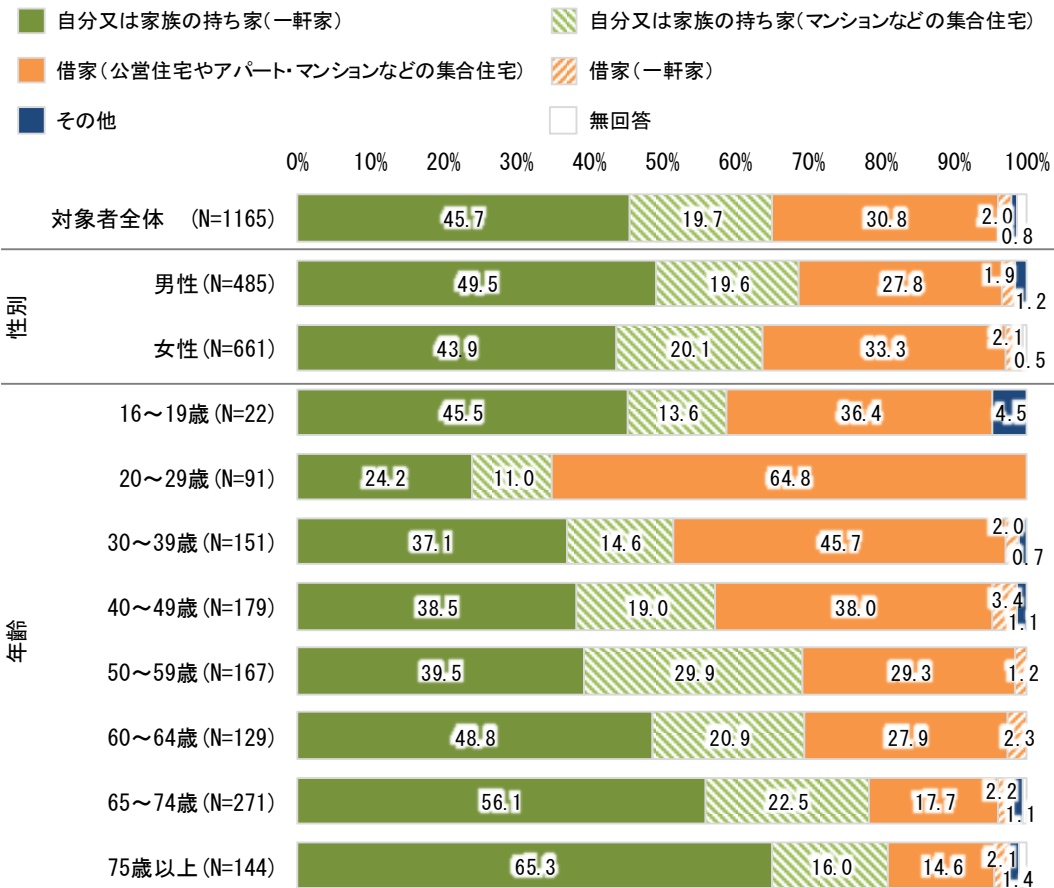
居住形態

【問 6】 お住まいの住宅について、あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

居住形態については、「自分の又は家族の持ち家（一軒家）」が 45.7%と最も高く、次いで「借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）」が 30.8%、「自分の又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」が 19.7%と高くなっている。



また、居住形態を男女別にみると男女共に「自分又は家族の持ち家（一軒家）」が 4 割を超えて高く、次いで「借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）」が高い割合となっている。さらに年代別にみると年代が高くなるにつれて「自分又は家族の持ち家（一軒家）」の割合が高く、特に、75 歳以上が 65.3%と最も高い。年代が低くなるにつれて「借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）」の割合が高くなっている。

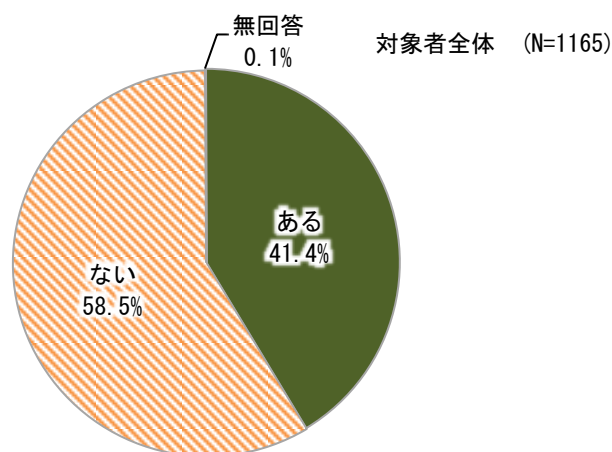


2 地域活動について

地域活動の参加経験

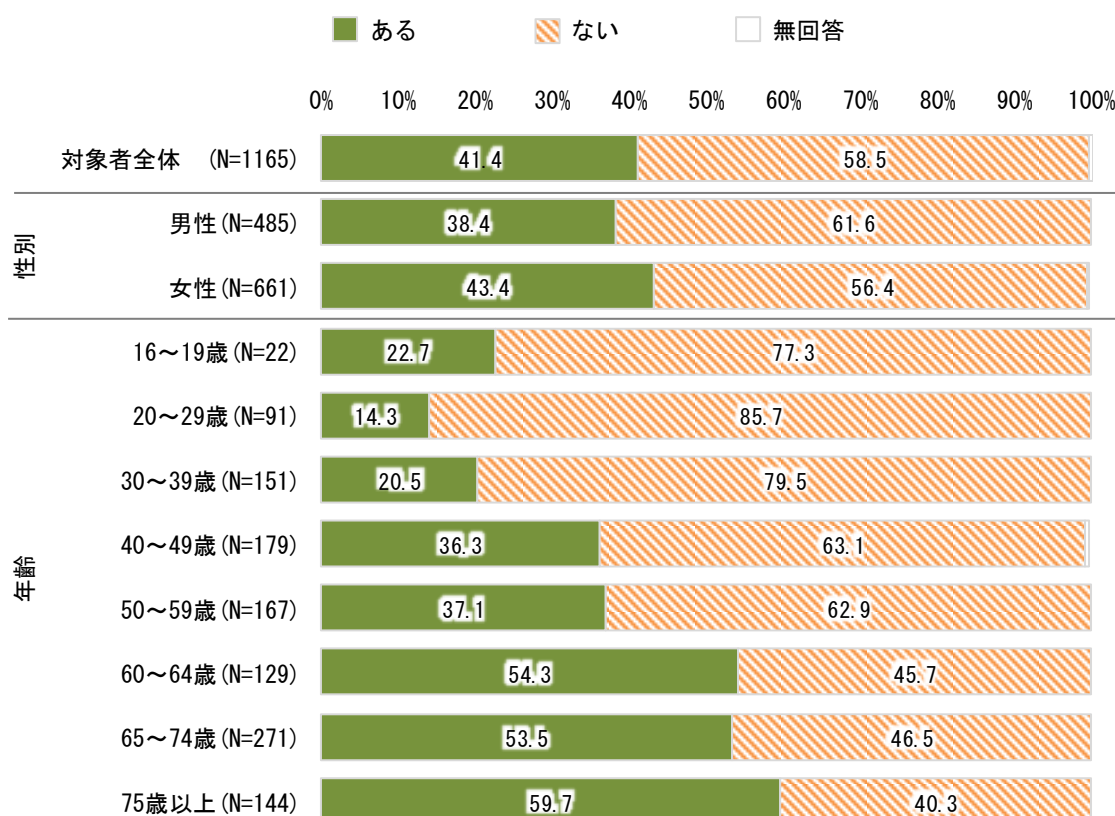
【問 7】あなたは、地域活動に参加したことがありますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

地域活動の参加経験については、「参加したことがある」が 41.4%、「参加したことがない」が 58.5%となっている。



また、地域活動の参加経験を男女別にみると「参加したことがない」の割合が男女共に高く、次いで「参加したことがある」は男性で 38.4%と女性で 43.4%を比較し女性が高い。

さらに年代別にみると 10 歳代～50 歳代では「参加したことがない」が 6 割を超えて高い。一方、60 歳代以降では「参加したことがある」が 5 割を超えて高く、特に、75 歳以上が 59.7%と最も高い割合となっている。

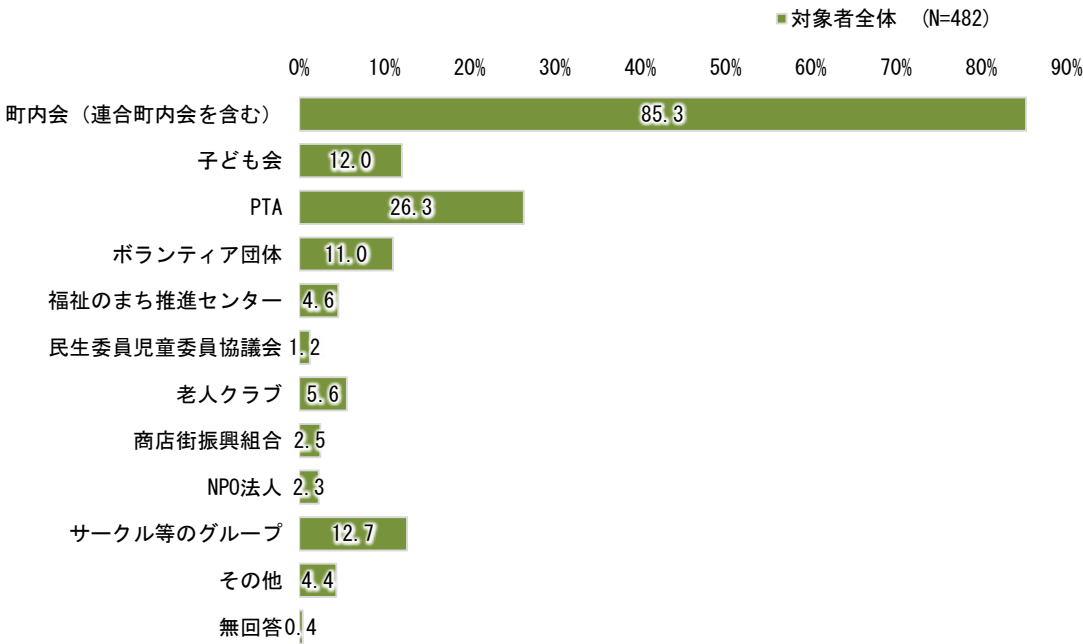


参加経験のある地域活動実施団体

【問 8】 あなたは、お住まいの地域で、次のような団体の地域活動に参加したことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

<問 7 で「1 参加したことがある」に○を付けた方が対象>

「参加したことがある」と回答した方に参加経験のある地域活動実施団体について聞いたところ、「町内会（連合町内会を含む）」が 85.3%と最も高く、次いで「PTA」が 26.3%、「サークル等のグループ」が 12.7%となっている。



また、参加経験のある地域活動実施団体を男女別にみると「町内会（連合町内会を含む）」では男性で 90.9%と女性で 82.2%を比較し男性が高い。一方、「PTA」では男性で 8.1%と女性で 37.3%を比較し女性の割合が非常に高い割合となっている。さらに年代別にみると 20 歳代では「ボランティア団体」が 46.2%と他の年代と比較し高い割合となっている。40 歳～64 歳では「PTA」が 3 割を超えており、特に、50 歳代が 53.2%と高い。75 歳以上では「老人クラブ」が 16.3%と他の年代と比較し高くなっている。

		町内会（連合町内会を含む）	子ども会	PTA	ボランティア団体	福祉のまち推進センター	民生委員児童委員協議会	老人クラブ	商店街振興組合	NPO法人	サークル等のグループ	その他	無回答
対象者全体 (N=482)		85.3	12.0	26.3	11.0	4.6	1.2	5.6	2.5	2.3	12.7	4.4	0.4
性別	男性 (N=186)	90.9	2.7	8.1	8.1	4.8	1.6	7.5	1.6	0.5	7.0	5.9	-
	女性 (N=287)	82.2	17.4	37.3	12.2	4.2	1.0	4.5	3.1	3.1	16.0	3.5	0.7
無回答 (N=9)		66.7	33.3	55.6	33.3	11.1	-	-	-	11.1	22.2	-	-
年齢	16 ～ 19 歳 (N=5)	40.0	40.0	20.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20 ～ 29 歳 (N=13)	53.8	38.5	-	46.2	-	-	-	-	-	7.7	-	-
	30 ～ 39 歳 (N=31)	77.4	25.8	19.4	19.4	-	-	-	-	3.2	3.2	-	-
	40 ～ 49 歳 (N=65)	80.0	12.3	46.2	1.5	-	-	-	1.5	3.1	6.2	7.7	-
	50 ～ 59 歳 (N=62)	90.3	22.6	53.2	6.5	-	-	-	-	3.2	16.1	4.8	-
	60 ～ 64 歳 (N=70)	85.7	11.4	37.1	12.9	1.4	2.9	1.4	2.9	1.4	7.1	2.9	1.4
	65 ～ 74 歳 (N=145)	88.3	4.1	13.8	8.3	6.9	1.4	8.3	3.4	1.4	15.2	4.8	-
	75 歳以上 (N=86)	91.9	7.0	10.5	12.8	11.6	2.3	16.3	4.7	2.3	19.8	4.7	1.2
	無回答 (N=5)	60.0	20.0	40.0	40.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	-	-

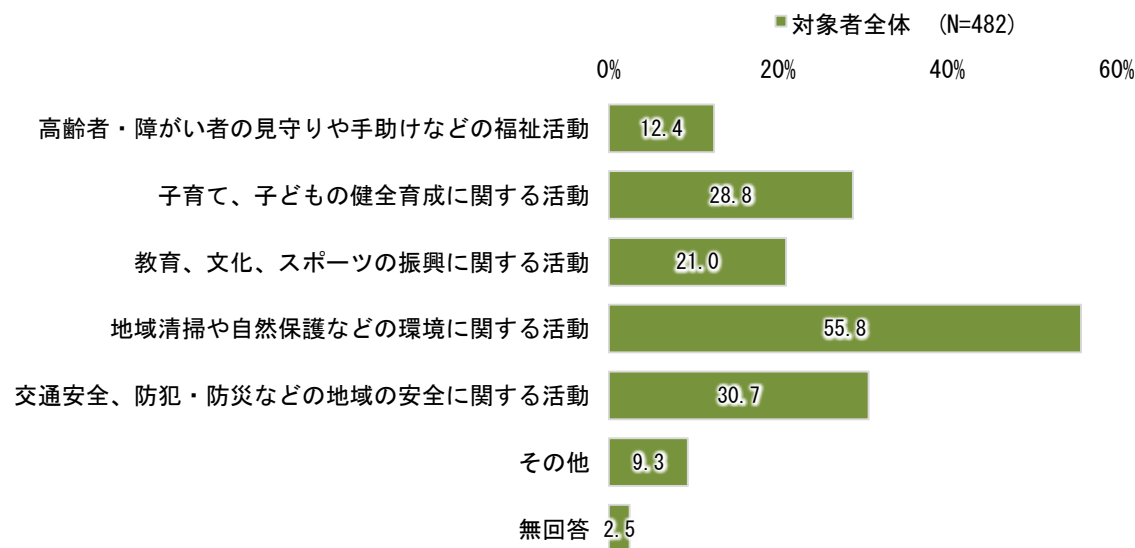
50.0 対象者全体と比較し10%以上高い

50.0 対象者全体と比較し10%以上低い

地域活動団体への参加内容

【問 9】あなたは、問 8 の団体で、どのような活動に参加したことがありますか。あてはまるものの全てに○をつけてください。

地域活動団体への参加内容については、「地域清掃や自然保護などの環境に関する活動」が 55.8%と最も高く、次いで「交通安全、防犯・防災などの地域の安全に関する活動」が 30.7%、「子育て、子どもの健全育成に関する活動」が 28.8%となっている。



また、地域活動団体への参加内容を男女別にみると「子育て、子どもの健全育成に関する活動」は男性で 16.7%、女性で 36.6%と女性の割合が大きく上回っている。さらに年代別にみると 20 歳代では「地域清掃や自然保護などの環境に関する活動」が 7 割を超えており、最も高く、40 歳代、50 歳代では「子育て、子どもの健全育成に関する活動」が 4 割を超えており、他の年代と比較し高くなっている。

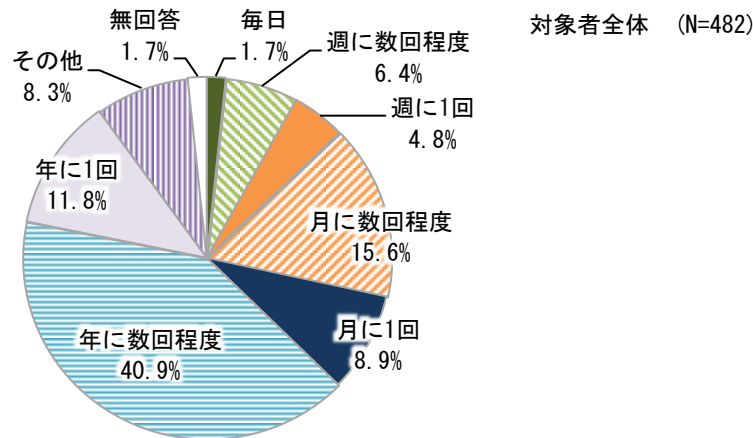
		高齢者・障がい者の見守りや手助けなどの福祉活動	子育て、子どもの健全育成に関する活動	教育、文化、スポーツの振興に関する活動	地域清掃や自然保護などの環境に関する活動	交通安全、防犯・防災などの地域の安全に関する活動	その他	無回答
対象者全体 (N=482)		12.4	28.8	21.0	55.8	30.7	9.3	2.5
性別	男性 (N=186)	12.4	16.7	17.7	57.5	33.9	11.8	1.1
	女性 (N=287)	12.2	36.6	23.0	55.4	29.3	7.3	3.5
	無回答 (N=9)	22.2	33.3	22.2	33.3	11.1	22.2	-
年齢	16 ～ 19 歳 (N=5)	-	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	-
	20 ～ 29 歳 (N=13)	15.4	23.1	38.5	76.9	-	7.7	-
	30 ～ 39 歳 (N=31)	9.7	35.5	22.6	54.8	29.0	3.2	-
	40 ～ 49 歳 (N=65)	4.6	47.7	20.0	52.3	30.8	4.6	-
	50 ～ 59 歳 (N=62)	4.8	45.2	24.2	56.5	48.4	9.7	-
	60 ～ 64 歳 (N=70)	5.7	35.7	12.9	57.1	20.0	7.1	7.1
	65 ～ 74 歳 (N=145)	19.3	20.7	20.7	55.9	31.0	12.4	3.4
	75 歳以上 (N=86)	17.4	10.5	24.4	55.8	33.7	9.3	2.3
	無回答 (N=5)	40.0	20.0	-	40.0	-	40.0	-

50.0 対象者全体と比較し10%以上高い
50.0 対象者全体と比較し10%以上低い

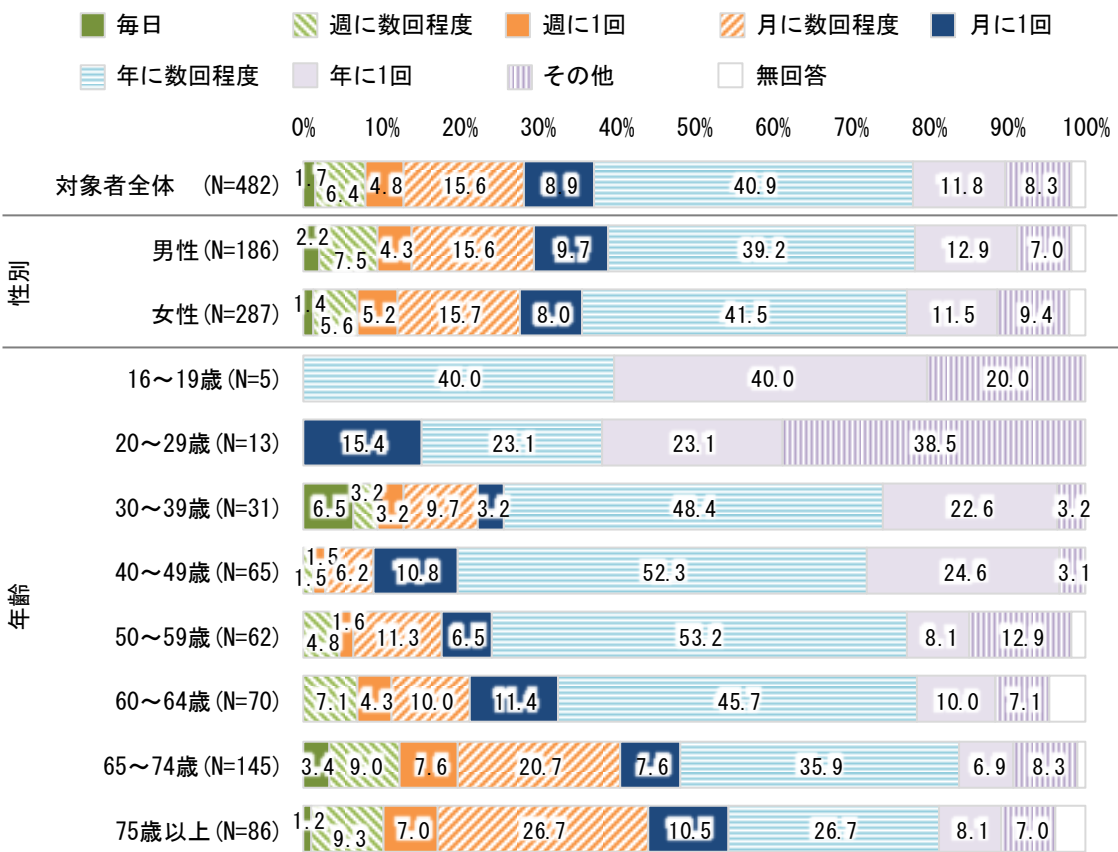
地域活動への参加頻度

【問 10】あなたは、どのくらいの頻度で地域活動に参加していますか。(いましたか)。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

地域活動への参加頻度については、「年に数回程度」が 40.9%と最も高く、次いで「月に数回程度」が 15.6%、「年に 1 回」が 11.8%となっている。



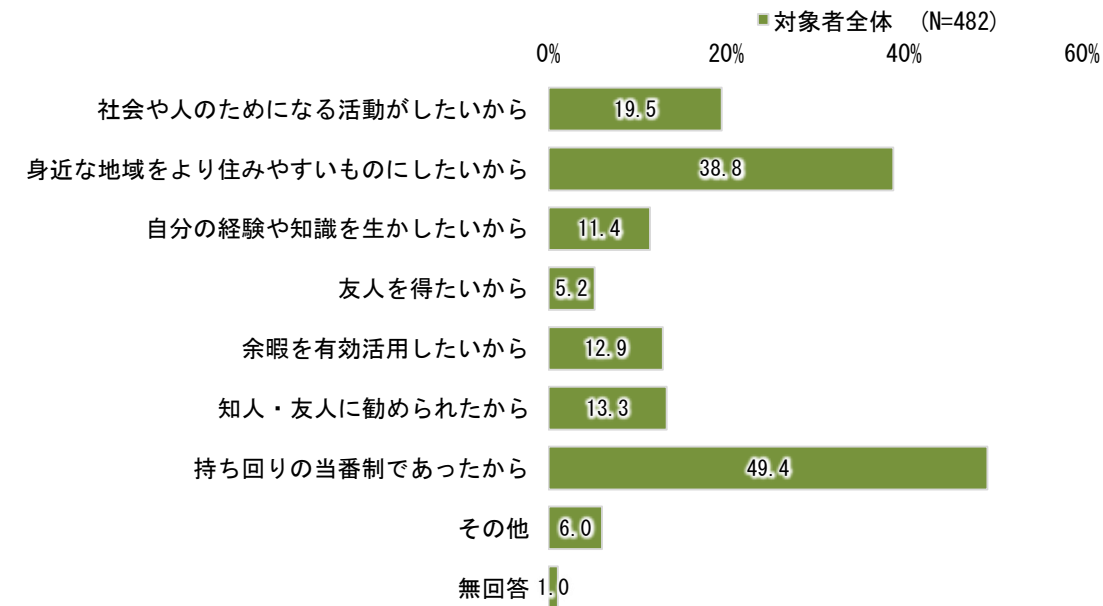
また、地域活動への参加頻度を男女別にみると男女共に「年に数回程度」が 4 割程度と最も高くなっている。さらに年代別にみると 20 歳代、75 歳以上を除く年代では「年に数回程度」が高く、特に、40 歳代、50 歳代で 5 割を超えて高い割合となっている。10 歳代、20 歳代では「年に数回程度」及び「年に 1 回」が 23.1%と同じ割合となっている。



地域活動への参加動機

【問 11】 あなたが地域活動に参加した理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

地域活動への参加動機については、「持ち回りの当番制であったから」が 49.4%と最も高く、次いで「身近な地域をより住みやすいものにしたいから」が 38.8%と高い。また、「社会や人のためになる活動がしたいから」が 19.5%とやや高い割合となっている。



また、地域活動への参加動機を男女別にみると「身近な地域をより住みやすいものにしたいから」が男性で 45.7%と女性で 34.5%を比較し男性の割合が高い割合となっている。さらに年代別にみると 10 歳代、20 歳代では「知人・友人に勧められたから」が高く、特に、10 歳代では 60.0%と非常に高い。50 歳代、60 歳代では「持ち回りの当番制であったから」が 6 割を超えており、他の年代と比較し高い割合となっている。

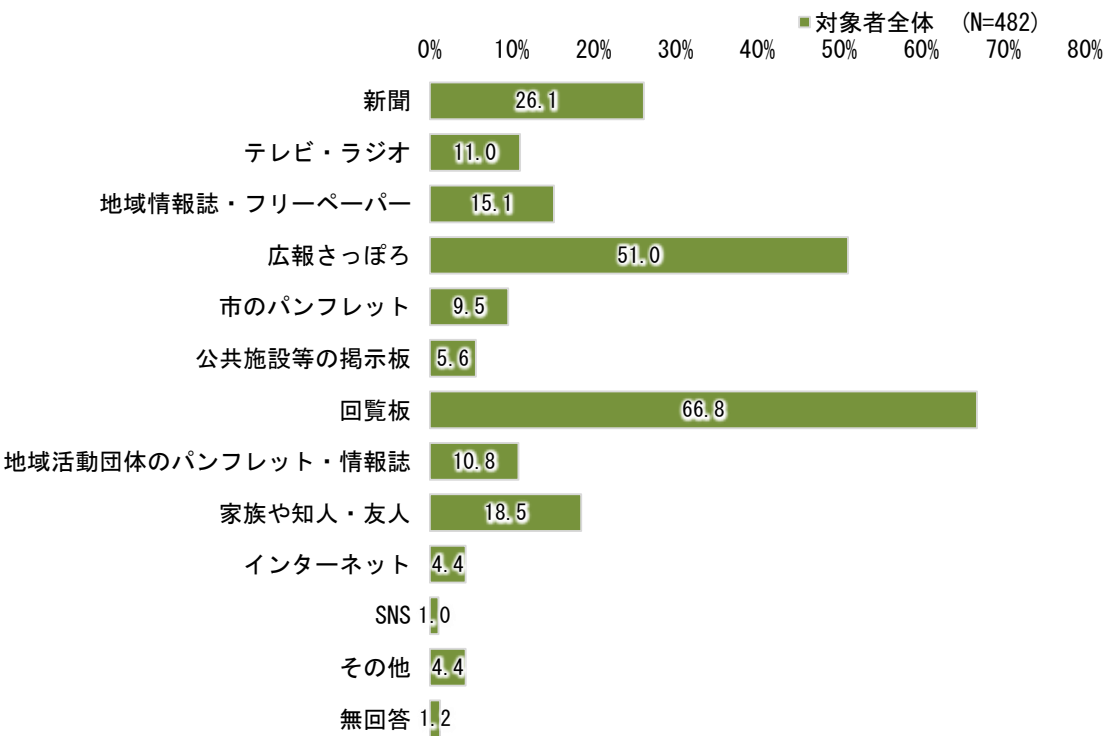
			かな らる 会 活 や 動 人 が の し た た め に	し 住 み 近 い や な か す 地 域 を の よ り に	を 自 生 分 か し 経 験 い や か 知 識	友 人 を 得 た い か ら	た 余 暇 を 有 効 活 用 し	ら 知 れ た ・ か 友 人 に 勧 め	で 持 ち 回 り の 当 番 制	そ の 他	無 回 答
対 象 者 全 体 (N=482)			19.5	38.8	11.4	5.2	12.9	13.3	49.4	6.0	1.0
性別	男 性 (N=186)		22.6	45.7	11.8	3.2	11.8	11.3	46.2	4.8	-
	女 性 (N=287)		17.4	34.5	9.8	6.6	13.9	15.0	51.6	6.6	1.7
無 回 答 (N=9)			22.2	33.3	55.6	-	-	-	44.4	11.1	-
年齢	16 ～ 19 歳 (N=5)		-	20.0	20.0	-	-	60.0	-	20.0	-
	20 ～ 29 歳 (N=13)		15.4	15.4	23.1	-	-	30.8	7.7	30.8	-
	30 ～ 39 歳 (N=31)		22.6	38.7	16.1	9.7	16.1	9.7	41.9	9.7	3.2
	40 ～ 49 歳 (N=65)		16.9	38.5	6.2	4.6	7.7	9.2	53.8	7.7	-
	50 ～ 59 歳 (N=62)		17.7	33.9	8.1	1.6	6.5	8.1	66.1	4.8	-
	60 ～ 64 歳 (N=70)		15.7	40.0	4.3	1.4	4.3	12.9	65.7	4.3	2.9
	65 ～ 74 歳 (N=145)		22.1	41.4	11.0	4.8	20.0	14.5	49.7	5.5	0.7
	75 歳 以 上 (N=86)		20.9	43.0	18.6	11.6	18.6	15.1	32.6	2.3	1.2
	無 回 答 (N=5)		40.0	20.0	40.0	-	-	-	40.0	-	-

50.0 対象者全体と比較し10%以上高い
50.0 対象者全体と比較し10%以上低い

地域活動の情報を得る手段

【問 12】あなたは、地域活動に関する情報を何から得ていますか。主なものに3つまで○をつけてください。

地域活動の情報を得る手段については、「回覧板」が66.8%と最も高い。次いで「広報さっぽろ」が51.0%と5割を超えて高く、「新聞」が26.1%となっている。



また、地域活動の情報を得る手段を男女別にみると「家族や知人・友人」は男性で12.9%と女性で22.3%を比較し女性の割合が高い。さらに年代別にみると50歳代では「新聞」が37.1%、「広報さっぽろ」が62.9%と他の年代と比較し高い。10歳代、20歳代では「インターネット」が他の年代と比較し高い割合となっている。

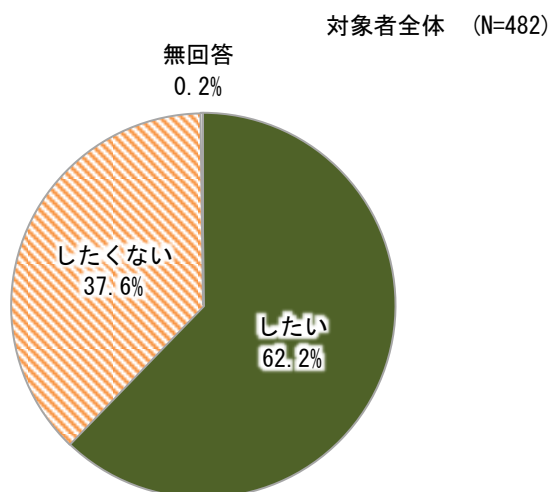
	新聞	テレビ・ラジオ	地域情報誌・フリーペーパー	広報さっぽろ	市のパンフレット	公共施設等の掲示板	回覧板	地域活動団体のパンフレット・情報誌	家族や知人・友人	インターネット	SNS	その他	無回答
対象者全体 (N=482)	26.1	11.0	15.1	51.0	9.5	5.6	66.8	10.8	18.5	4.4	1.0	4.4	1.2
性別 男性 (N=186)	28.0	12.9	15.1	46.8	12.9	3.8	70.4	14.5	12.9	4.8	1.1	5.9	0.5
性別 女性 (N=287)	24.7	9.8	14.6	54.0	7.3	7.0	65.2	8.0	22.3	4.2	1.0	3.5	1.7
無回答 (N=9)	33.3	11.1	33.3	44.4	11.1	-	44.4	22.2	11.1	-	-	-	-
年齢 16～19歳 (N=5)	-	20.0	-	-	-	-	60.0	-	60.0	20.0	20.0	20.0	-
20～29歳 (N=13)	15.4	23.1	15.4	30.8	-	7.7	23.1	-	23.1	15.4	7.7	15.4	-
30～39歳 (N=31)	12.9	9.7	16.1	38.7	16.1	6.5	51.6	-	25.8	12.9	-	9.7	-
40～49歳 (N=65)	13.8	6.2	16.9	49.2	-	9.2	75.4	4.6	13.8	6.2	3.1	3.1	-
50～59歳 (N=62)	37.1	9.7	16.1	62.9	9.7	6.5	66.1	1.6	11.3	1.6	-	6.5	1.6
60～64歳 (N=70)	12.9	5.7	21.4	48.6	10.0	2.9	70.0	14.3	15.7	2.9	-	2.9	4.3
65～74歳 (N=145)	32.4	13.8	13.1	54.5	9.7	5.5	67.6	14.5	17.2	4.1	0.7	4.1	1.4
75歳以上 (N=86)	34.9	14.0	10.5	52.3	15.1	4.7	70.9	18.6	25.6	1.2	-	1.2	-
無回答 (N=5)	40.0	-	40.0	20.0	20.0	-	40.0	20.0	20.0	-	-	-	-

50.0 対象者全体と比較し10%以上高い 50.0 対象者全体と比較し10%以上低い

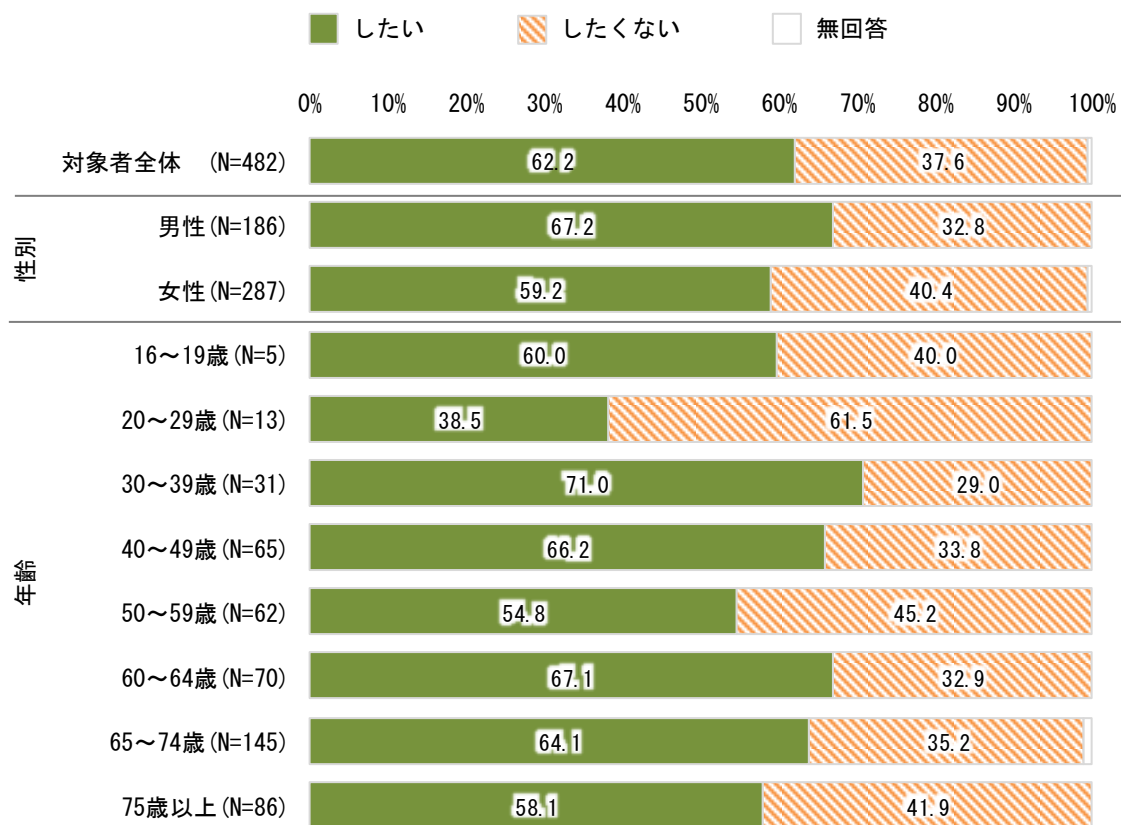
地域活動継続（再開）意思の有無

【問 13】あなたは、地域活動を今後も継続（再開）したいと思いますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

地域活動の参加経験者に継続（再開）意思の有無については、「継続（再開）したい」が 62.2% となっており「継続（再開）したくない」が 37.6%となっている。



また、地域活動継続（再開）意思の有無を男女別にみると男女共に「継続（再開）したい」が 5 割を超えており、「継続（再開）したくない」は男性で 32.8%、女性で 40.4%となっている。さらに年代別にみると 20 歳代を除く年代では「継続（再開）したい」が 5 割を超えており、特に、30 歳代では 71.0%と非常に高い割合となっている。

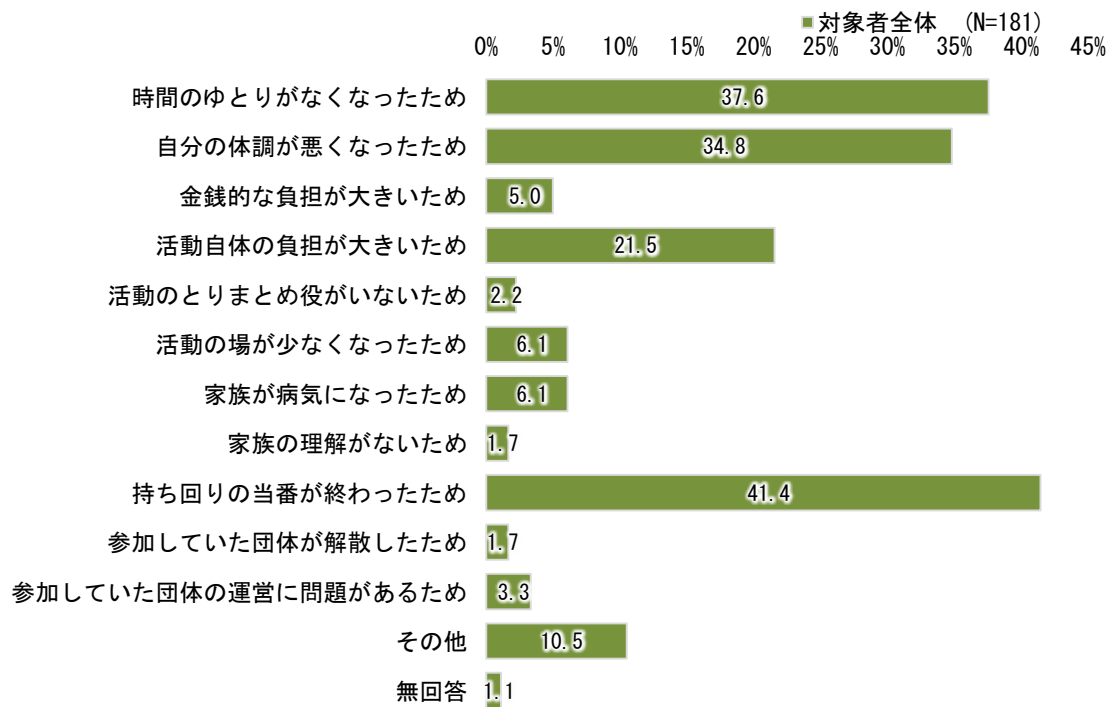


地域活動非継続（非再開）理由

【問 14】活動を継続したくない理由はどのようなことですか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

<問 13 で「2 継続（再開）したくない」と答えた方が対象>

地域活動非継続（非再開）理由については、「持ち回りの当番が終わったため」が 41.4%と最も高く、次いで「時間のゆとりがなくなったため」が 37.6%、「自分の体調が悪くなったため」が 34.8%となっている。



また、地域活動非継続（非再開）理由を男女別にみると「自分の体調が悪くなったため」が男性で 44.3%と女性で 29.3%を比較し男性が高い。「時間のゆとりがなくなったため」では女性で 43.1%と男性で 27.9%を比較し女性が高い割合となっている。さらに年代別にみると 10 歳代～50 歳代では「時間のゆとりがなくなったため」が 5 割を超えて高く、65 歳以上では「自分の体調が悪くなったため」が 4 割を超えており、他の年代と比較し高い割合となっている。

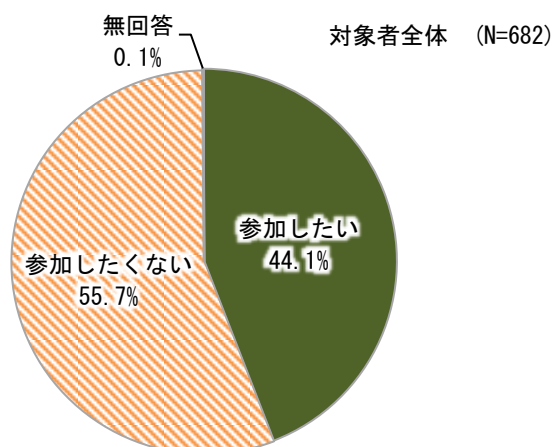
		時間のゆとりがなくなったため	自分の体調が悪くなったため	金銭的な負担が大きい	活動自体の負担が大きい	活動のとりまとめ役がいなかったため	活動の場がなくなったため	家族が病気になったため	家族の理解がないため	持ち回りの当番が終わったため	参加していた団体が解散したため	参加していた団体の運営に問題があるため	その他	無回答
対象者全体 (N=181)		37.6	34.8	5.0	21.5	2.2	6.1	6.1	1.7	41.4	1.7	3.3	10.5	1.1
性別	男性 (N=61)	27.9	44.3	4.9	16.4	3.3	1.6	4.9	-	36.1	-	1.6	14.8	-
	女性 (N=116)	43.1	29.3	4.3	24.1	0.9	6.9	6.9	2.6	44.0	2.6	4.3	8.6	1.7
無回答 (N=4)		25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-
年齢	16 ～ 19 歳 (N=2)	100.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	20 ～ 29 歳 (N=8)	87.5	12.5	12.5	12.5	-	12.5	-	-	-	-	12.5	25.0	-
	30 ～ 39 歳 (N=9)	55.6	-	11.1	33.3	11.1	-	-	-	55.6	-	22.2	-	-
	40 ～ 49 歳 (N=22)	63.6	4.5	9.1	22.7	-	-	4.5	-	54.5	4.5	-	4.5	-
	50 ～ 59 歳 (N=28)	53.6	25.0	-	21.4	-	3.6	-	-	57.1	-	-	10.7	3.6
	60 ～ 64 歳 (N=23)	30.4	34.8	-	8.7	-	4.3	8.7	-	60.9	-	4.3	4.3	-
	65 ～ 74 歳 (N=51)	27.5	45.1	7.8	29.4	3.9	5.9	9.8	5.9	39.2	3.9	3.9	7.8	-
	75 歳以上 (N=36)	8.3	63.9	2.8	19.4	-	8.3	8.3	-	19.4	-	-	19.4	2.8
	無回答 (N=2)	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-
		50.0	対象者全体と比較し10%以上高い					50.0	対象者全体と比較し10%以上低い					

今後の地域活動への参加意向

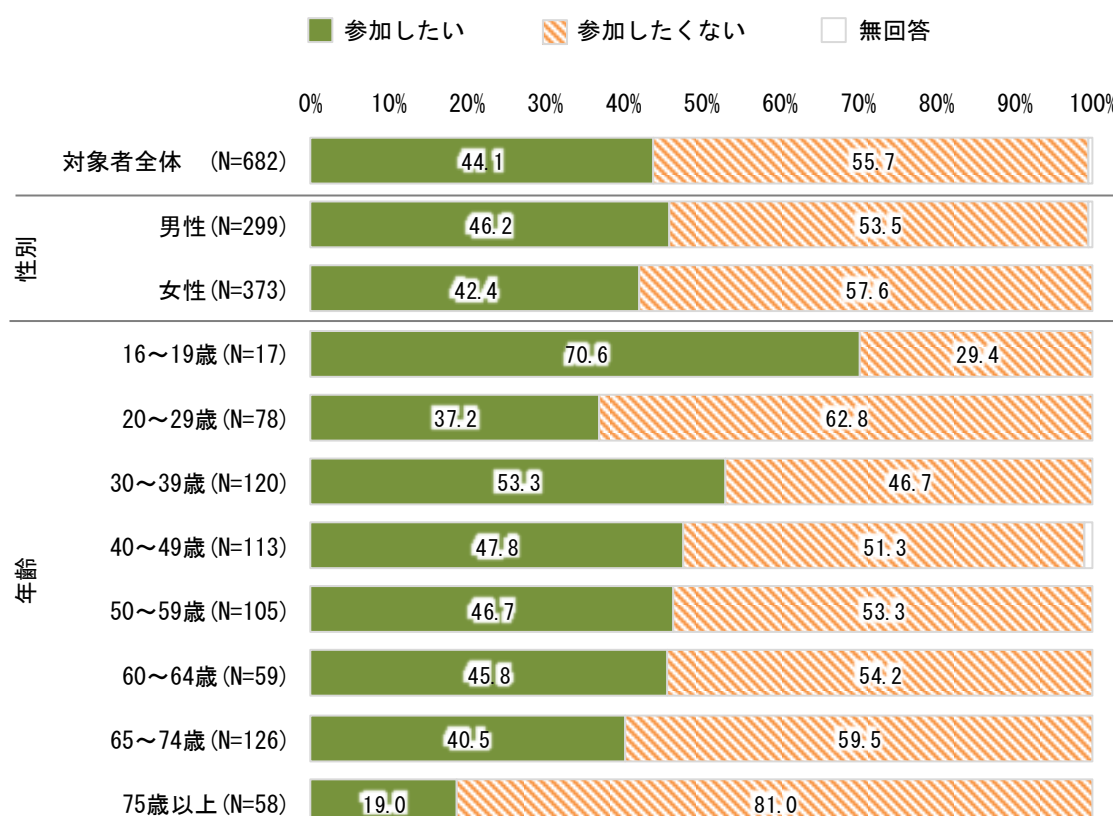
【問 15】あなたは、今後、地域活動に参加したいと思いますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

＜問 7 で「2 参加したことがない」と答えた方が対象＞

「参加したことがない」と回答した方の今後の地域活動への参加意向については、「参加したい」が 44.1%、「参加したくない」が 55.7%となっている。



また、今後の地域活動への参加意向を男女別にみると男女共に「参加したくない」が 5 割を超えており、男女の差はみられない。さらに年代別にみると「参加したい」は 10 歳代が 7 割を超えて最も高く、次いで 30 歳代が 5 割を超えて高い。75 歳以上では「参加したくない」が 8 割を超えており、他の年代と比較し高い割合となっている。

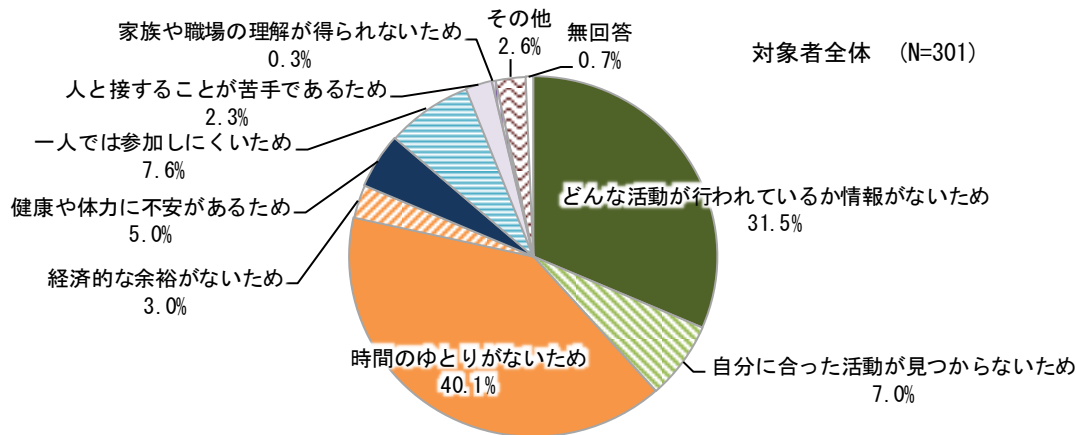


地域活動に非参加である理由

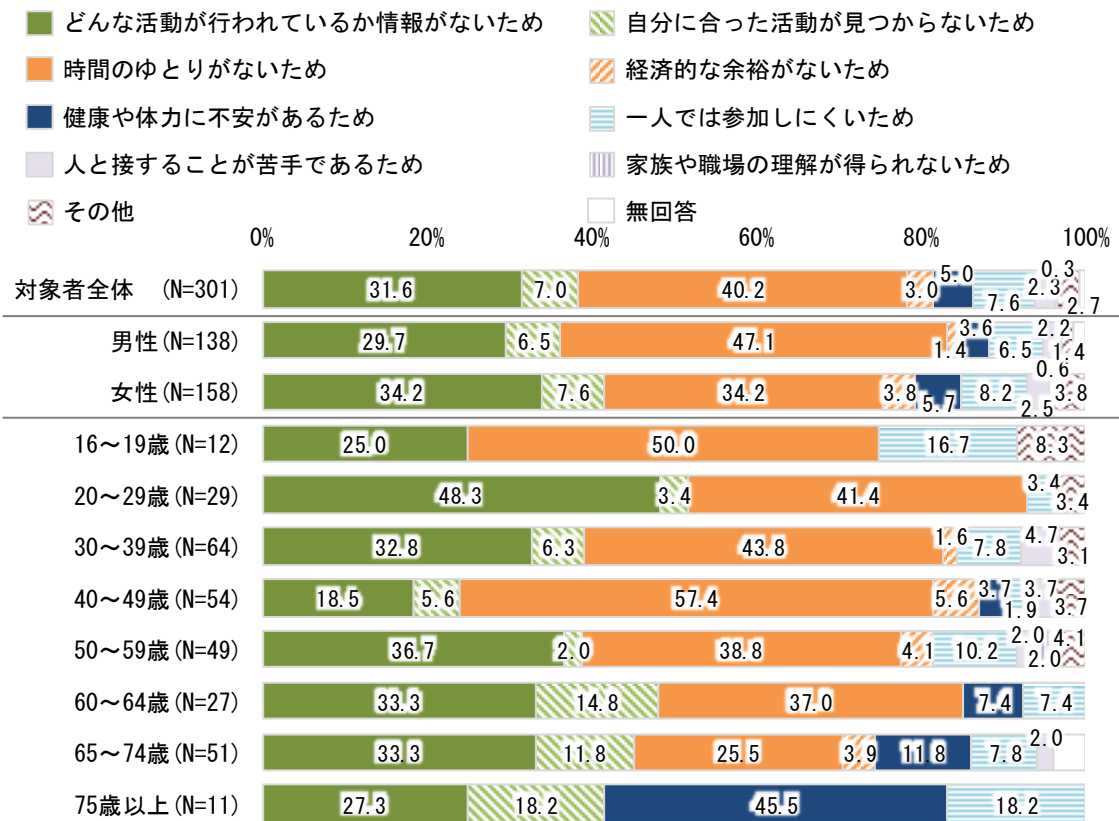
【問 16】 現在、あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。最もあてはまるもの 1 つに○をつけてください。

＜問 15 で「1 参加したい」と答えた方が対象＞

地域活動に参加したい意思はあるが、非参加である理由については、「時間のゆとりがないため」が 40.1%と最も高く、次いで「どんな活動が行われているか情報がないため」が 31.5%となっている。



また、地域活動に参加したい意思はあるが非参加である理由を男女別にみると男女共に「時間のゆとりがないため」が高い割合となっている。さらに年代別にみると 20 歳代では「どんな活動が行われているか情報がないため」が 48.3%と最も高く、10 歳代～40 歳代では「時間のゆとりがないため」が 4 割を超えて高い。75 歳以上では「健康や体力に不安があるため」が 45.5%と最も高い割合となっている。

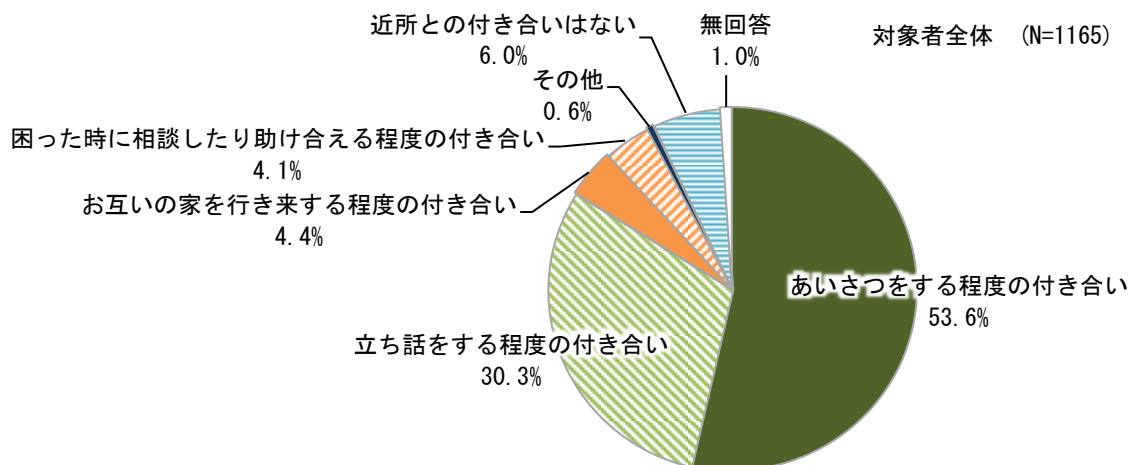


3 ご近所との付き合いについて

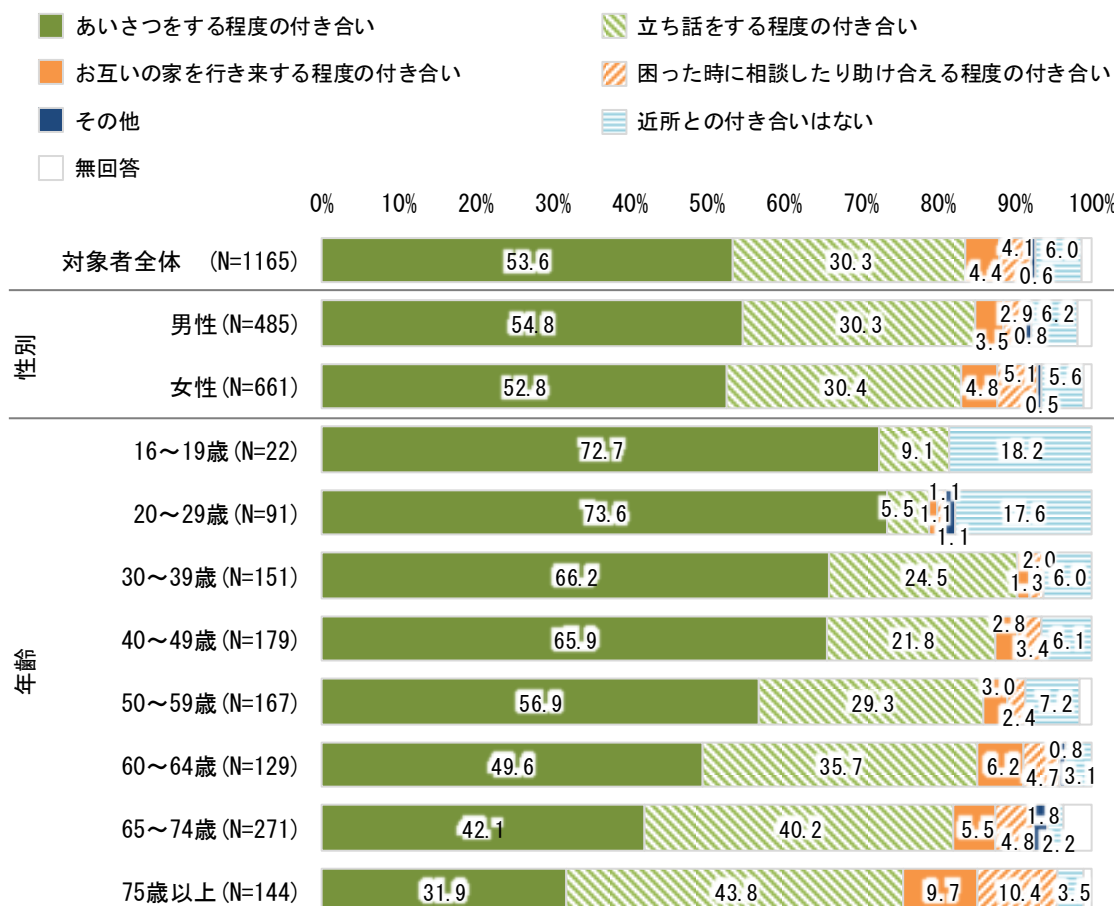
近所付き合いの程度

【問 17】 あなたはご近所とどのような付き合いがありますか。最もあてはまるもの 1 つに○をつけてください。

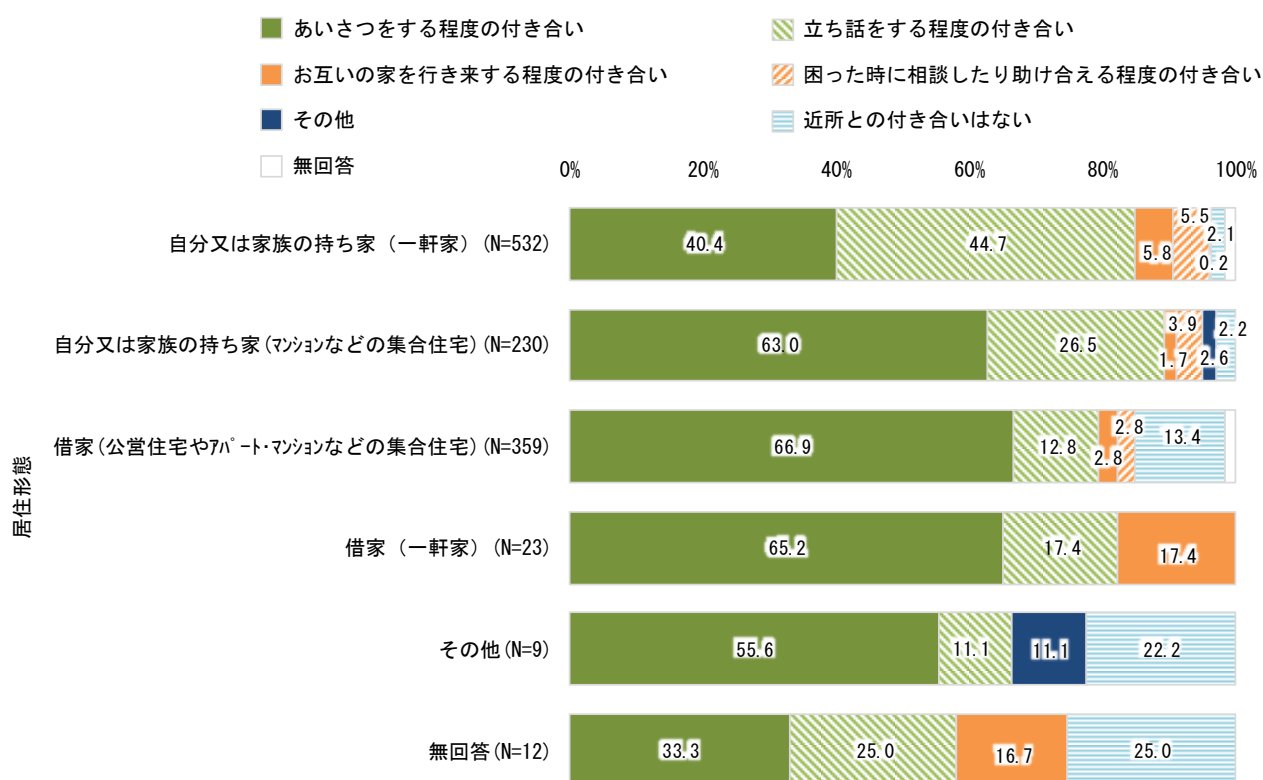
近所付き合いの程度については、「あいさつをする程度の付き合い」が 53.6%と最も高く、次いで「立ち話をする程度の付き合い」が 30.3%となっている。



また、近所付き合いの程度を男女別にみると男女共に「あいさつをする程度の付き合い」が 5 割を超えて最も高い。さらに年代別にみると年代が高くなるにつれて「立ち話をする程度の付き合い」の割合が高い傾向にある。特に、75 歳以上では 43.8%と最も高い。10 歳代、20 歳代では「近所との付き合いはない」が 18%程度と他の年代と比較し高い。



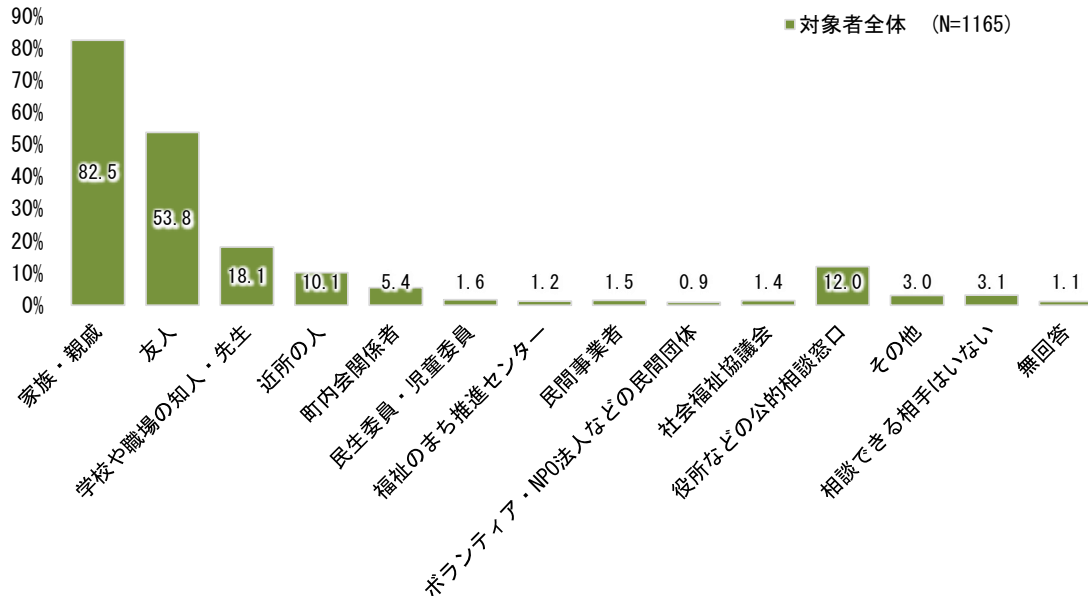
また、居住形態（問 6 の回答）別に近所付き合いの程度をみると『自分又は家族の持ち家（一軒家）』を除いた居住形態では「あいさつをする程度の付き合い」が5割以上となっている。特に、『借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）』66.9%と最も高い。一方、『自分又は家族の持ち家（一軒家）』は「立ち話をする程度の付き合い」が44.7%と最も高くなっている。また、『借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）』では「近所との付き合いはない」が13.4%と他の居住形態と比較し、高い割合となっている。



日常生活での相談先

【問 18】あなたは、日ごろの生活での困りごとをどなた（どこ）に相談していますか、または、誰に相談することができますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

日常生活での相談先については、「家族・親戚」が 82.5%と最も高く、次いで「友人」が 53.8%、「学校や職場の知人・先生」が 18.1%となっている。



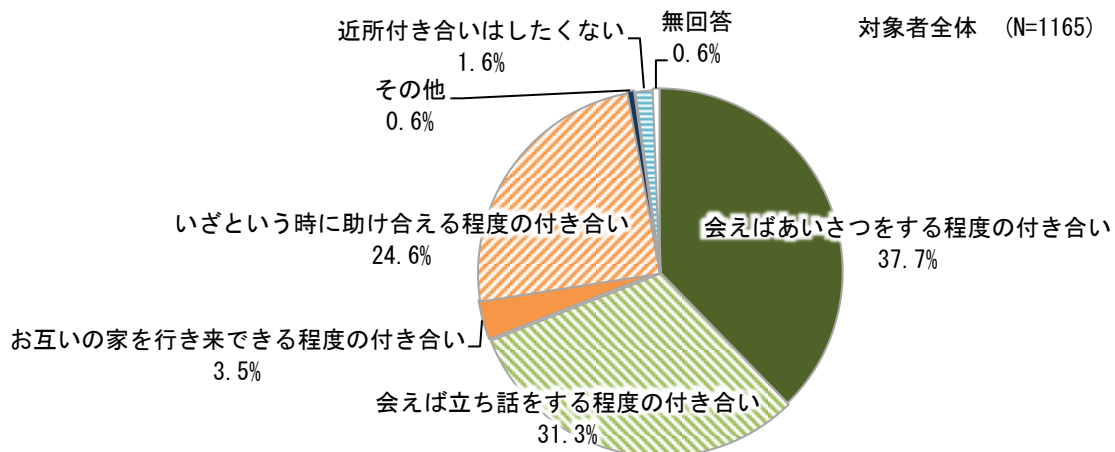
また、日常生活での相談先を男女別にみると「友人」が男性で 38.1%、女性で 66.0%と女性が高割合を示している。さらに年代別にみると 10 歳代～30 代では「友人」が 7 割を超えており、非常に高い。50 歳代以上では「役所などの公的相談窓口」が 15%程度と他の年代と比較し高い割合となっている。また、家族形態別にみると全形態で「家族・親戚」が 6 割以上と高く、次いで「友人」が高い。なお、「一人暮らし」では、「相談できる相手はいない」が他の年代と比較し若干高くなっている。

		家族・親戚	友人	学校や職場の知人・先生	近所の人	町内会関係者	民生委員・児童委員	福祉のまち推進センター	民間事業者	ボランティア・NPO法人などの民間団体	社会福祉協議会	役所などの公的相談窓口	その他	相談できる相手はいない	無回答
対象者全体 (N=1165)		82.5	53.8	18.1	10.1	5.4	1.6	1.2	1.5	0.9	1.4	12.0	3.0	3.1	1.1
性別	男性 (N=485)	74.6	38.1	16.3	9.5	8.2	1.6	1.0	2.5	1.2	1.4	15.7	3.5	5.6	1.9
	女性 (N=661)	89.0	66.0	19.7	10.9	3.5	1.7	1.2	0.6	0.3	1.4	9.1	2.6	1.2	0.6
	無回答 (N=19)	57.9	31.6	10.5	-	-	-	5.3	5.3	10.5	-	21.1	5.3	5.3	-
年齢	16～19 歳 (N=22)	81.8	95.5	36.4	-	-	-	-	-	-	-	-	4.5	-	-
	20～29 歳 (N=91)	85.7	71.4	33.0	-	-	-	-	1.1	-	-	1.1	1.1	4.4	-
	30～39 歳 (N=151)	90.7	70.2	38.4	7.9	1.3	-	-	-	-	-	9.9	2.6	2.6	-
	40～49 歳 (N=179)	87.7	62.0	27.4	10.6	1.1	1.1	0.6	2.8	2.2	1.1	8.4	1.7	2.2	1.1
	50～59 歳 (N=167)	83.8	56.9	26.3	9.0	1.8	-	-	1.2	-	1.8	15.0	3.0	2.4	0.6
	60～64 歳 (N=129)	79.8	42.6	9.3	12.4	3.9	1.6	-	0.8	1.6	1.6	14.7	3.1	3.9	-
	65～74 歳 (N=271)	76.4	44.6	2.6	13.7	11.8	3.0	1.8	1.8	-	1.5	13.3	4.8	3.7	3.3
	75 歳以上 (N=144)	79.9	32.6	0.7	13.2	13.2	4.9	5.6	2.1	1.4	3.5	18.8	2.1	2.8	0.7
無回答 (N=11)		54.5	54.5	18.2	-	-	-	-	-	18.2	-	18.2	9.1	9.1	-
家族形態	一人暮らし (N=206)	68.0	56.3	23.8	6.8	5.3	3.9	1.5	1.9	1.5	1.0	11.7	3.4	6.8	1.5
	夫婦だけの二世帯 (N=373)	85.8	46.4	11.3	14.2	7.5	2.4	1.3	1.1	0.5	1.9	15.3	4.3	1.6	1.3
	二世帯世帯（親と子） (N=479)	86.4	58.2	21.7	8.8	4.0	0.4	1.3	1.9	0.6	1.3	9.0	1.3	2.3	1.0
	三世帯世帯（親・子・孫） (N=66)	89.4	62.1	15.2	13.6	7.6	-	-	-	-	1.5	15.2	1.5	4.5	-
	その他 (N=28)	75.0	42.9	14.3	-	-	-	-	-	-	-	10.7	14.3	3.6	-
無回答 (N=13)		53.8	46.2	15.4	-	-	-	-	-	15.4	-	23.1	7.7	7.7	-
50.0		対象者全体と比較し10%以上高い							50.0	対象者全体と比較し10%以上低い					

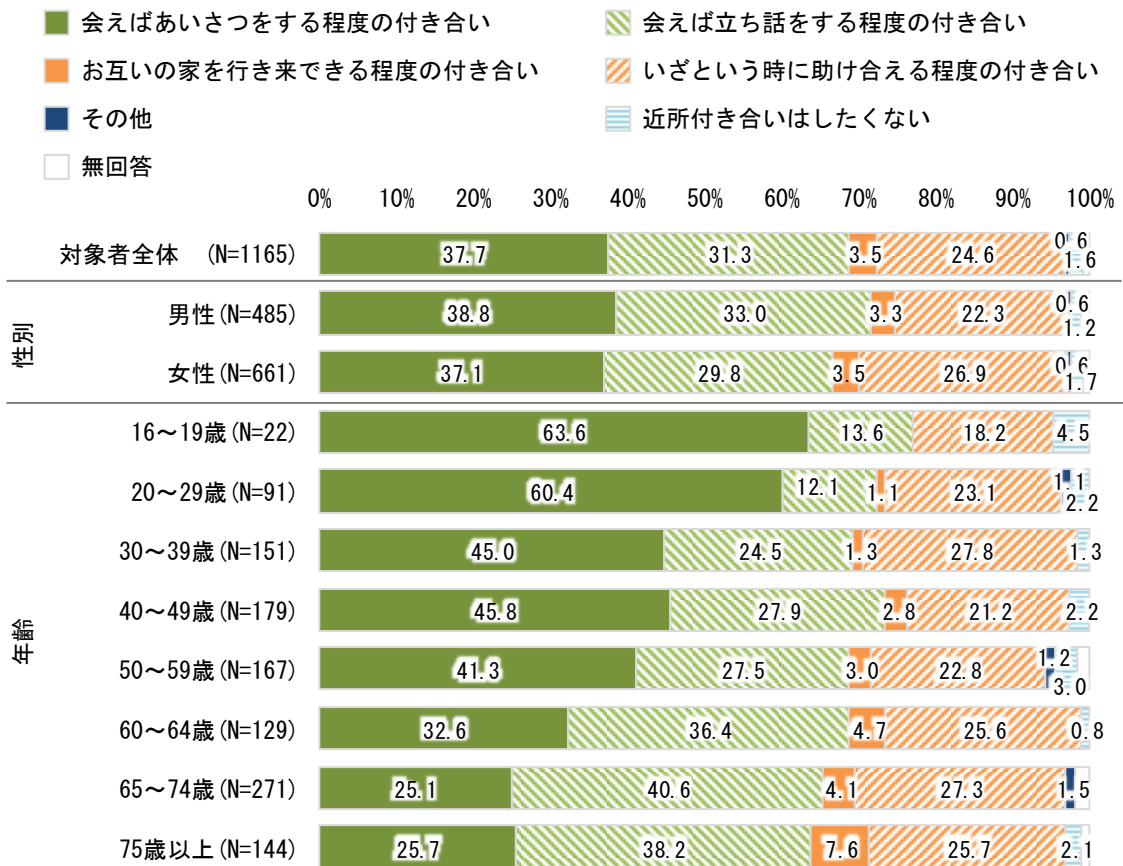
今後理想とする近所付き合いの程度

【問 19】あなたは、近所の人と今後どのような付き合いをしていきたいですか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

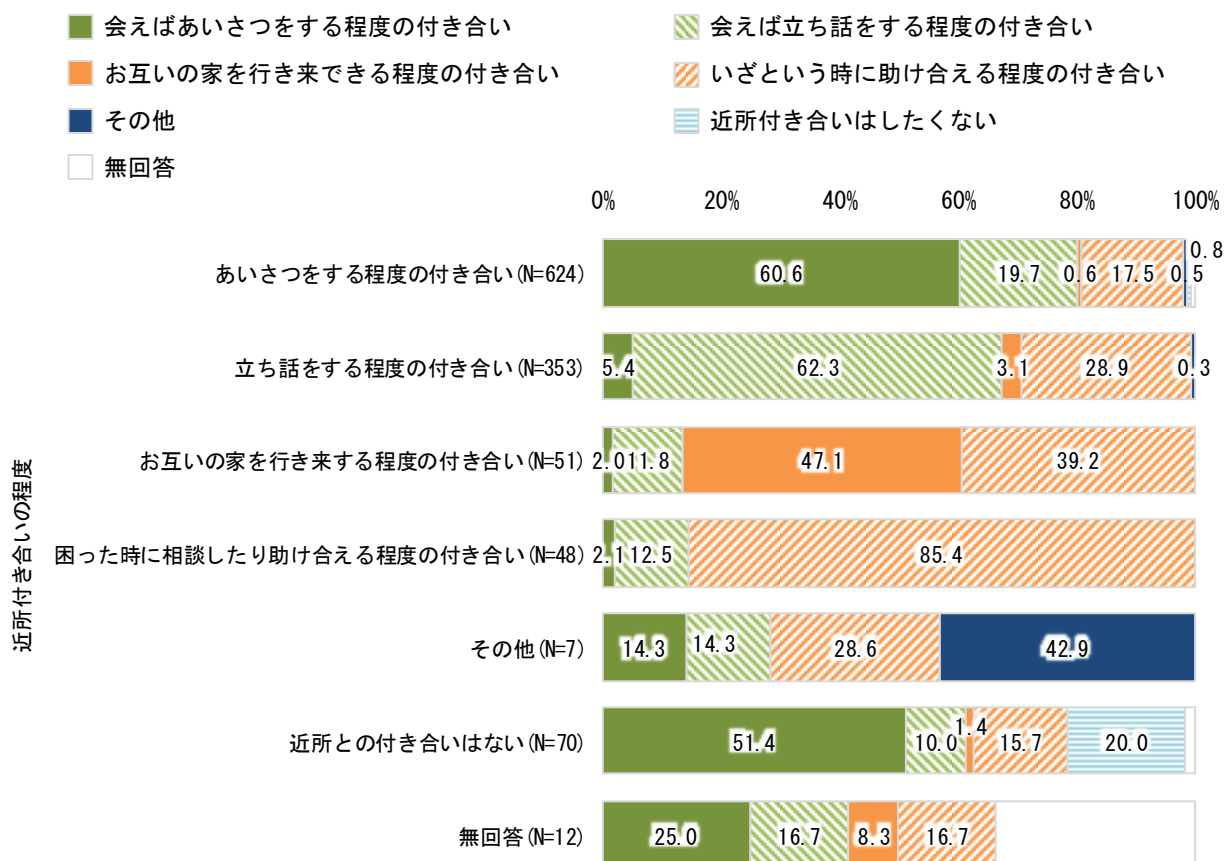
今後理想とする近所付き合いの程度については、「会えばあいさつをする程度の付き合い」が37.7%とやや高く、次いで「会えば立ち話をする程度の付き合い」が31.3%、「いざという時に助け合える程度の付き合い」が24.6%となっている。



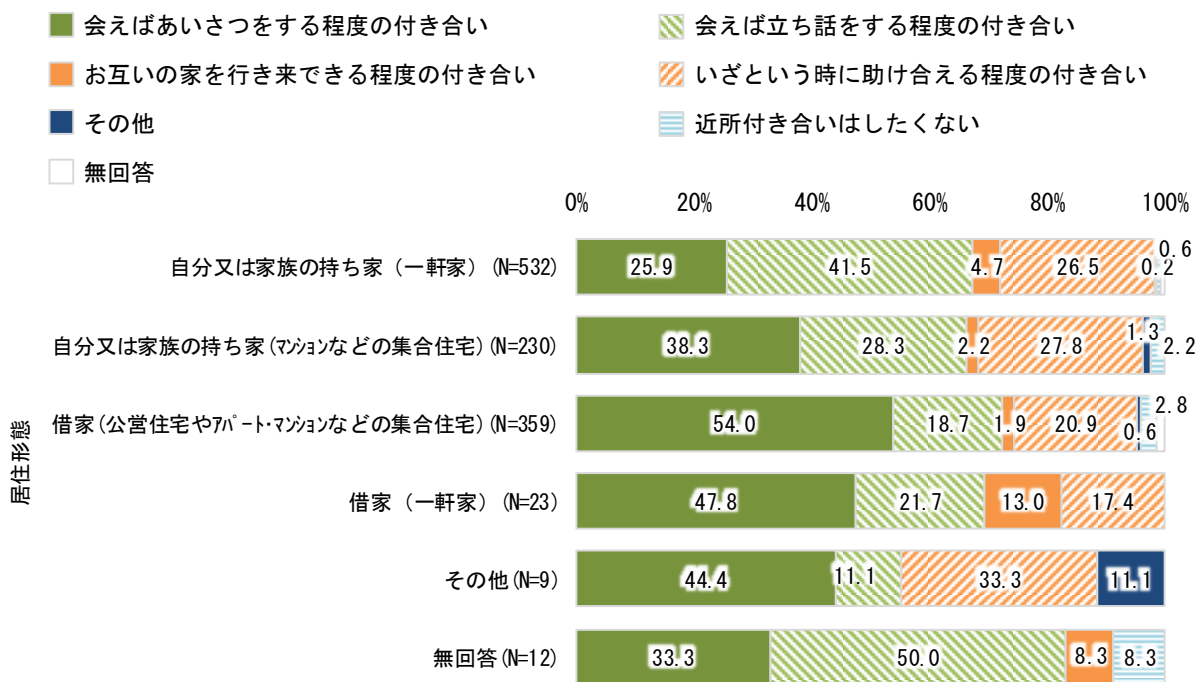
また、今後理想とする近所付き合いの程度を男女別にみると男女共に「会えばあいさつする程度の付き合い」、「会えば立ち話をする程度の付き合い」では3割程度と大きな差は見られない。さらに年代別にみると10歳代を除く年代で「いざという時に助け合える程度の付き合い」が比較的同じ割合である。一方、年代が低くなるにつれて「会えばあいさつをする程度の付き合い」が高くなる傾向にある。特に、10歳代、20歳代では6割を超えて高い。



また、現在の近所付き合いの程度（問 17 の回答）別にみると、現在の近所付き合いの程度と理想とする近所付き合いの程度は概ね一致している。しかし、『近所との付き合いはない』と回答した方については、約 8 割が何かしらの近所付き合いがあることを理想と考えており、現在の状況と理想の状況に大きな乖離が見られる。また、『あいさつをする程度の付き合い』、『立ち話をする程度の付き合い』、及び『お互いの家を行き来する程度の付き合い』であると回答した方のうち、3 割以上がもう一步踏み込んだ近所付き合いを理想としている。



居住形態（問 6 の回答）別に理想とする近所付き合いの程度をみると『自分又は家族の持ち家（一軒家）』を除いた全居住形態では「会えばあいさつをする程度の付き合い」が最も高く、特に『借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）』が 54.0%と高い割合となっている。一方、『自分又は家族の持ち家（一軒家）』では「会えば立ち話をする程度の付き合い」が 41.5%と最も高くなっている。

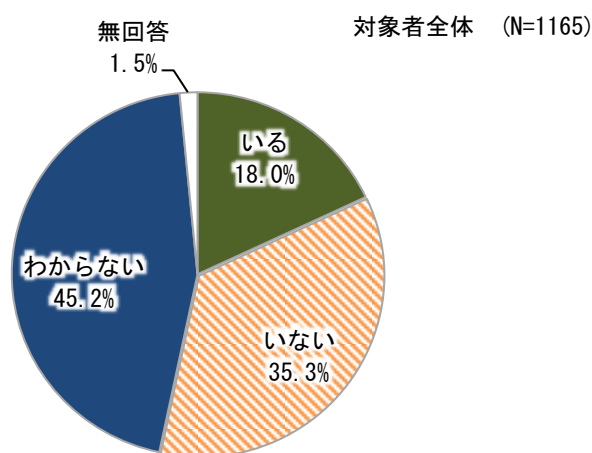


4 住民による支え合い活動について

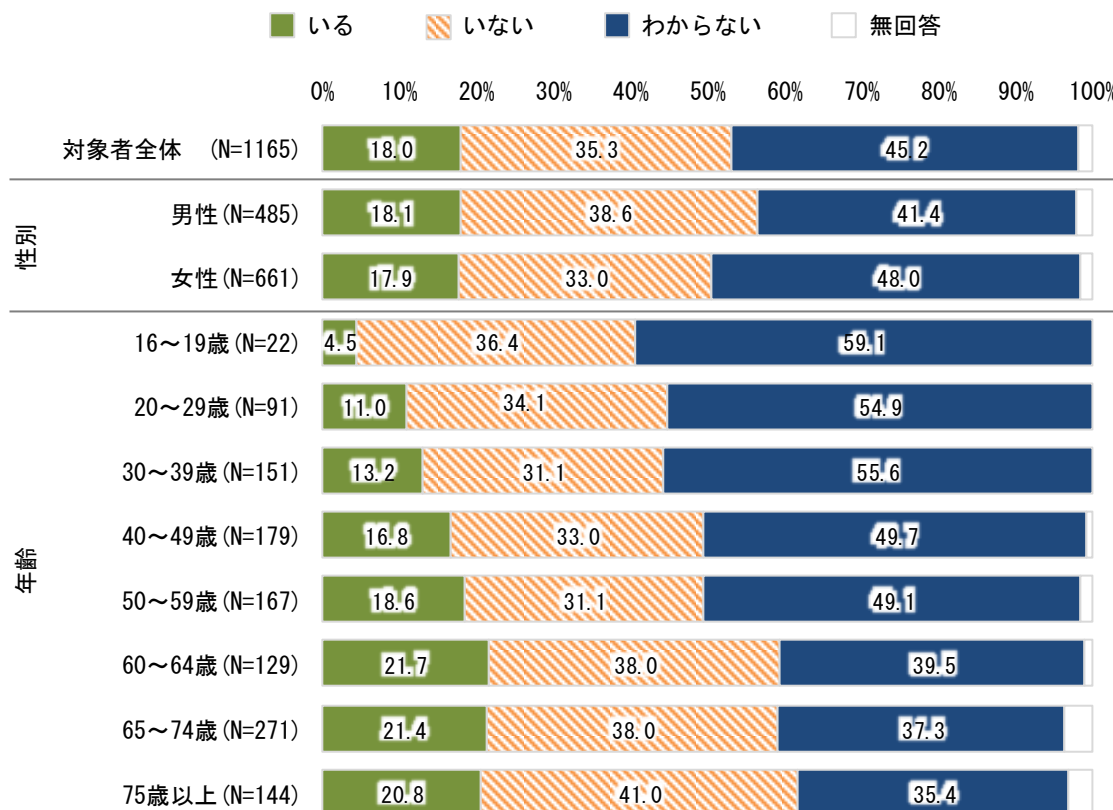
近所に手助けが必要な方がいるかの認知度

【問 20】あなたのご近所で、日常生活に手助けが必要な方はいますか。あてはまるもの 1 つに ○をつけてください。

近所に手助けが必要な方がいるかの認知度については、「わからない」が 45.2%と最も高く、次いで「いない」が 35.3%となっている。



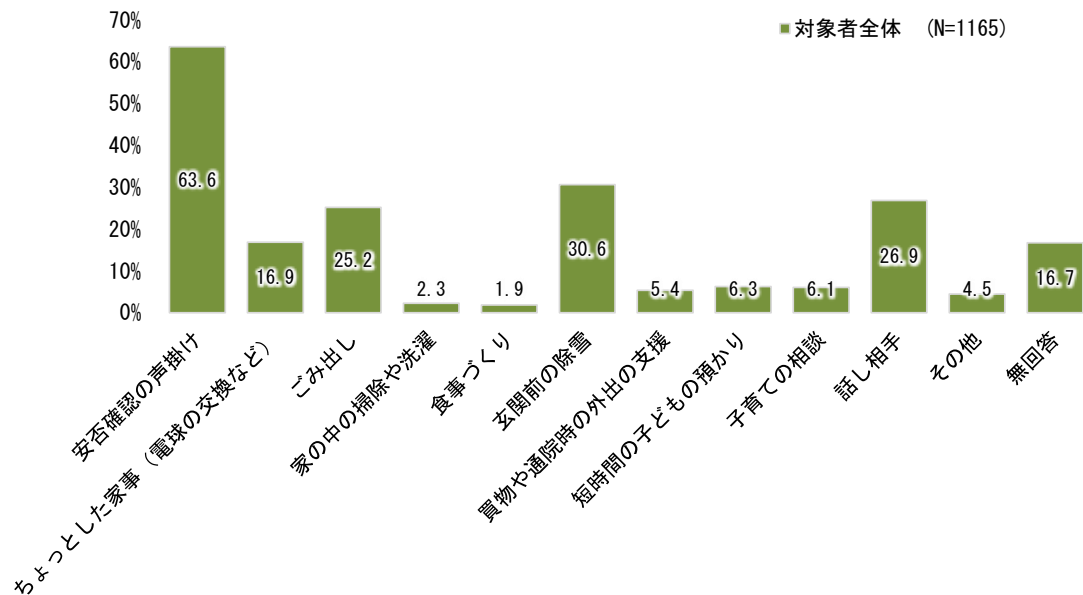
また、近所に手助けが必要な方がいるかの認知度を男女別にみると男女共に「わからない」が 4 割を超えて最も高く、次いで「いない」が 3 割を超えており、男女別の差は見られない。さらに年代別にみると 16 歳～64 歳では「わからない」が最も高い。一方、60 歳代、70 歳代では「いる」が他の年代と比較し、やや高い割合となっている。



近所の手助けが必要な方へできること

【問 21-①】あなたのご近所で日常生活に手助けが必要な方がいる場合、あなたはどのようなことができますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

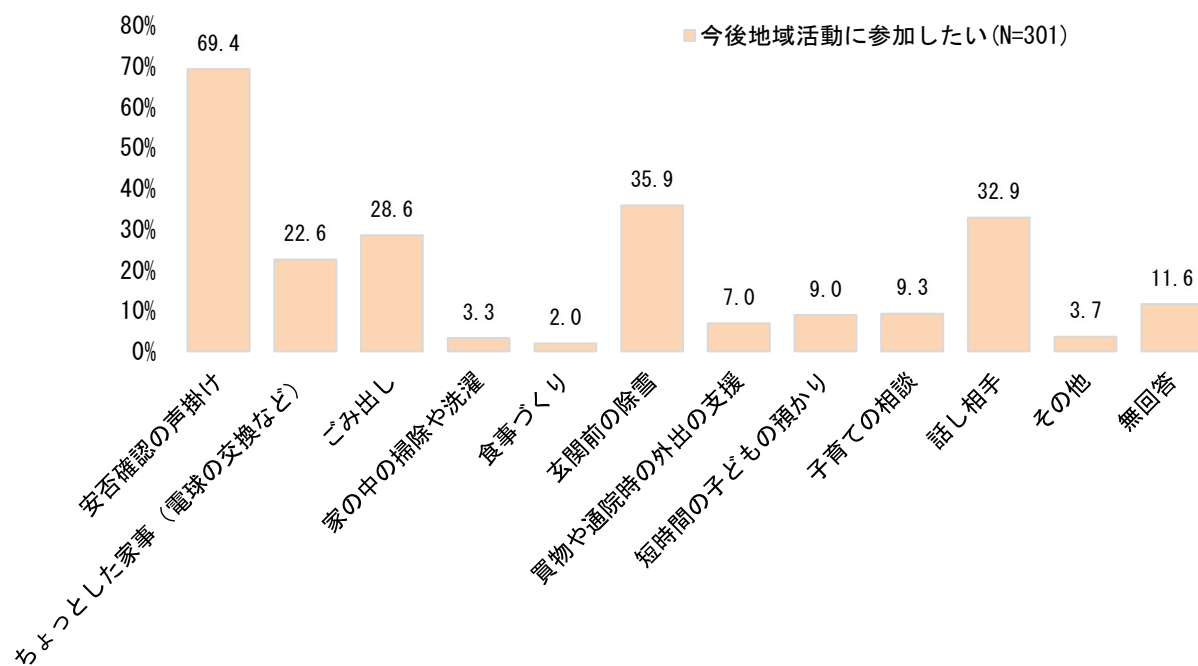
近所の手助けが必要な方へできることについては、「安否確認の声掛け」が63.6%と最も高く、次いで「玄関前の除雪」が30.6%、「話し相手」が26.9%となっている。



また、近所の手助けが必要な方へできることを男女別にみると「玄関前の除雪」が男性で39.4%と女性で24.8%を比較し男性の割合が高い。さらに年代別にみると全年代で「安否確認の声掛け」が最も高く、特に、50歳代は74.3%と最も高い。10歳代では「玄関前の除雪」が最も高い割合となっている。

		安否確認の声掛け	ちょっとした家事（電球の交換など）	ごみ出し	家の中の掃除や洗濯	食事づくり	玄関前の除雪	買物や通院時の外出の支援	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	話し相手	その他	無回答
対象者全体 (N=1165)		63.6	16.9	25.2	2.3	1.9	30.6	5.4	6.3	6.1	26.9	4.5	16.7
性別	男性 (N=485)	61.4	19.4	22.3	1.0	0.8	39.4	3.1	2.3	2.7	19.6	4.1	17.1
	女性 (N=661)	65.8	15.3	27.4	3.3	2.7	24.8	7.1	8.9	8.5	32.4	4.5	16.3
無回答 (N=19)		42.1	10.5	26.3	-	-	10.5	5.3	15.8	10.5	21.1	10.5	21.1
年齢	16～19歳 (N=22)	45.5	22.7	22.7	4.5	-	50.0	9.1	18.2	4.5	36.4	4.5	13.6
	20～29歳 (N=91)	63.7	15.4	24.2	4.4	2.2	31.9	4.4	14.3	9.9	38.5	4.4	11.0
	30～39歳 (N=151)	61.6	17.2	18.5	0.7	2.0	36.4	5.3	7.9	11.9	36.4	3.3	15.9
	40～49歳 (N=179)	72.1	22.3	22.9	1.1	1.1	35.8	2.8	8.4	9.5	24.6	2.8	10.6
	50～59歳 (N=167)	74.3	20.4	25.7	4.2	1.8	25.7	6.0	3.6	6.0	24.0	4.2	15.6
	60～64歳 (N=129)	69.0	17.8	28.7	1.6	2.3	31.8	7.0	7.0	7.0	27.9	3.9	9.3
	65～74歳 (N=271)	60.9	14.8	30.6	3.0	1.8	31.4	7.0	3.7	1.5	20.3	5.2	20.7
	75歳以上 (N=144)	47.9	9.7	22.2	1.4	2.8	18.8	4.2	2.1	1.4	25.7	6.3	29.9
	無回答 (N=11)	36.4	9.1	27.3	-	-	18.2	-	9.1	9.1	27.3	18.2	18.2
		50.0	対象者全体と比較し10%以上高い						50.0	対象者全体と比較し10%以上低い			

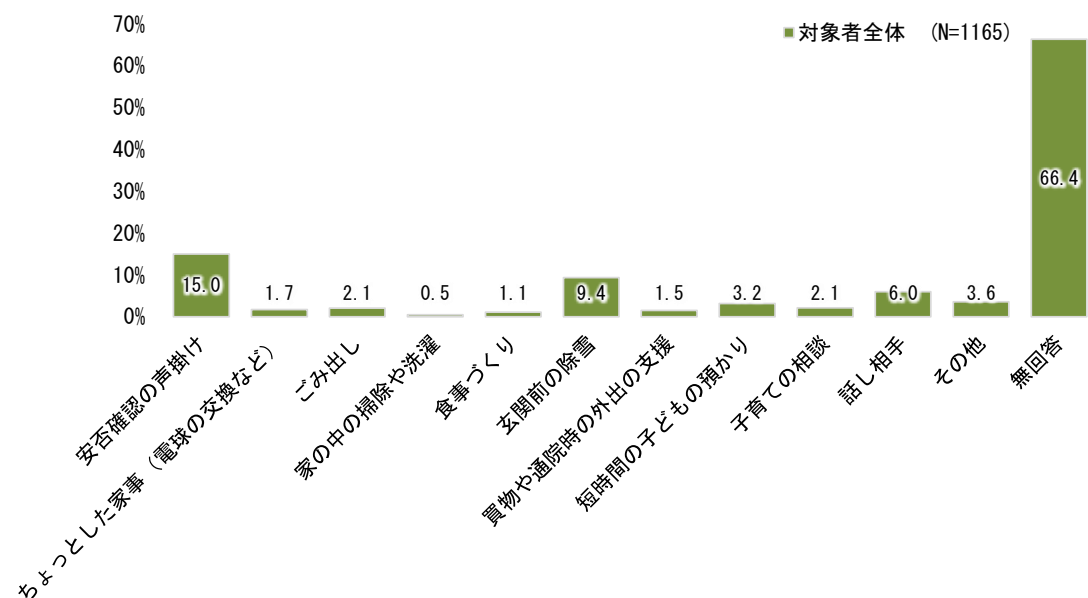
また、問 15 の地域活動への参加意向で地域活動に『参加したい』と回答した方の今後、参加してみたい活動をみると、「安否確認の声掛け」が 69.4%と最も高く、次いで「玄関前の除雪」及び「話し相手」が 3 割を超えており、「ごみ出し」及び「ちょっとした家事（電球の交換など）」が 2 割を超えている。



近所の方に手助けしてほしいこと

【問 21-②】あなたは、日常生活の中で近所の人に手助けしてほしいことはありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

近所の方に手助けしてほしいことについては、「安否確認の声掛け」が 15.0%と最も高く、次いで「玄関前の除雪」が 9.4%となっている。無回答の割合が 66.4%と高いが「手助けしてほしいことが思い当たらない」という意向が多く含まれている。



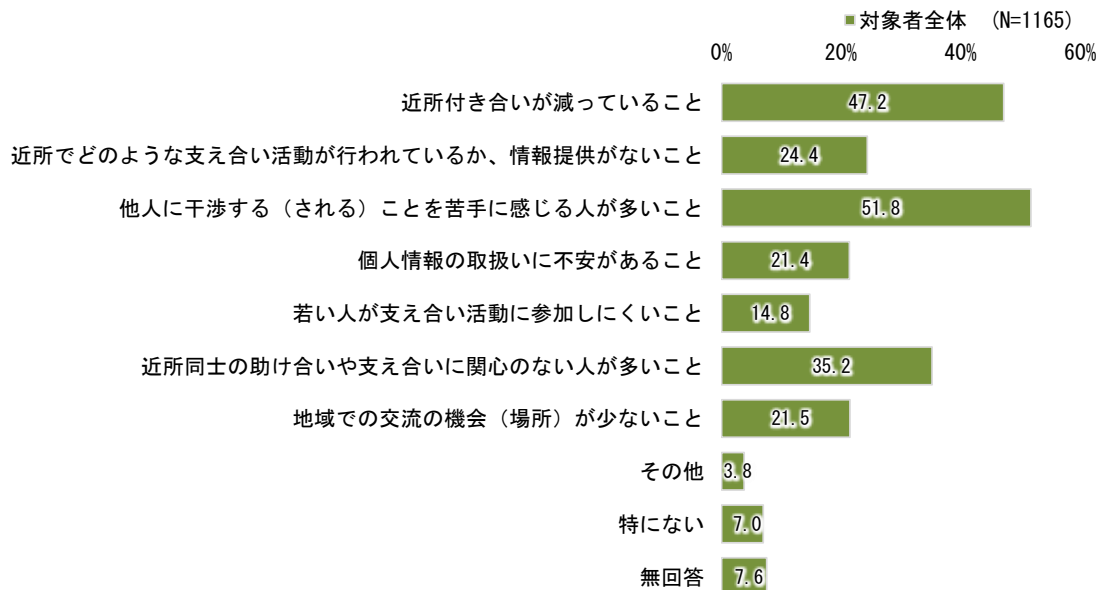
また、近所の方に手助けしてほしいことを男女別にみると「安否確認の声掛け」が男性で 17.3%と女性で 13.3%を比較し男性が高い割合となっている。75歳以上で「安否確認の声掛け」が 22.2%と高く、20歳代では「玄関前の除雪」が 17.6%と他の年代と比較し高い割合となっている。

			安否確認の声掛け	ちょっとした家事（電球の交換など）	ごみ出し	家の中の掃除や洗濯	食事づくり	玄関前の除雪	買物や通院時の外出の支援	短時間の子ども預かり	子育ての相談	話し相手	その他	無回答
対 象 者 全 体 (N=1165)			15.0	1.7	2.1	0.5	1.1	9.4	1.5	3.2	2.1	6.0	3.6	66.4
性別	男	性 (N=485)	17.3	1.4	1.4	0.6	1.2	7.8	0.8	1.2	0.8	5.6	3.3	67.8
	女	性 (N=661)	13.3	1.7	2.4	0.5	1.1	10.4	2.0	4.2	3.2	6.2	3.6	65.5
		無 回 答 (N=19)	15.8	10.5	5.3	-	-	10.5	5.3	15.8	-	10.5	10.5	57.9
年齢	16	～ 19 歳 (N=22)	9.1	-	-	-	-	13.6	-	4.5	4.5	-	-	72.7
	20	～ 29 歳 (N=91)	17.6	1.1	2.2	2.2	1.1	17.6	1.1	6.6	6.6	7.7	1.1	57.1
	30	～ 39 歳 (N=151)	9.9	-	0.7	0.7	0.7	12.6	2.0	8.6	6.6	7.9	0.7	64.2
	40	～ 49 歳 (N=179)	15.6	0.6	1.1	-	0.6	6.1	0.6	7.3	4.5	5.0	3.4	67.6
	50	～ 59 歳 (N=167)	11.4	-	1.2	0.6	1.2	4.2	0.6	-	-	4.2	3.0	77.2
	60	～ 64 歳 (N=129)	13.2	0.8	-	0.8	1.6	6.2	3.1	-	-	3.9	1.6	75.2
	65	～ 74 歳 (N=271)	16.2	3.3	4.1	0.4	1.5	9.2	1.8	-	-	5.2	5.2	69.0
	75	歳 以 上 (N=144)	22.2	4.9	4.2	-	1.4	13.2	2.1	1.4	-	11.1	8.3	47.2
	無 回 答 (N=11)		18.2	9.1	-	-	-	9.1	-	18.2	-	-	9.1	54.5
			50.0	対象者全体と比較し10%以上高い						50.0	対象者全体と比較し10%以上低い			

住みよい地域づくりのさまたげと感ずること

【問 22】ご近所同士がお互いに力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえでさまたげとなることは何だと思えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

住みよい地域づくりのさまたげと感ずることについては、「他人に干渉する（される）ことを苦手に感ずる人が多いこと」が 51.8%と 5 割を超えて高く、次いで「近所付き合いが減っていること」が 47.2%、「近所同士の助け合いや支え合いに関心のない人が多いこと」が 35.2%となっている。



また、住みよい地域づくりのさまたげと感ずることを男女別にみると「近所同士の助け合いや支え合いに関心のない人が多いこと」が男性で 35.2%と女性で 32.2%を比較し、男女の差はみられない。さらに年代別にみると 40 歳代、50 歳代では「他人に干渉する（される）ことを苦手に感ずる人が多いこと」が 6 割を超えており、他の年代と比較し割合が高い。

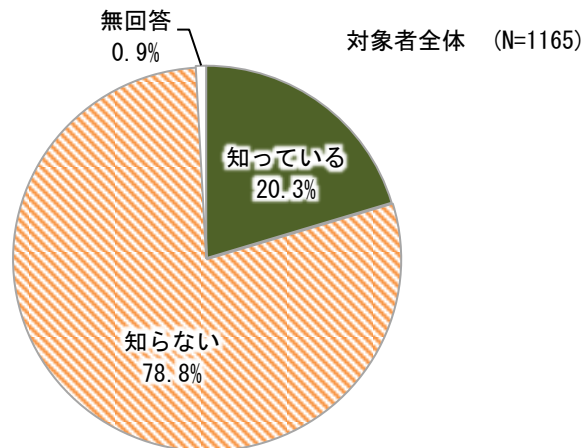
		近所付き合いが減っていること	近所でどのような支え合い活動が行われているか、情報提供がないこと	他人に干渉する（される）ことを苦手に感ずる人が多いこと	個人情報の取扱いに不安があること	若い人が支え合い活動に参加しにくいこと	近所同士の助け合いや支え合いに関心のない人が多いこと	地域での交流の機会（場所）が少ないこと	その他	特になし	無回答
対象者全体 (N=1165)		47.2	24.4	51.8	21.4	14.8	35.2	21.5	3.8	7.0	7.6
性別	男性 (N=485)	49.9	23.5	49.7	19.6	15.9	39.4	24.1	3.5	6.8	6.4
	女性 (N=661)	45.2	25.0	53.4	22.4	13.9	32.2	19.5	4.1	7.0	8.2
	無回答 (N=19)	47.4	26.3	47.4	31.6	15.8	31.6	21.1	-	10.5	15.8
年齢	16 ～ 19 歳 (N=22)	63.6	36.4	40.9	9.1	40.9	45.5	40.9	-	13.6	-
	20 ～ 29 歳 (N=91)	48.4	25.3	50.5	25.3	25.3	29.7	20.9	7.7	6.6	5.5
	30 ～ 39 歳 (N=151)	43.0	21.2	50.3	21.2	23.8	36.4	23.8	5.3	4.0	5.3
	40 ～ 49 歳 (N=179)	45.3	25.7	60.3	24.6	12.3	33.5	20.1	4.5	5.6	3.4
	50 ～ 59 歳 (N=167)	51.5	31.1	61.7	29.9	17.4	35.3	19.2	3.0	5.4	5.4
	60 ～ 64 歳 (N=129)	48.8	27.1	52.7	21.7	10.9	41.9	23.3	3.1	5.4	7.0
	65 ～ 74 歳 (N=271)	46.5	22.9	47.2	18.8	9.2	32.5	20.7	3.3	7.4	10.7
	75 歳以上 (N=144)	45.8	16.7	41.7	11.1	9.0	38.2	20.8	2.1	13.2	13.9
	無回答 (N=11)	45.5	18.2	45.5	27.3	9.1	18.2	18.2	-	9.1	18.2
50.0		対象者全体と比較し10%以上高い					50.0	対象者全体と比較し10%以上低い			

5 札幌市の地域福祉施策について

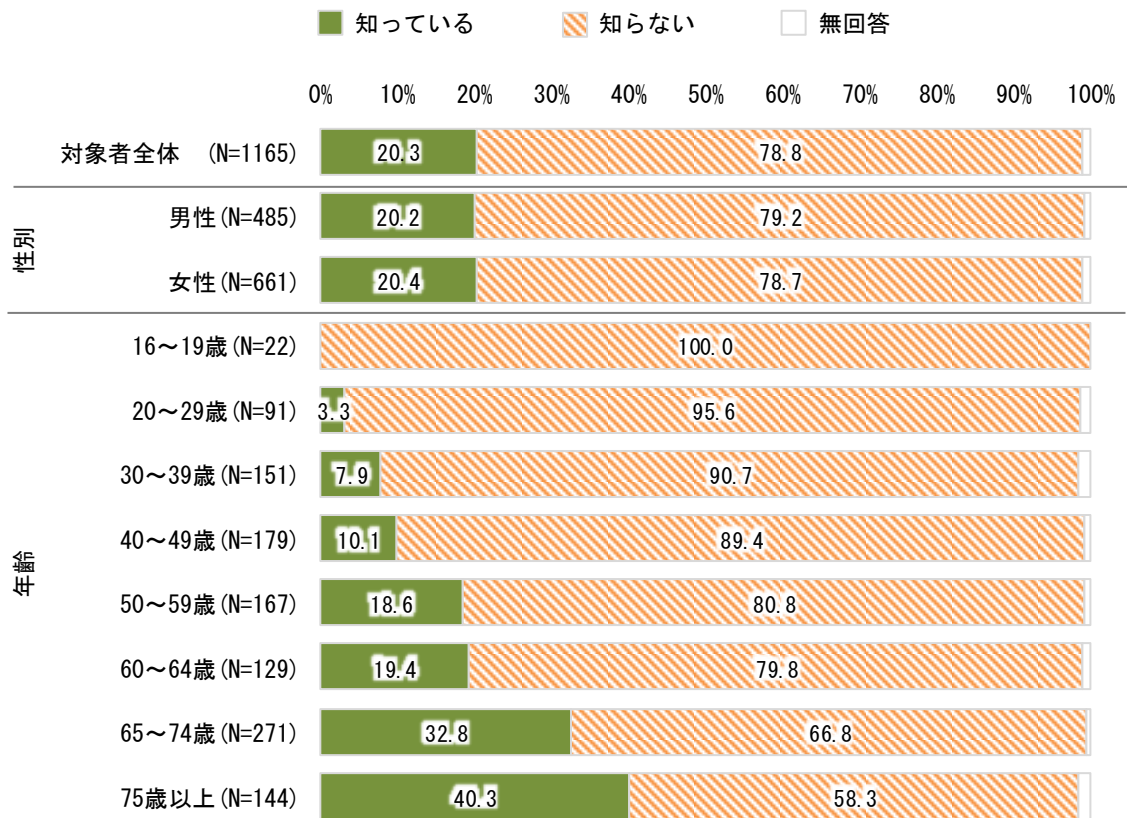
福祉のまち推進センターの認知度

【問 23】あなたは、福祉のまち推進センター（通称：福まち）を知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

福祉のまち推進センターの認知度については、「知らない」が 78.8%と最も高く、「知っている」が 20.3%となっている。



また、福祉のまち推進センターの認知度を男女別にみると男女共に「知らない」が7割を超えて高く、「知っている」が2割程度となっている。さらに年代別にみると全年代で「知らない」の割合が高い。一方、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高く、特に、75歳以上が40.3%と最も高い。

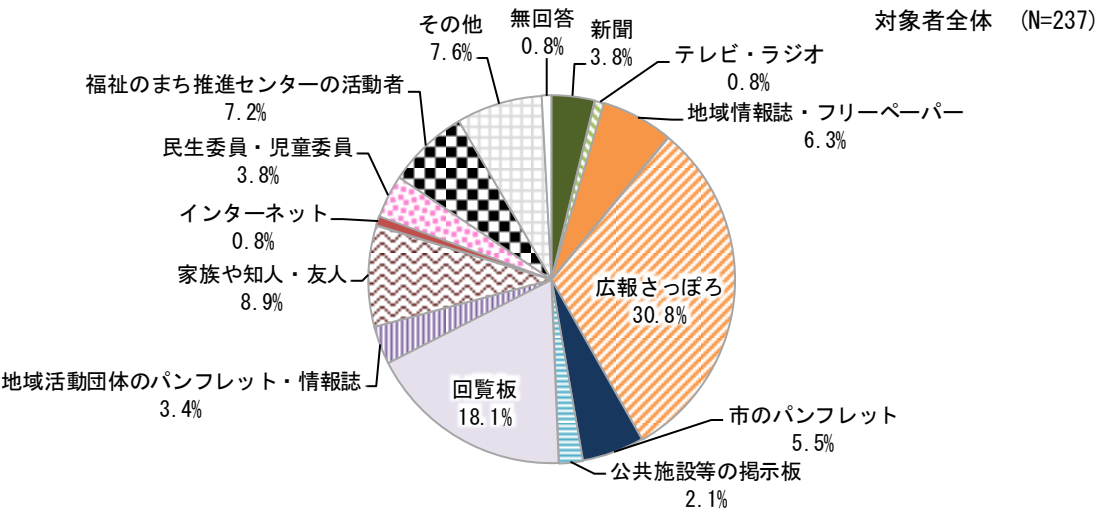


福祉のまち推進センターを知った手段

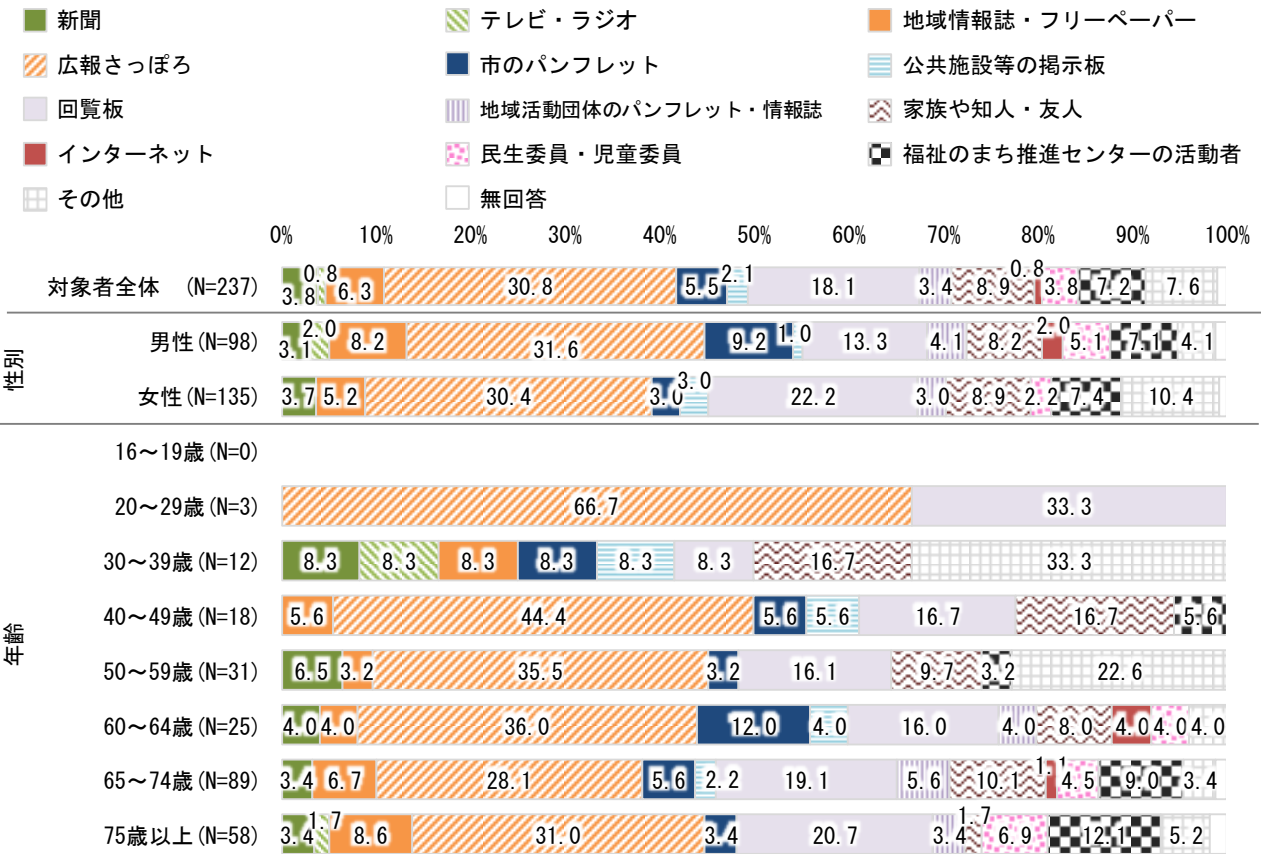
【問 24】あなたは、福祉のまち推進センターを何から知りましたか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

＜問 23 で「1 知っている」と回答した方が対象＞

「知っている」と回答した方の福祉のまち推進センターを知った手段については、「広報さっぽろ」が 30.8%と最も高く、次いで「回覧板」が 18.1%となっている。



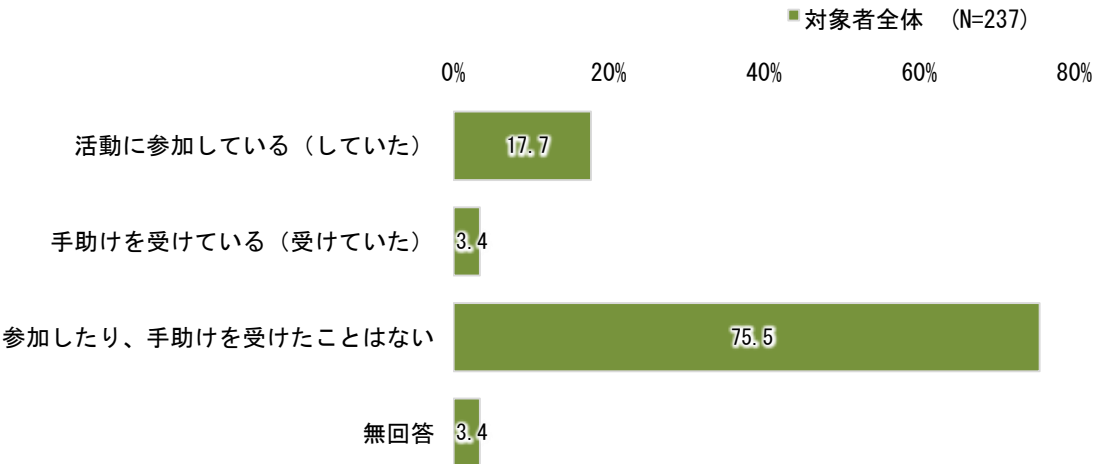
また、福祉のまち推進センターを知った手段を男女別にみると男女共に「広報さっぽろ」が最も高い。次いで「回覧板」が高く、男性で 13.3%と女性で 22.2%を比較し女性の割合が高い。さらに年代別にみると 30 歳代を除く年代で「広報さっぽろ」が高い。30 歳代、40 歳代で「家族や知人・友人」が他の年代と比較し高い割合となっている。



福祉のまち推進センターの活動への参加や手助けを受けた経験

【問 25】あなたは、福祉のまち推進センターの活動に参加したり、手助けを受けたことはありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

福祉のまち推進センターの活動への参加や手助けを受けた経験については、「参加したり、手助けを受けたことはない」が 75.5%と最も高く、次いで「活動に参加している（していた）」が 17.7%となっている。



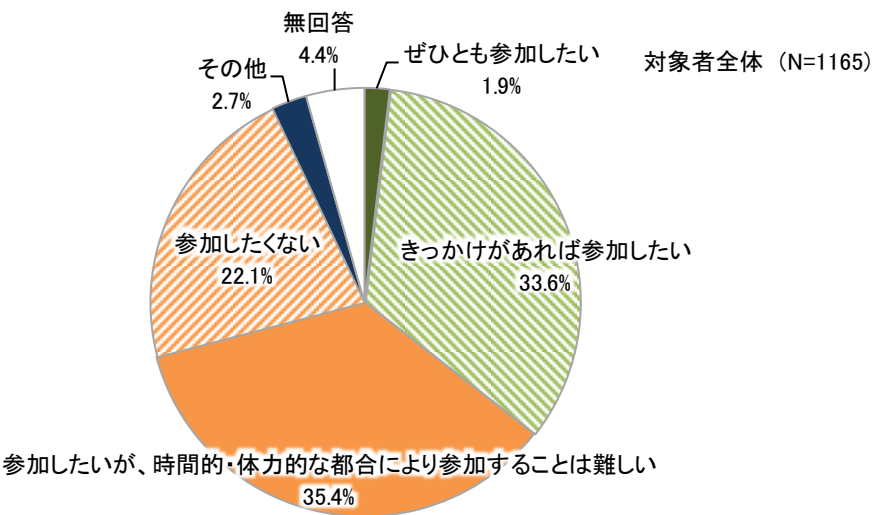
また、福祉のまち推進センターの活動への参加や手助けを受けた経験を男女別にみると「活動に参加している（していた）」が男性で 21.4%と女性で 15.6%を比較し男性の割合が高い。さらに年代別にみると、60歳以上では「活動に参加している（していた）」が2割を超えて高い。

		活動に参加している（していた）	手助けを受けている（受けていた）	参加したり、手助けを受けたことはない	無回答
対象者全体 (N=237)		17.7	3.4	75.5	3.4
性別	男性 (N=98)	21.4	3.1	71.4	4.1
	女性 (N=135)	15.6	3.0	79.3	2.2
	無回答 (N=4)	-	25.0	50.0	25.0
年齢	16 ～ 19 歳 (N=0)	-	-	-	-
	20 ～ 29 歳 (N=3)	-	-	100.0	-
	30 ～ 39 歳 (N=12)	8.3	-	91.7	-
	40 ～ 49 歳 (N=18)	5.6	5.6	88.9	-
	50 ～ 59 歳 (N=31)	9.7	-	87.1	3.2
	60 ～ 64 歳 (N=25)	20.0	-	76.0	4.0
	65 ～ 74 歳 (N=89)	22.5	2.2	75.3	-
	75 歳 以上 (N=58)	20.7	8.6	60.3	10.3
	無回答 (N=1)	-	-	100.0	-
		50.0	対象者全体と比較し10%以上高い		
		50.0	対象者全体と比較し10%以上低い		

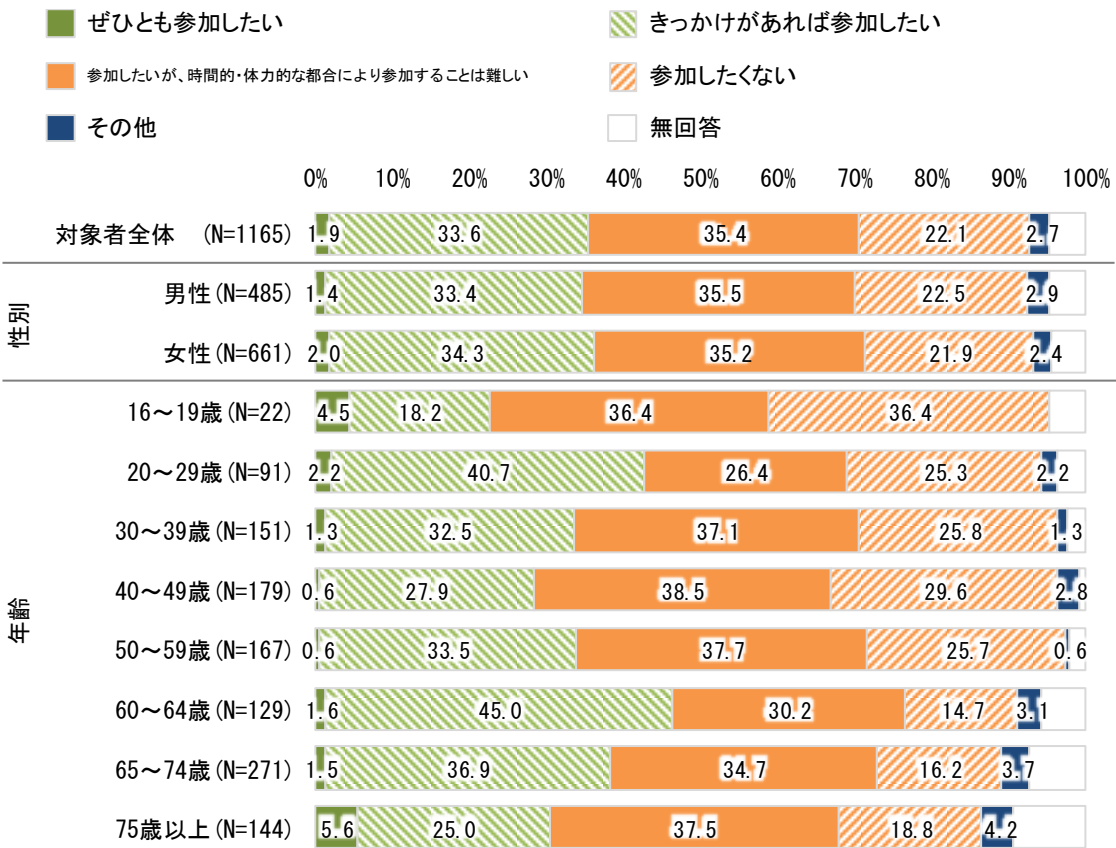
福祉のまち推進センターの活動への参加意欲

【問 26】 あなたは、今後（現在参加している方は引き続き）、福祉のまち推進センターが行っている支え合い活動に参加したいですか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

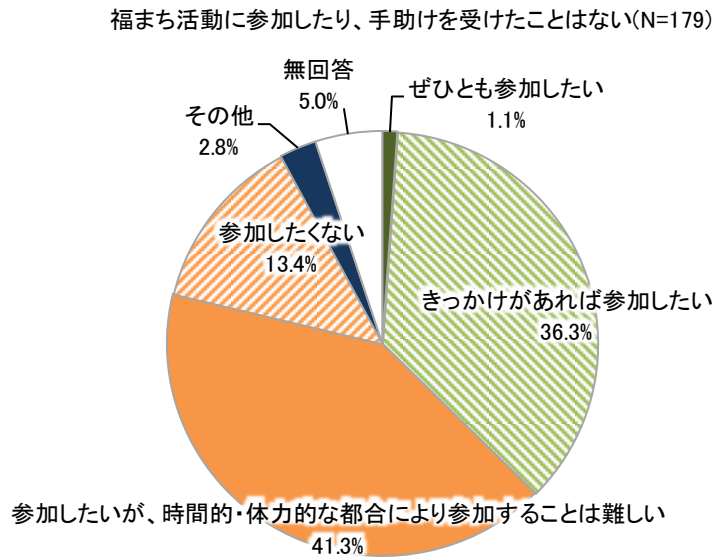
福祉のまち推進センターの活動への参加意欲については、「参加したいが、時間的・体力的な都合により参加することは難しい」が 35.4%と最も高く、次いで「きっかけがあれば参加したい」が 33.6%、「参加したくない」が 22.1%となっている。



また、福祉のまち推進センターの活動への参加意欲を男女別にみると男女共に「参加したいが、時間的・体力的な都合により参加することは難しい」が高く、次いで「きっかけがあれば参加したい」となっている。さらに年代別にみると 20 歳代、60 歳～64 歳では「きっかけがあれば参加したい」が 4 割を超えて高い割合となっている。



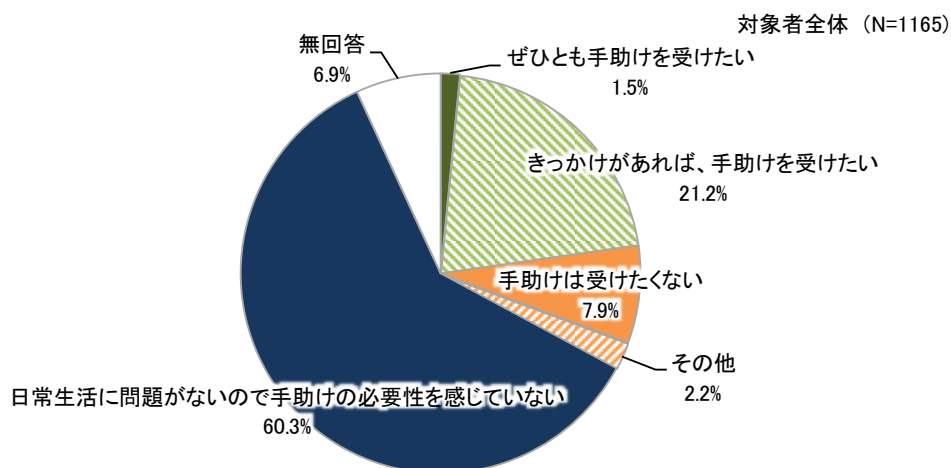
また、問 25 で福祉のまち推進センターの活動に『参加したり、手助けを受けたことはない』と回答した方についてみると、「参加したいが時間的・体力的な都合により参加することが難しい」が 41.3%と高く、36.3%の方が「きっかけがあれば参加したい」と参加意欲のある考えとなっている。一方、「参加したくない」では、13.4%と低い割合となっている。



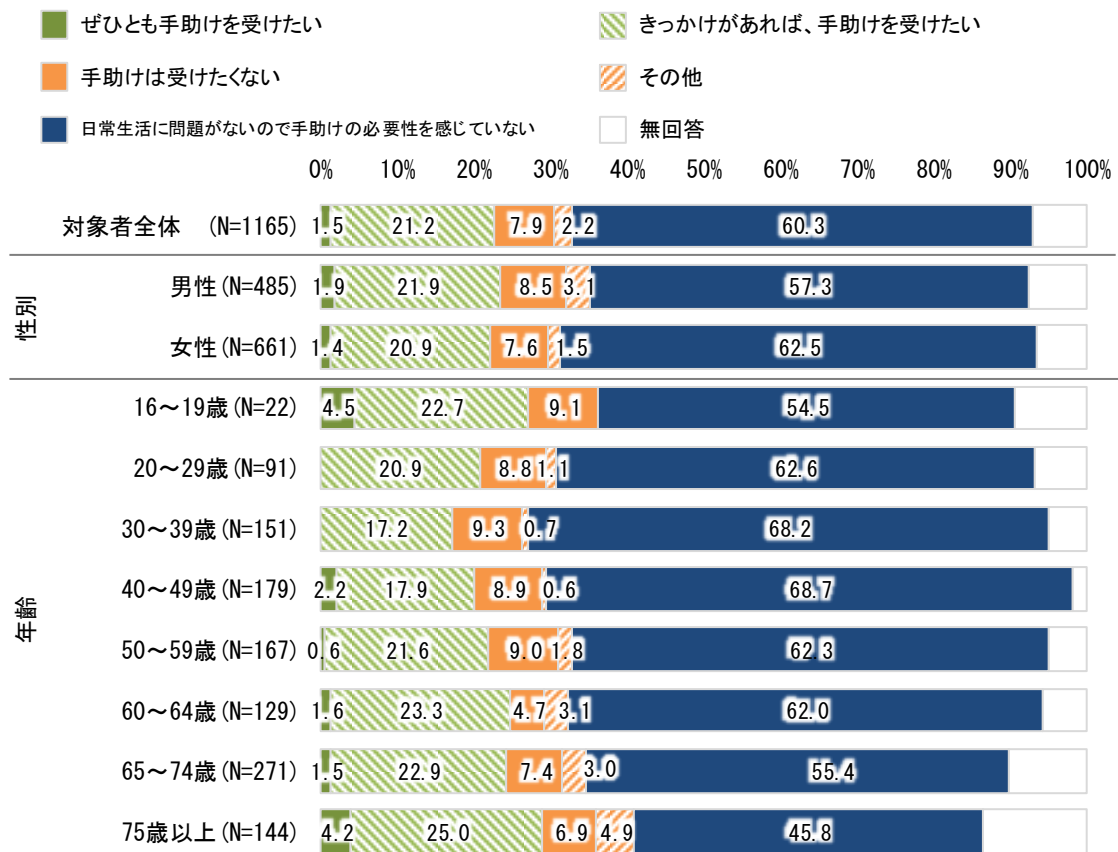
福祉のまち推進センターによる手助けの享受

【問 27】 あなたは、今後（現在支援を受けている方は引き続き）、福祉のまち推進センターによる手助けを受けたいですか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

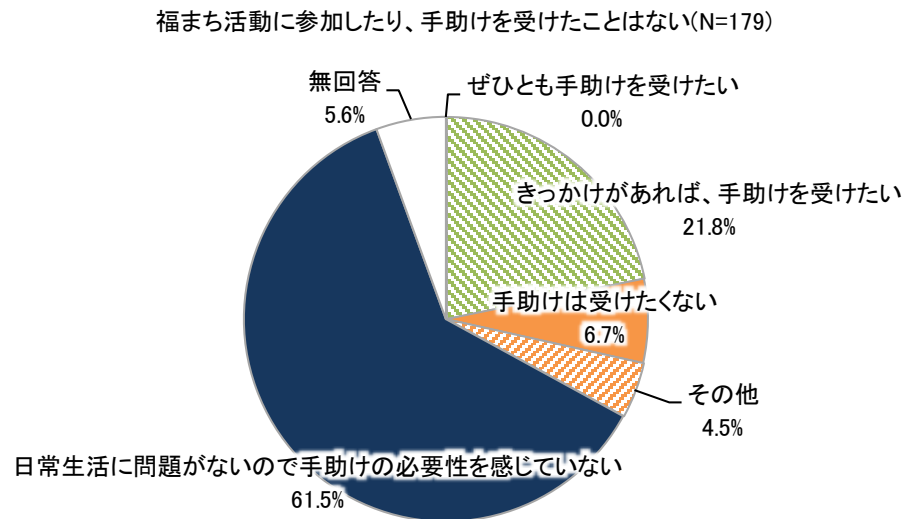
福祉のまち推進センターによる手助けの享受については、「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じない」が 60.3%と最も高く、次いで「きっかけがあれば、手助けを受けたい」が 21.2%となっている。



また、福祉のまち推進センターによる手助けの享受を男女別にみると男女共に「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じない」が5割以上と最も高い。さらに年代別にみると全年代で「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じていない」が高いが、75歳以上では「きっかけがあれば、手助けを受けたい」が 25.0%と他の年代と比較し最も高い。



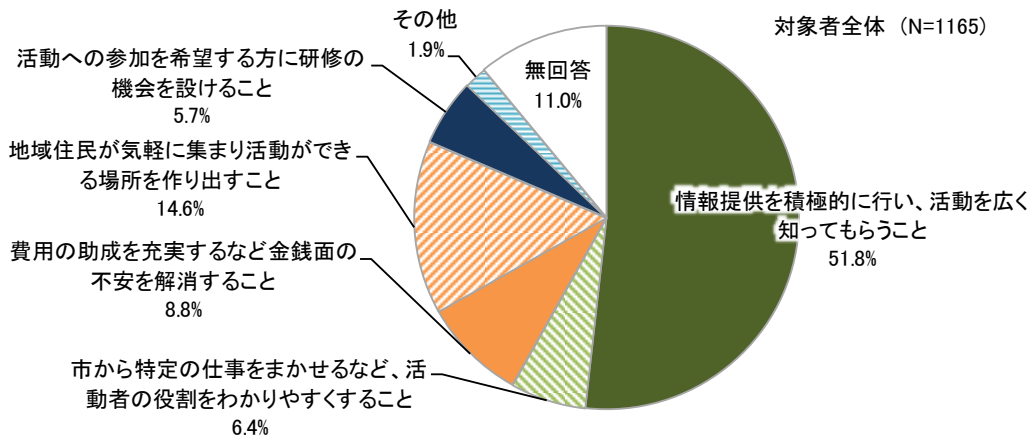
また、問 25 で福祉のまち推進センターの活動に『参加したり、手助けを受けたことはない』と回答した方についてみると、「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じていない」の割合が 61.5%と最も高いが、21.8%の人は「きっかけがあれば、手助けを受けたい」と考えている。



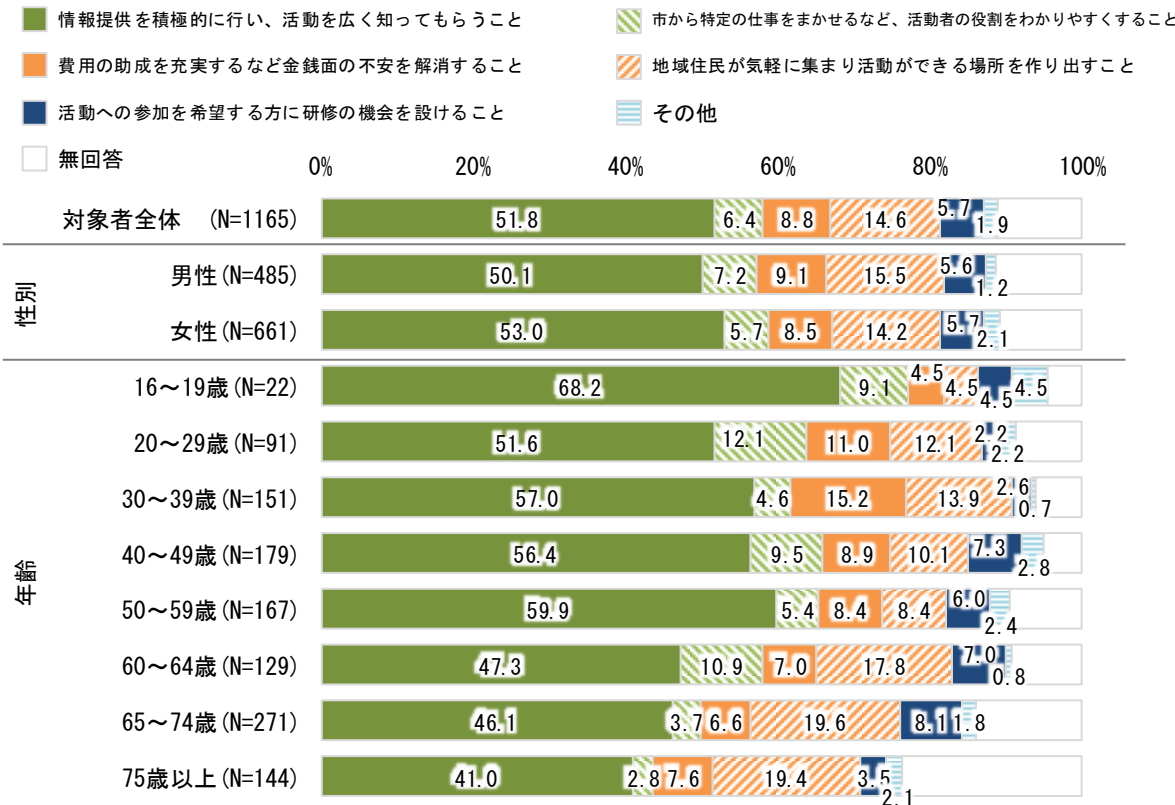
福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策

【問 28】福祉のまち推進センターなどが行う支え合い活動に、より多くの方に参加していただくためには、どのような取組みを充実すべきだと思いますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策については、「情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと」が 51.8%と最も高く、次いで「地域住民が気軽に集まり活動ができる場所を作り出すこと」が 14.6%となっている。



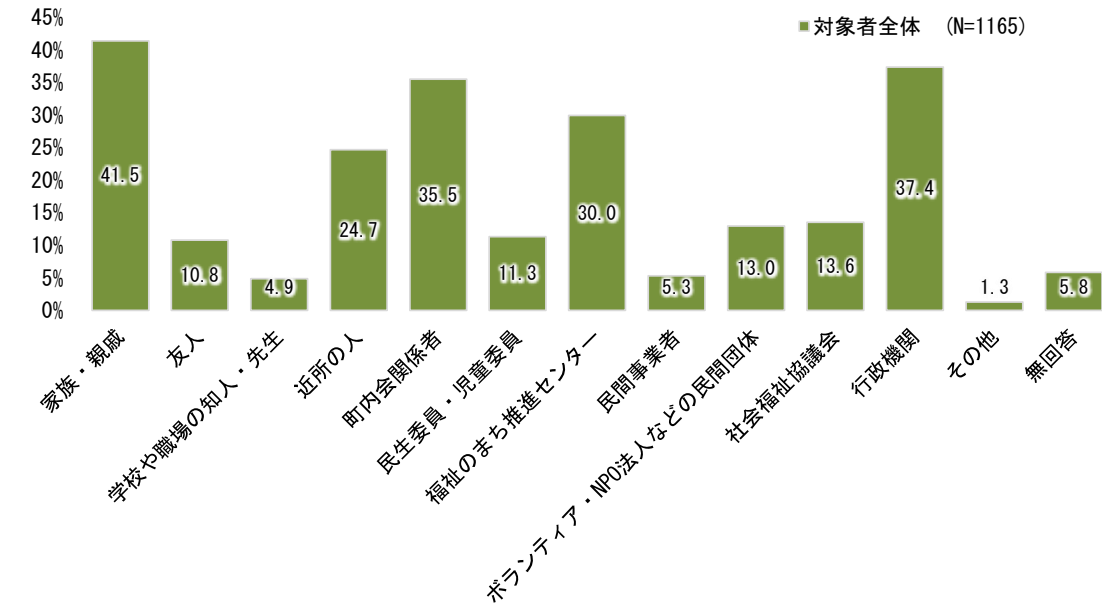
福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策を男女別にみると男女共に「情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと」が 5 割を超えて高い。さらに年代別にみると年代が高くなるにつれて「地域住民が気軽に集まり活動ができる場所を作り出すこと」の割合が高い。10 歳代～50 歳代では「情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと」が 5 割を超えて高く、特に、10 歳代では 68.2%となっている。



地域での手助けや支え合いの担い手

【問 29】住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための手助けや支え合いは、誰が（どこが）中心となって行うべきだと思いますか。特に行うべきと考えるものを3つまで選んで○をつけてください。

地域での手助けや支え合いの担い手については、「家族・親戚」が41.5%と最も高く、次いで「行政機関」が37.4%、「町内会関係者」が35.5%となっている。



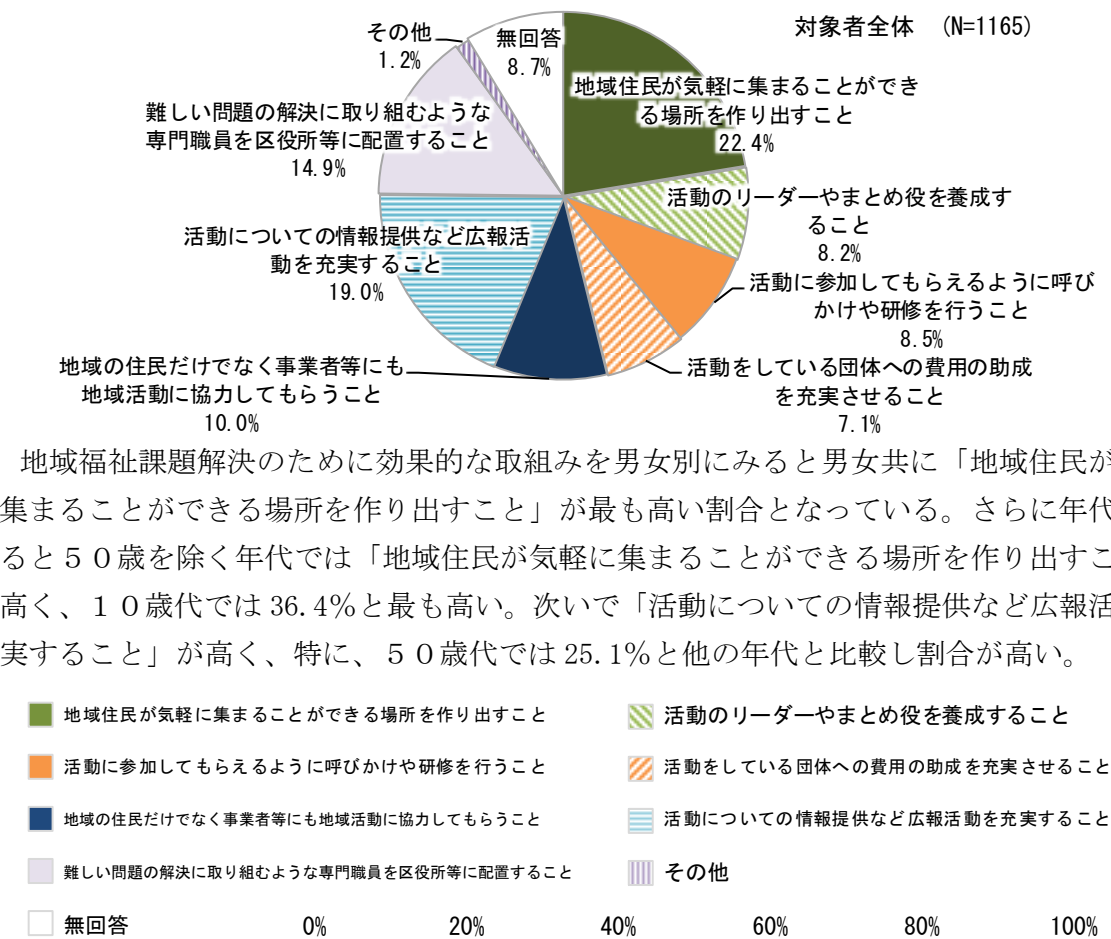
また、地域での手助けや支え合いの担い手を男女別にみると「町内会関係者」が男性で39.2%と女性で33.3%を比較し、男性の割合が高い。さらに年代別にみると10歳代で「町内会関係者」が50.0%、50歳代で「行政機関」が52.7%と他の年代と比較し高い割合となっている。

			家族・親戚	友人	学校や職場の知人・先生	近所の人	町内会関係者	民生委員・児童委員	福祉のまち推進センター	民間事業者	ボランティア・NPO法人などの民間団体	社会福祉協議会	行政機関	その他	無回答
対象者全体 (N=1165)			41.5	10.8	4.9	24.7	35.5	11.3	30.0	5.3	13.0	13.6	37.4	1.3	5.8
性別	男性	(N=485)	42.5	9.5	2.7	26.0	39.2	12.0	29.5	5.2	12.6	14.2	36.5	1.2	5.2
	女性	(N=661)	40.4	12.1	6.7	24.1	33.3	10.7	30.3	5.1	13.0	13.0	38.0	1.2	6.2
無回答 (N=19)			52.6	-	-	15.8	21.1	15.8	31.6	15.8	21.1	15.8	42.1	5.3	10.5
年齢	16～19歳	(N=22)	40.9	9.1	9.1	36.4	50.0	-	18.2	9.1	9.1	-	27.3	4.5	-
	20～29歳	(N=91)	35.2	11.0	15.4	24.2	38.5	8.8	25.3	6.6	14.3	11.0	26.4	3.3	5.5
	30～39歳	(N=151)	40.4	13.2	11.9	19.2	33.1	7.3	25.8	7.3	13.2	13.9	40.4	-	2.6
	40～49歳	(N=179)	39.1	7.8	6.1	26.8	33.5	11.2	31.3	9.5	16.8	6.7	40.2	1.1	1.1
	50～59歳	(N=167)	38.9	7.8	3.0	21.0	28.7	12.6	30.5	3.0	14.4	15.0	52.7	2.4	6.0
	60～64歳	(N=129)	38.8	10.1	3.9	22.5	38.0	13.2	36.4	6.2	16.3	20.9	42.6	0.8	1.6
	65～74歳	(N=271)	45.0	13.7	0.4	24.4	34.3	11.4	34.3	4.1	11.4	14.4	31.7	1.1	10.7
	75歳以上	(N=144)	46.5	11.8	0.7	34.0	45.1	16.0	22.9	0.7	5.6	15.3	26.4	0.7	10.4
	無回答	(N=11)	63.6	-	-	18.2	27.3	9.1	27.3	9.1	18.2	18.2	54.5	-	9.1
			50.0 対象者全体と比較し10%以上高い							50.0 対象者全体と比較し10%以上低い					

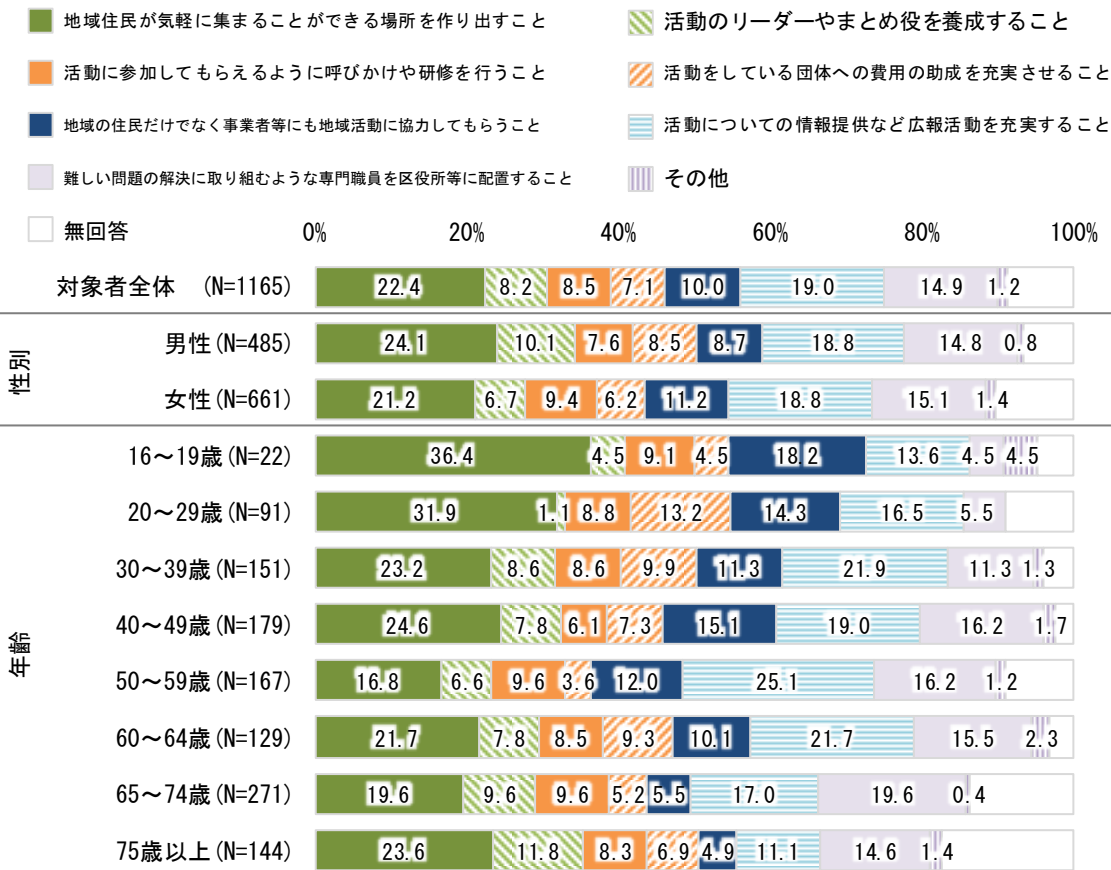
地域福祉課題解決のために効果的な取組み

【問 30】あなたの住む地域において日常生活に手助けを必要とする方を発見し、その方が抱える問題を解決するためには、どのような取組みが効果的だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

地域福祉課題解決のために効果的な取組みについては、「地域住民が気軽に集まることが出来る場所を作り出すこと」が22.4%と最も高く、次いで「活動についての情報提供など広報活動に協力してもらうこと」が19.0%となっている。



地域福祉課題解決のために効果的な取組みを男女別にみると男女共に「地域住民が気軽に集まることが出来る場所を作り出すこと」が最も高い割合となっている。さらに年代別にみると50歳を除く年代では「地域住民が気軽に集まることが出来る場所を作り出すこと」が高く、10歳代では36.4%と最も高い。次いで「活動についての情報提供など広報活動を充実すること」が高く、特に、50歳代では25.1%と他の年代と比較し割合が高い。



6 地域活動と住民の支え合いに関する意見（自由記入）

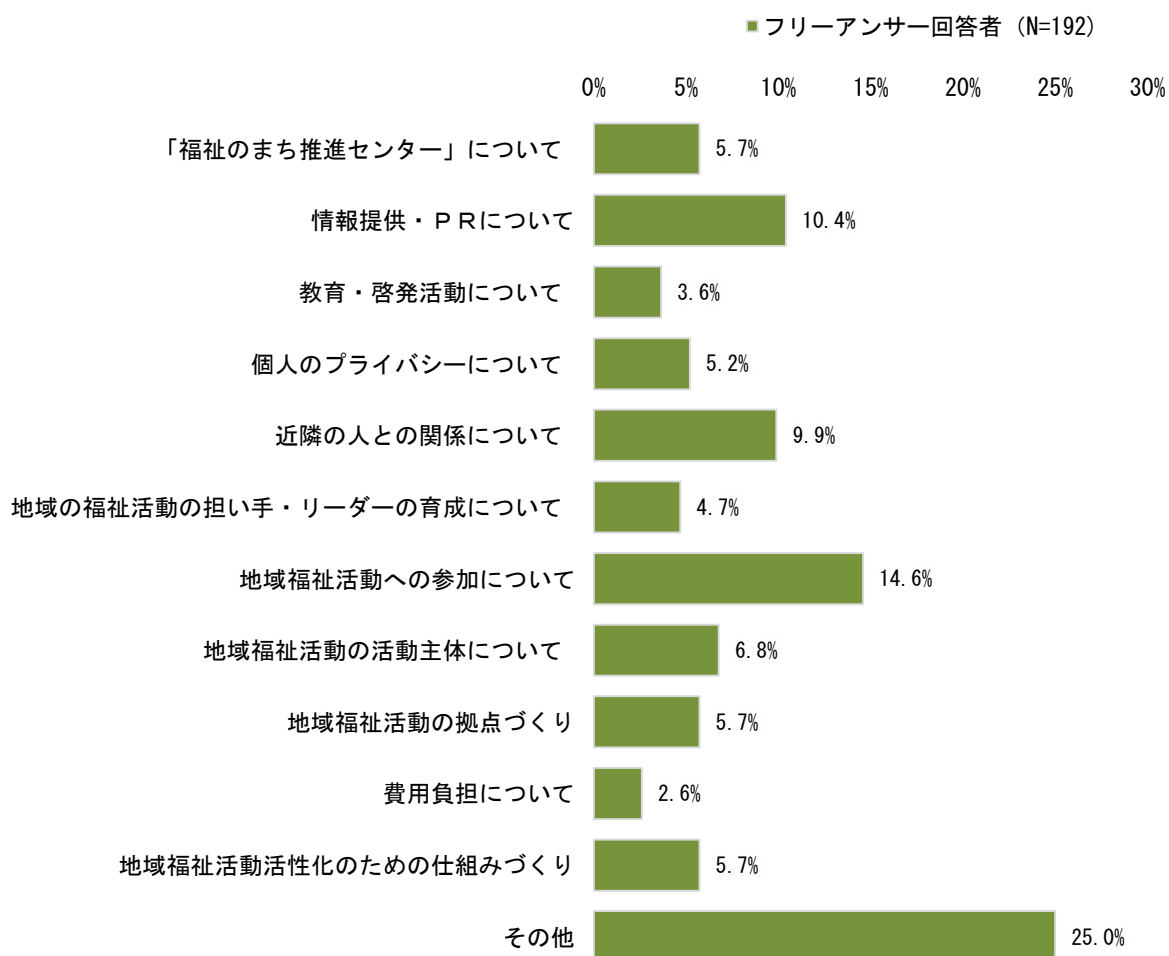
【問 31】地域活動と住民の支え合いについて、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

地域活動と住民の支え合いに関する意見に聞いたところ、192 件の回答があった。

記載内容から下図の 12 項目に分類し整理した。

最も多い意見は「地域福祉活動への参加について」で 14.6%となっている。次いで「情報提供・PR について」が 10.4%となった。

代表的な意見を次項以降に抜粋し掲載する。



「福祉のまち推進センター」について

- ・ 福祉のまち推進センターをはじめて知り、とても興味を持ちました。現在、近所つきあいとはとくになくあいさつをしても返事がなく、寂しいと感じています。近所に住む者同士、支え合い助け合える社会になれば良いのにとおもいますが、ニュースでは近所トラブルの話題も多くとりあげられるため、そのようなトラブルに巻き込まれたくないとの気持ちから、なかなか近所さんと交流を自分から持とうという行動は起こせていません。(女性・20 歳代)
- ・ 今回のこのアンケートで福まちを知りました。前から地域活動に参加したいと思っていたので改めて考えるきっかけになりました。しかし、若い人達が参加しづらいなあと感じる事も多く、もっと活動を広めて地域活動が気軽にできるようになればすごくいいと思います。(女性・20 歳代)
- ・ 今回初めて「福まち」という言葉を聞きました。高齢者と子供が気軽に立ち寄れる場所を作りそこから情報発信をすると共に町内会からも情報共有していく事により住民の広がりが広がると思います。(男性・40 歳代)
- ・ アンケートの依頼を受けるまで、「福まち」の存在すら知りませんでした。今は健康で毎日が忙しい為、地域活動まで思いを馳せることが出来ませんが、後期高齢者の一人として先の事はわかりませんが、互助の精神で地域活動に目を向けるべきだと思いました。(女性・75 歳以上)

情報提供・PRについて

- ・ 地域活動も住民同士の支え合いも大事だと思うが、しない人はしないし、する人はする。昔に比べて、地域活動は減少したと思う。結果、個々の本人次第だと思います。ただ若い自分としては、そのような活動などは、聞いたことも担ったことも少なく感じます。もっと若い人も参加したくなるような”強制”ではなく、”共感”してもらえるような、情報提供などしてみてもいいかでしょうか。何をするのか、誰でも可能なのかももっと簡潔に。やり方なんて、腐るほどあると思います。(男性・10 歳代)
- ・ 地域づくりやまちづくりに興味があるが、どこに情報があるのか、自分にどんなことができるのかわからない。休日や仕事のない日にボランティア等に参加したい。幅広い年齢の方と知り合い、話してみたい。(女性・20 歳代)
- ・ 地域のイベントや行事をまとめて見られるサイトがあると良いと思う。子育ての世代は働いたりボランティア活動に参加することは難しいので、イベント等で顔見知りになり友人の輪が広がっていく事で、近所や地域の人とのつながりが深くなっていくように思う。現状、イベント情報などはそれぞれの主催者が作成しているホームページやブログに載せているだけで、行きたくても気づかないことも多い。小さなお祭りも大きなイベントも、まとめて閲覧できるホームページまたは冊子を作成してほしい。(女性・30 歳代)

- ・ ボーイスカウトのような活動に子供を参加させてみたいと思うが、どこに問い合わせればよいかわからないので、やはり活動の情報提供を目につきやすい市報に載せてほしい。また、防災についての活動に参加したことがあります。被災時に避難所において役立つ工夫や、日常においても使える知識など満載ですばらしい内容でした。(女性・30歳代)
- ・ 夫の転勤で札幌市にはじめて住んでいます。札幌市は町内会が盛んだからすぐに近所にお友達ができると噂に聞いていて楽しみに引越ししてきたのですが、町内会の名前も知らない、存在しているのかもわからない、マンションの掲示板にはゴミ収集日しか張っていない・・・現実とは違っていました。地域活動の情報を取りに行かない自分にも原因はありますが、広告やフリーペーパーなど広報活動をもっと伝わるかたちで行っていただけたら情報を受け取りやすいと思います。札幌の街には広告が少ないと感じております。(的外れなことでしたら失礼いたします)(女性・30歳代)
- ・ 住み慣れたところで充実した子育てができる環境と、自分が年老いても穏やかに過ごせる環境を作っていただきたい。そのためには自分も人のためになれるような活動に参加してみたいと思います。今どんな活動をしているのか知らないのでもっとアピールしてください。(女性・30歳代)
- ・ 個人の意識改革が一番重要であるが、金銭面、時間の制約があり、積極的に賛成できない人が沢山いるのが現状と思う。行政の費用助成も必要だが、もっと各自がもっと責任感を感じ持つこと、その為の情報提供活動が必要と感じる。(男性・50歳代)
- ・ 日常生活に手助けが必要な方は、個人情報の関係もあり、町内あるいは近所でそのような情報が共有されることがなく、結局、家族、親せきの中での問題解決が強いられている現状がある。夫婦二人の高齢家族化が進み又、ネット社会に置きざりにされた高齢者は、益々情報が入らず孤立していくと思いますので、折に触れて情報の提供が必要かと感じます。(男性・65～74歳代)
- ・ 町内会や各種事業者団体、行政が一体となって住民の地域を住みやすいものにする地域活動を行っている。その活動としては、民生福祉、環境美化、防犯防災などがある。しかし、その活動状況がいつ、誰により、どのように行われているか、地域住民に具体的に明確に認識出来る必要があると考えます。そのためには、市町村だより、地域の情報誌ローカル新聞など通して、具体的記事や行政当局に事業計画や具体的活動など掲載し毎月住民に周知することが必要と考えます。(男性・75歳以上)

教育・啓発活動について

- ・ 子供のころから困っている人を手助けができる様になって欲しいので学校全体でボランティア活動など積極的に行ってもらいたいです。(女性・40 歳代)
- ・ コミュニケーションが一番大事にも関わらず、市（区）役所などに電話すると 1/2 の確立で他人事のような対応をとられます。“答え”がわからなくても、親身になってくれていると感じられるだけでホッとするものです。支えあいを推進していくなら、体制だけではなく社会全体がお互いに相手の立場を思いやれる心を育てていかなくはせっかくの活動も形だけです。子供のときからこの支えあいの大切さを（学校）教育の中でもっともっともっと教えてほしいです。(女性・40 歳代)
- ・ 手助けを必要とする方は、どこにどのように助けを求めて良いか分からない人が多いのではないかと思います。小中学校からの教育や活動についての情報提供の広報活動の充実は繰り返す行う必要があると感じています。(女性・50 歳代)
- ・ 福祉活動推進に住民に良く理解をしてもらうために活動の内容等について研修が必要。活動者（民生委員・福祉推進者等）の研修が必要。福祉活動推進していくためには人づくりが大切。(男性・75 歳以上)

個人のプライバシーについて

- ・ 個人情報の厳守を重んじられる現代社会でコミュニティの重要性を改めて認識させることが重要！札幌市外の小さな市町村では近隣住民との係わり合いを重んじる傾向があり、お互いにモラルとマナーを遵守した近所付き合いを今、現代でも続けている！都市であればある程、その意識が薄れていると思います！札幌市も地方に学ぶことが多いと思います！（男性・30 歳代）
- ・ どこがどんな活動をしているか分からないと何をどう相談できるのかが分かりません。本当に助けを必要としている人が誰に相談したら良いか分かるようにしておかないと、相談できずに居る人が増えてしまうのでは？個人情報の問題もあり他人のことに口出ししにくい社会となっているため、困っている人かどうかの判断や何処に情報提供したら良いかなど、個人の判断問題となっている気がします。こういうときはここに連絡する、といったわかりやすい提案があれば、情報提供できる環境になると思います。困っている人を助けるという直接的な行動は難しくても、情報を提供することが間接的にでも助けることにつながるということが理解できれば、意識も変わっていくのではないのでしょうか。(女性・40 歳代)

近隣の人との関係について

- ・ 核家族化しており、自分の家族の生活を支えるだけで精一杯。小さい子供の子育てもあり、お金も時間も限られる中、地域の周囲の方にまで目を配る余裕はありません。(女性・30歳代)
- ・ 地域活動と住民の支えあいというこの2つの言葉は、一軒家だとイメージがつきますが、マンション・アパート暮らしではイメージが付きにくいです。他人とのかかわりを避けることで余計なストレスを回避しているのに、マンション・アパートでも住民同士のかかわりが密になってしまうと、マンション・アパートのメリットがなくなってしまうように思います。(女性・30歳代)
- ・ 地域（今住んでいるところ）で子供の足音がうるさいと苦情を言われたりしているので、環境を理解し合えない相手が近所にいる事で支えあいは程遠いと感じる。また逆に状況を理解してくださり、励ましのお言葉をかけてくださる方もいるので、そのような方もいると支えあいという意識が少しでも芽生えてくるのではないかと考えている。地域活動に、情報があまりなくわからないことや自分から知ろうという意識も薄い。時間的に仕事や家事・育児で日々が追われてしまう。周りの方がどのような状況なのかかわれば少しでも力になれることがあれば、機会があれば協力したいと思う。(女性・30歳代)
- ・ 集合住宅に住んでおり、住人が他者からの関心を嫌っており、私自身もどちらかというとその心境が理解できる。支え合いが必要な人、希望する人もいれば不要で拒否したいを思っている人もいる。そんな中で誰しも同じとひとくくりにするのは無理だと思うし、強制されれば問題でもある。こういう問題はひそかに時間をかけてゆっくり考察を重ねる必要がある。(女性・50歳代)
- ・ 高齢社会が加速していく中、住んでいる地域により、住民の支え合い方に違いがあると思います。マンションの住民では、さらに支え合いに対する、考え方にばらつきがみられると思います。自分に出来る活動は何か？そして支え合う為の活動は誰が中心となって行うかという基礎がしっかりと出来るよう取組を期待しております。自分も含め、超高齢社会がよりよく生活しやすくなる事、願っています。(女性・50歳代)
- ・ 札幌に移り住んで5年経ちましたが、住民と地域活動の支え合うことがピンと来ません。子どもが小さい頃や年齢が高齢になると、また、変わってくるかもと思いますが・・・私自身、地域活動を頼りにしようとは思っておりません。札幌だからかも知れませんが。生まれ育った土地でも無いし、マンション内でもころころと顔が変わる（住人）ので町内会活動のお手伝いもしましたが、正直今までいた街から見るとやりにくかったです。(女性・50歳代)

- ・ 今現在の場所に住むようになって早30年以上が経ちましたが、隣近所の方々との付き合いもつかず離れずの微妙な関係を保ちながら今日まで来ています。互いに助け合える（除雪等）時は協力して行動しますが、それぞれの人々の年齢が高くなってきている昨今、自分自身が手伝うことが体力的にきつくなっています。ということは近所の人々も自分のことで精一杯なのではないかと思います。助け合い、支えあうということはとても大事ですが、まずは我が家から、自分のことから、周囲の人に迷惑をかけないようにする事が大切では。押し付けでなく、気軽に声をかけて自身で出来る範囲で力まず頑張りすぎず協力し合えばよいのではないのでしょうか。（男性・60～64歳代）

地域の福祉活動の担い手・リーダーの育成について

- ・ まずは近所の人に参加できるイベントを企画し、近所の方の参加を呼びかける。リーダーが必要。イベントは隣近所の人達が集まって何かする程度の小規模なものが良い。（男性・65～74歳代）
- ・ 核家族化社会となっている現状の地域社会において、近隣の住民同士の関わりをどのようにしていくかは難しい問題だと感じますが、今こそ昔の隣同士の関わりといったものをもう一度取り返すよう働きかけるには情報提供と地域ごとのリーダーシップを握る人の育成というか、今後どうしていくべきかの議論を継続化していくべきなのではないかと思う。そのためには福祉のまち推進センターがもっと中心となってどう情報を活用していくか、あとその地域地域の課題に対し、対処できるようなリーダー育成を図れるよう推進していくことが望まれるものと感じます。（男性・65～74歳代）

地域福祉活動への参加について

- ・ 学生は学校生活で忙しくてなかなか地域の活動を行う暇もないのに加え、なかなか自分からそういった活動に参加しにくいというのが現状だと思います。学校などと連携してなにか企画していただけると少し参加しやすい環境に近づくのではと思います。（女性・10歳代）
- ・ 町内会など一部の方達に頼りすぎないように、市又は区で若い方が参加しやすいように、気軽に参加できるような工夫があればよいのではないかと……。町内会によって年配の方ばかりですが、他の町内会では、夏休み中のラジオ体操のように子供達が集まって、掃除を気軽に楽しんで帰るなど、楽に参加できるようになると良いです。（女性・30歳代）
- ・ 町内会活動など子育て世代の人達が参加しにくいなあと感じています。土日に町内会の行事が多々ありますが子供の習い事などで参加できなかったり、参加しても高齢者ばかりで……。子育て世代も積極的に参加できて、うまく高齢者世代と交流が出来ればよいのですが……。子供会活動だけではなく、町内会活動にも子供達を交えて活動できれば、子育て世代も町内会活動に参加しやすくなるのかなあと思います。（女性・30歳代）

- ・ 若い世代は共働きが多く、地域の活動まで行うのは無理があると思います。結局、年配のいつも同じ顔ぶれになり何も変わらないままのような気がします。地域や町内などの単位よりも「個人 対 行政」のほうが現実的なのではないでしょうか。（女性・40 歳代）
- ・ 家族構成や居住形態等によって支えあい活動にどの程度貢献・参加できるかは異なる。一律の方法で解決しようとするのは難しい。またある種の同調圧力が働いて参加を強要されることがあってはならないと思う。（男性・40 歳代）
- ・ 家族形態が様変わりする時代において”ひとり”過ごす人が多くなっていると思います。”引っ張り出す”→”集まる”→ 多様な知識が集まるというところからだと思います。埋もれている人材はたくさんいます。よろしくお願い致します。（女性・50 歳代）
- ・ 昔からの向かう三軒両隣精神というか、お付き合いの大切さを大変感じます。しかしマンション等の住人が多くなり、核家族化がますます進む中、気安いお付き合いが難しくなっています。また、従来国レベルで取り組んでいた介護は町内会へシフトしてきているような気がします。まじめに取り組む町内会の中には活動する人が高齢化し、担い手が不足しアップアップのところも見うけられます。自分が無理なく出来る程度のことを一人ひとりが自覚し気軽に参加できるにはどうしたらよいのか。高齢化が加速されつつある今の大きな課題ですね。サロン作りなどでわがマンションの動向も見っていますが、本当に S O S を発信してもらいたいような人達はなかなか参加してきません。地道に一步一步と思い、自分の出来る範囲でしたいと思っています。明日はわが身と思って。（女性・65～74 歳代）
- ・ 仕事を終えて 10 年近く、何か地域の中での活動と思いながら既存のいろいろな活動になかなか一歩、足を踏み出せないでいます。このような思いをしている方々が他にもいらっしゃるのではと思っています。町内会や老人クラブなど以外で新しい形の地域活動があれば参加してみたいなと思っています。（女性・65～74 歳代）

地域福祉活動の活動主体について

- ・ 地域で支えるためには、対象となる方の状態により段階的に支援を考えたほうが良いと思います。例えば、支援が必要な方を見つけるには、特に一人暮らしの方などは近所の人や異変などに気づきやすいので住民同士の支援になります。一方支援が必要なことがわかった上で、上級の介護や支援の知識が必要になると、民間の会社や国の団体による専門家の手が欠かせません。対象の方が一人で歩けるのか、買い物にいけるのか、認知症がかなり進んでいるのかなど段階的に地域で出来る支援も変わってくると思うので、その点をふまえてアンケートに回答しました。（女性・20 歳代）

- ・ ボランティアなどでは活動内容や活動場所に限界があるため、民間事業者を中心とした活動をメインとし、ボランティアや地域住民の負担を軽くし、参加しやすい活動環境を整えるべきだと思います。また働いている人や子育て世代のように時間的ゆとりがない人ではなく、定年退職した人のように時間的ゆとりがある人を中心にした団体を立ち上げ、仕事としての地域活動を行えば良いと思います。この団体活動により、独身の高齢者の交流拠点になるほか、新たな就職先としても意味のあることだと考えます。(男性・30 歳代)
- ・ 地元の民間事業者の協力は必須かと思われます。町内会関係者のみだと、一部の活動的な方々のみが集まり、全体参加が出来ていないため。組織力やニーズ、社会的役割を担っている企業を味方につけて、行政がバックアップする強い軸をまず、作ることが大切かと思います。(男性・40 歳代)
- ・ 自分が支えられる立場にならないと、どのように支えられたいかが理解できない。困った事のない人が考え付かないようなことがあるでしょう。「どう支えるか」ではなく「誰に支えられたいか」ではないかと今は思います。そこから入れば必要な人に必要な支えが理解できるのではないのでしょうか。(女性・40 歳代)
- ・ 地域活動は、例えば地域の美化清掃や交通安全の活動などはご近所同士、地域の事がよくわかる人達がするのがよいと思うが、意外と身体的な事や生活内の困った事等で手伝いを要する内容の事は、ご近所の顔がわかる人や近所の人にしてもらうことに遠慮もあるし、かえって知られたくない気持ちもあるように思えます。専門の人に聞いてもらう方が良い事のように思います。だから、日常生活の中で地域の人がする行動と、行政の人やボランティアのひとがする活動と分けて取り組んで、ひとりぼっちの孤独にならないよいまちづくりを考えてほしいと思います。(女性・50 歳代)

地域福祉活動の拠点づくり

- ・ 地域住民のコミュニティは、社会生活では非常に大事と考えます。日頃、札幌市としてどのような活動をされているかはもう少しアピールが必要。ソフト（運用）も重要であるが、ハード（建物等）の持つ力もあると思うので、建物のイメージも大事。地域活動の中心は小学校の単位程度が良いかと思う。(男性・40 歳代)
- ・ 現役で働いているときは町内会活動等に興味も必要性もほとんど感じずに過ごしてきたが、60代に入ると定年になり地域活動の大切さが分かるようになるので、これからは何らかの形で地域活動に参加したいと思っている。特に必要だと思うのは、地域の住民が気軽に集まれる場所です。カフェのような形でお茶を飲みながら話ができるような場ができれば、一人暮らしのお年寄りも話し相手ができるのではと思う周りに一人暮らしのお年寄り世帯が多いので、そんな場所を行政で用意していただけると運営は地域住民ができるのではと思うことがある。(女性・60～64 歳代)

- ・ 誰がどんなことで困っているか？近所の人やお隣の方でも声を聞かなければわからないのですから、まずは親しい方々に集まる場所がなければ皆さん家に閉じこもっていますね。元気な方々は町へ出かけたり買い物へ、そして何の目的もなく時間を持て余している人は色々なところで見受けられます。（女性・65～74 歳代）
- ・ 道で会っても顔見知り以外あいさつもしない状況の中では、先ず地域のイベント等集まることから毎年毎月同じ場所に集合する事が第一ではと思います。町内会、さらに小さく各民生委員が担当している区域内で開催するのが有効かと思います。市・区役所等、行政の支援がなければ出来ないことだと思います。イベントと言っても大きい物ではなく、農家の方に協力してもらい朝市を開くとか、音楽会・マージャン会・リサイクル店等、生活に密着するもので、それには場所や資金が必要なので行政の支援なしでは出来ません。（女性・65～74 歳代）

費用負担について

- ・ 地域活動の役割、その活動内容を広く周知し、誰もが参加しやすくしていき、費用の助成も充実させるべきだと思います。（男性・50 歳代）
- ・ 一番身近に感じているのは、やはり町内会活動の皆さんなので町内会活動の助成を十分してください。町内会費だけの活動だけでは不十分であるため。（男性・75 歳以上）

地域福祉活動活性化のための仕組みづくり

- ・ ①各家庭が困っている事をアンケートなど通して情報を収集する。そしてどう支援して欲しいのかも具体的に書いてもらう。②問題を解決する為には何が必要なのかを話し合う（広報活動、ボランティアの募集、予算に対する経済支援、場所の確保）。《ボランティアについて》1 時間 1 ポイント制などとしてボランティア手帳または紙カードを作る。そしてボランティアの人が困ったときは 1 ポイント 1 時間で援助が受けられるようにする。何も助けてあげられず援助を受けるのみの人は 1 時間 3 0 0 円支払うまたは行政が立て替える。 ボランティアも長く続けてもらうためには 1 時間 3 0 0 円程度でも報酬があった方が良し、お金ではなくボランティア自身が将来困ったときに助けてもらえるという安心でも良いと思う（たとえばボランティア手帳）。そうすれば地域住民が助け合いという輪の中に自然と入ってきやすいのではないかと思う。地域の中には困っている人がたくさんいると思います（母子家庭、認知症で 1 人暮らしまたはその家族、高齢者、身障者、小さな子供を育てている核家族のお母さん、など）。そして助けてあげたい気持ちのある人も居ると思います。行政に関しては活動についての情報提供など、広報活動に力を入れると共に住民が支えあえるようなシステム骨組み（計画）をしっかりと立ててもらいたいと思っています。（男性・10 歳代）
- ・ 豊中市で行っている様な地域のサポーターを養成し、社協が中心となって運営していくしくみがあると良いとおもいます。介護保険や自立支援といったサービスに引っかからないような人も対象としていくべき。（女性・30 歳代）

- ・ 家から出て地域の人との交流が出来る人に問題はないのですが、そうは出来ない人が問題です。高齢なのか身体に支障があるのか一人暮らしなのかもわかりません。何かお手伝いできることがあれば時間だけは沢山もっていますが、その気持ちをどこに発信すればよいのかわかりません。助けてもらいたい人と助けてあげたい人のマッチングをするサイトでもあれば気軽にアクセスできると思います。(女性・50 歳代)
- ・ 高齢になると、一日、人の世話にならずに暮らす事で精一杯になります。きっと窓口は沢山作られているのですが、どこに相談したら良いのかさえ解らないです。「何でも相談」の電話窓口はあるのでしょうか？そこに電話したら何とかなるという様な適当な所に振り分けてくれる様な。まず、そこだと思います。役所は窓口を沢山作っても住民は使い分けも知らないし、そんな窓口があるも知らないのが本当の所ではないでしょうか。(男性・75 歳以上)

その他

- ・ 札幌市内で何度も引っ越しをしたことがあり、その経験から感じたことは、同じ市内でも区、地域によって町内会の力のいれ具合（回覧板の有無・町内清掃活動の有無など）や地域住民との交流の持ちやすさに大きな格差があるなという点です。交流の持ちやすさというのは、やはり地域性というものがあって、田舎では自然と交流が持ちやすい、都会では持ちにくいということがあるかと思いますが、人々が支えあう社会にしていくには何かしら手を打って交流の持ちやすさの格差をなくしていく事が大事なのではないかと思います。それが、訂正されれば、札幌市がもっと住みやすい安心できるまちへと変わっていくのではないかなと思います。(男性・30 歳代)
- ・ 大家さん・管理会社・不動産系の「家」に関わる業種の方々の協力は今、これからの高齢社会に必要です。介護保険や有料サービスで「カギ」を預かることができないからです。(女性・30 歳代)
- ・ 日中働いていると結局地域活動がしづらく、結果、お年寄り中心の活動になっています。何をどうすればという具体案はないのですが、若い世代として歯がゆい気持ちがあります。(女性・40 歳代)
- ・ 我が家の場合は子供はおらず、90 代の祖母がいますが、困ったことはケアマネージャーさんに相談する事が多いです。家の中に手摺を取り付ける際は病院の方がアドバイスしてくれました。そう考えると、高齢者に関しては介護・医療機関が相談相手になる機会が多いので、そういう機関ともっと連携すると情報提供などが行き渡り易いように思います。(女性・40 歳代)
- ・ 支えられる側、支える側、両方が気を使うことのないシステムがあると良いと思います。顔見知りではない方が良い場合もあるのでは……。除雪等は安価で行うところがあれば利用者も作業者也利用しやすいと思います（フリーペーパー配り的な感覚で）。(女性・40 歳代)

- ・ 支えが必要となった時、家族以外に頼れるのは行政。民間に頼むとしても窓口は行政にあると安心できる。行政から民間への橋渡しをしっかりとってほしい。家族も頼れなくなった時は近所の友人には、やはり頼み。(女性・50歳代)
- ・ 今の住所に引越してから5年が過ぎました。町内会費を払い、一応町内会の一員らしいのですが、集合住宅ということもあり、町内会の活動には全く参加していません。本当は町内の清掃活動くらいは自分の住んでいる場所なので参加してみたいのですが、どうも1歩が出ません。この辺は朝に散歩をするシニアの方も多いので、役に立つことがあるのなら・・・とは思っているのですが・・・(女性・50歳代)
- ・ 長年住んでいたところから引越したのでまだ今の地域のことはよくわからない。ただ隣にどんな人が住んでいるか顔が見えないのは怖い。お互い支えあいたいけどどこまで関わりを持つと良いのか判断が難しい。ただ地域活動はどんなことをどこでやっているかわからないと残念な気がする。ぜひ「福まち」も広まるように祈っています。(女性・50歳代)
- ・ 一人暮らしで今後とても不安がございます。今仕事と生活で時間にも余裕がなくよくわからないと言うのが現実です。高齢化も進み痴呆症などの方で見た目分からない人もおり人間の対応も難しそうですし、個人情報保護法も関わる中で他人様とどうなのか？地域活動って？皆様により良く先ず知ってもらうこと、わかりやすく見て話して次へとステップUPへ。研修が必要ですね。またお金の事も大事ですね。元気なご年配の方々が運動不足解消に話し相手の居ない方で時間がある方、頭脳の素晴らしい方が相談相手に等々、住民の支えあい、近くにいる他人様とても大切に思います。知る機会をもっと作って頂きたいです。(女性・50歳代)
- ・ 若い人が参加しやすい町内会活動をすることで自然と年代を超えたつながりができ、支えあっていけるものだと思います。(女性・60～64歳代)
- ・ ◎マンションは一つのコミュニケーションであり、福祉を考えるうえで重要である。町内会費が強制的に納付されており「未来への投資」と言いながら、広報・情報活動が十分行われていない。会計報告など、活動報告も知られていない。◎行政、特に区役所の役割が弱い。ただ、窓口で受け入れるだけでなく、いろいろな組織に関与して、福祉や街の活性化に取り組む姿が見える形で、仕事をやってほしい。(医療や介護についても迅速な対応、丁寧な対応が必要である。)(男性・65～74歳代)
- ・ 時代が変わって、金銭でたいいのことが解決できる様になり、他人との関わりが煩わしく苦手になった結果、年齢を重ね人からの手助けや支えが必要になった時、対処の仕方にとまどい他人との付き合いが出来なくなってしまった人が多くなっているように思います。それは支える側の人達でもそのような人達との付き合い方がうまく出来なくなっていると思います。行政機関による専門職員の充実が必要と強く感じます。(女性・65～74歳代)

- ・ 現在、住居している集合住宅が 270 戸以上で数が多いことから町内会管理組合のかかわりで相当数の方々との付き合いとなるため連合町内会や福祉のまち推進センターの活動とのかかわり方まで考えが及ばないのが現状です。範囲が広がりすぎると相互理解も進まず活動がスムーズに行えないように感じます。(男性・75 歳以上)

資 料

(調査票)

地域の福祉活動に関する市民意識調査

平成 28 年 9 月 札幌市

日ごろから、札幌市の福祉行政にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、札幌市では、市民の皆さま、事業者（会社など）、行政が一体となり“安心して暮らせるぬくもりのある地域福祉社会”を実現することを目的として、新しい「札幌市地域福祉社会計画」を策定いたします。

この調査は、市民の皆さまの地域福祉に関するご意見を把握することを目的として行い、回答結果は計画策定の基礎資料として活用させていただきます。お忙しいところ、お手数をおかけしますが、趣旨をご理解いただき調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

○今回お送りしたもの

「地域の福祉活動に関する市民意識調査」調査票、返信用封筒

○対象者の選び方

市民の皆さまの中から 3,000 人を、くじびきのような方法（無作為抽出）で選んでいます。回答を強制するものではありませんので、答えられる範囲で調査にご協力ください。

○その他

プライバシーの保護には十分配慮します。この調査は皆さまから無記名でご回答いただきます。回答結果は全て統計的に処理しますので、個人のお名前が公表されることはありません。

【ご記入にあたってのお願い】

- 1 回答はご本人（封筒のあて名の方）が記入してください。
- 2 各設問の選択肢で、**あてはまる番号に○をつけてください**。なお、「その他」の選択肢に○を付けた場合には、その内容をできるだけ具体的に（ ）内に記入してください。
- 3 回答によって、答えなくても良い質問があります。質問中の指示に従ってお進みください。
- 4 使用いただく筆記用具はどのようなものでも構いません。
- 5 記入が済みましたら、お手数ですが調査票を同封の返信用封筒に入れて、**平成 28 年 10 月 20 日（木）までに切手を貼らずに郵便ポストへご投函ください**。なお、**調査票及び返信用封筒に名前や住所を記入していただく必要はありません**。

【本調査に関するお問い合わせ先】

札幌市保健福祉局総務部総務課

担当：下山、井上 電話：211-2932

I あなた自身のことについて

問1 性別について、あてはまるものに○をつけてください。

1 男性

2 女性

問2 現在の年齢について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 16～19 歳

2 20～29 歳

3 30～39 歳

4 40～49 歳

5 50～59 歳

6 60～64 歳

7 65～74 歳

8 75 歳以上

問3 ご職業について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 会社員

2 パート・アルバイト

3 自営業

4 公務員

5 学生

6 家事専業

7 無職

8 その他 ()

問4 家族の形態について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 一人暮らし

2 夫婦だけの二世帯

3 二世帯世帯（親と子）

4 三世帯世帯（親・子・孫）

5 その他 ()

問5 現在のところにお住まいの年数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 1 年未満

2 1 年以上 5 年未満

3 5 年以上 10 年未満

4 10 年以上 20 年未満

5 20 年以上

問6 お住まいの住宅について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 自分又は家族の持ち家（一軒家）

2 自分又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）

3 借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）

4 借家（一軒家）

5 その他 ()

Ⅱ 地域活動について

地域活動とは、町内会など様々な団体が行っている福祉や環境美化、防犯・防災などの地域を住み良いものにするための活動のことです。

問 7 あなたは、地域活動に参加したことがありますか。 あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- | | | | | |
|---|----|---|-------------|---|
| 1 | ある | ⇒ | 問 8 | へ |
| 2 | ない | ⇒ | 問 15 | へ |

<問 7 で「1 ある」に○をつけた方にお聞きします>

問 8 あなたは、お住まいの地域で、次のような団体の地域活動に参加したことがありますか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 町内会（連合町内会を含む） | 2 子ども会 |
| 3 P T A | 4 ボランティア団体 |
| 5 福祉のまち推進センター | 6 民生委員児童委員協議会 |
| 7 老人クラブ | 8 商店街振興組合 |
| 9 N P O 法人 | 10 サークル等のグループ |
| 11 その他（ | ） |

問 9 あなたは、上記の団体で、どのような活動に参加したことがありますか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|---|
| 1 高齢者・障がい者の見守りや手助けなどの福祉活動 | |
| 2 子育て、子どもの健全育成に関する活動 | |
| 3 教育、文化、スポーツの振興に関する活動 | |
| 4 地域清掃や自然保護などの環境に関する活動 | |
| 5 交通安全、防犯・防災などの地域の安全に関する活動 | |
| 6 その他（ | ） |

問 10 あなたは、どのくらいの頻度で地域活動に参加していますか（いましたか）。
あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 毎日 | 2 週に数回程度 | 3 週に 1 回 |
| 4 月に数回程度 | 5 月に 1 回 | 6 年に数回程度 |
| 7 年に 1 回 | 8 その他（ | ） |

問 11 あなたが地域活動に参加した理由は何ですか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 社会や人のためになる活動がしたいから |
| 2 | 身近な地域をより住みやすいものにしたいから |
| 3 | 自分の経験や知識を生かしたいから |
| 4 | 友人を得たいから |
| 5 | 余暇を有効活用したいから |
| 6 | 知人・友人に勧められたから |
| 7 | 持ち回りの当番制であったから |
| 8 | その他 () |

問 12 あなたは、地域活動に関する情報を何から得ていますか。 主なものに3つまで○をつけてください。

- | | | | |
|----|---------------|----|-------------------|
| 1 | 新聞 | 2 | テレビ・ラジオ |
| 3 | 地域情報誌・フリーペーパー | 4 | 広報さっぽろ |
| 5 | 市のパンフレット | 6 | 公共施設等の掲示板 |
| 7 | 回覧板 | 8 | 地域活動団体のパンフレット・情報誌 |
| 9 | 家族や知人・友人 | 10 | インターネット |
| 11 | SNS | 12 | その他 () |

問 13 あなたは、地域活動を今後も継続（再開）したいと思いますか。 あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 継続（再開）したい ⇒ 問 17 へ |
| 2 | 継続（再開）したくない ⇒ 問 14 へ |

<問 13で「2 継続（再開）したくない」と答えた方にお聞きします>

問 14 活動を継続したくない理由はどのようなことですか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | | | | |
|----|---------------------|----|-----------------|
| 1 | 時間のゆとりがなくなったため | 2 | 自分の体調が悪くなったため |
| 3 | 金銭的な負担が大きいため | 4 | 活動自体の負担が大きいため |
| 5 | 活動のとりまとめ役がいなかったため | 6 | 活動の場が少なくなったため |
| 7 | 家族が病気になったため | 8 | 家族の理解がないため |
| 9 | 持ち回りの当番が終わったため | 10 | 参加していた団体が解散したため |
| 11 | 参加していた団体の運営に問題があるため | | |
| 12 | その他 () | | |

⇒ **問 17**へ

＜問7で「2 ない」と答えた方にお聞きします＞

問15 あなたは、今後、地域活動に参加したいと思いますか。 あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 参加したい ⇒ **問16**へ
2 参加したくない ⇒ **問17**へ

＜問15で「1 参加したい」と答えた方にお聞きします＞

問16 現在、あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。 最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 どんな活動が行われているか情報がないため
2 自分に合った活動が見つからないため
3 時間のゆとりがないため
4 経済的な余裕がないため
5 健康や体力に不安があるため
6 一人では参加しにくい
7 人と接することが苦手であるため
8 家族や職場の理解が得られないため
9 その他（ ）

Ⅲ ご近所との付き合いについて

問17 あなたはご近所とどのような付き合いがありますか。 最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 あいさつをする程度の付き合い
2 立ち話をする程度の付き合い
3 お互いの家を行き来する程度の付き合い
4 困った時に相談したり助け合える程度の付き合い
5 その他（ ）
6 近所との付き合いはない

問18 あなたは、日ごろの生活での困りごとをどなた（どこ）に相談していますか、又は、誰に相談することができますか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1 家族・親戚 | 2 友人 |
| 3 学校や職場の知人・先生 | 4 近所の人 |
| 5 町内会関係者 | 6 民生委員・児童委員 |
| 7 福祉のまち推進センター | 8 民間事業者 |
| 9 ボランティア・NPO法人などの民間団体 | 10 社会福祉協議会 |
| 11 役所などの公的相談窓口 | 12 その他（ ） |
| 13 相談できる相手はいない | |

問 19 あなたは、近所の人と今後どのような付き合いをしていきたいですか。最もあてはまるものの1つに○をつけてください。

- 1 会えばあいさつをする程度の付き合い
- 2 会えば立ち話をする程度の付き合い
- 3 お互いの家を行き来できる程度の付き合い
- 4 いざという時に助け合える程度の付き合い
- 5 その他 ()
- 6 近所付き合いはしたくない

Ⅳ 住民による支え合い活動について

以下の設問にある「日常生活に手助けが必要な方」とは、高齢者、障がいのある方、子育て中の親子などの中で、日常生活に不安があり、相談相手や手助けが必要と思われる方のことです。

問 20 あなたのご近所で、日常生活に手助けが必要な方はいますか。最もあてはまるものの1つに○をつけてください。

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

問 21-① あなたのご近所で日常生活に手助けが必要な方がいる場合、あなたはどのようなことができますか。最もあてはまるもの全てに○をつけてください。1～10の項目以外に、手助けできることがある場合には、「11 その他」の()内に具体的に記入してください。

- 1 安否確認の声掛け
- 2 ちょっとした家事（電球の交換など）
- 3 ごみ出し
- 4 家の中の掃除や洗濯
- 5 食事づくり
- 6 玄関前の除雪
- 7 買い物や通院時の外出の支援
- 8 短時間の子どもの預かり
- 9 子育ての相談
- 10 話し相手
- 11 その他 ()

問 21-② あなたは、日常生活の中で近所の人に手助けしてほしいことはありますか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。 1～10の項目以外に、手助け
してほしいことがある場合には、「11 その他」の（ ）内に具体的に記入
してください。

- 1 安否確認の声掛け
- 2 ちょっとした家事（電球の交換など）
- 3 ごみ出し
- 4 家の中の掃除や洗濯
- 5 食事づくり
- 6 玄関前の除雪
- 7 買い物や通院時の外出の支援
- 8 短時間の子どもの預かり
- 9 子育ての相談
- 10 話し相手
- 11 その他（ ）

問 22 ご近所同士がお互いに力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくう
でさまたげとなることは何だと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけて
ください。

- 1 近所付き合いが減っていること
- 2 近所でどのような支え合い活動が行われているか、情報提供がないこと
- 3 他人に干渉する（される）ことを苦手に感じる人が多いこと
- 4 個人情報への取扱いに不安があること
- 5 若い人が支え合い活動に参加しにくいこと
- 6 近所同士の助け合いや支え合いに関心のない人が多いこと
- 7 地域での交流の機会（場所）が少ないこと
- 8 その他（ ）
- 9 特になし

V 札幌市の地域福祉施策について

市内で概ね連合町内会ごと（89 か所）に組織されている「福祉のまち推進セン
ター（福まち）」では、地域で援助を必要とする人に対して、日々の安否確認や日
常生活上の手助け、話し相手など、地域の実状に応じて福祉活動を行っています。

問 23 あなたは、福祉のまち推進センター（通称：福まち）を知っていますか。あ
てはまるもの 1 つに○をつけてください。

- 1 知っている ⇒ **問 24**へ
- 2 知らない ⇒ **問 26**へ

＜問 23 で「1 知っている」と答えた方にお聞きします＞

問 24 あなたは、福祉のまち推進センターを何から知りましたか。 あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 新聞 | 2 テレビ・ラジオ |
| 3 地域情報誌・フリーペーパー | 4 広報さっぽろ |
| 5 市のパンフレット | 6 公共施設等の掲示板 |
| 7 回覧板 | 8 地域活動団体のパンフレット・情報誌 |
| 9 家族や知人・友人 | 10 インターネット |
| 11 民生委員・児童委員 | 12 福祉のまち推進センターの活動者 |
| 13 その他（ | ） |

問 25 あなたは、福祉のまち推進センターの活動に参加したり、手助けを受けたことはありますか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | |
|----------------------|
| 1 活動に参加している（していた） |
| 2 手助けを受けている（受けていた） |
| 3 参加したり、手助けを受けたことはない |

＜皆さまにお聞きします＞

問 26 あなたは、今後（現在参加している方は引き続き）、福祉のまち推進センターが行っている支え合い活動に参加したいですか。 あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- | |
|----------------------------------|
| 1 ぜひとも参加したい |
| 2 きっかけがあれば参加したい |
| 3 参加したいが、時間的・体力的な都合により参加することは難しい |
| 4 参加したくない |
| 5 その他（ |

問 27 あなたは、今後（現在支援を受けている方は引き続き）、福祉のまち推進センターによる手助けを受けたいですか。 あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1 ぜひとも手助けを受けたい |
| 2 きっかけがあれば、手助けを受けたい |
| 3 手助けは受けたくない |
| 4 その他（ |
| 5 日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じていない |

問 28 福祉のまち推進センターなどが行う支え合い活動に、より多くの方に参加していただくためには、どのような取組みを充実すべきだと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと
- 2 市から特定の仕事をまかせるなど、活動者の役割をわかりやすくすること
- 3 費用の助成を充実するなど金銭面の不安を解消すること
- 4 地域住民が気軽に集まり活動ができる場所を作り出すこと
- 5 活動への参加を希望する方に研修の機会を設けること
- 6 その他 ()

問 29 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための手助けや支え合いは、誰が(どこが) 中心となって行うべきだと思いますか。特に行うべきと考えるものを3つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1 家族・親戚 | 2 友人 |
| 3 学校や職場の知人・先生 | 4 近所の人 |
| 5 町内会関係者 | 6 民生委員・児童委員 |
| 7 福祉のまち推進センター | 8 民間事業者 |
| 9 ボランティア・NPO法人などの民間団体 | 10 社会福祉協議会 |
| 11 行政機関 | |
| 12 その他 () | |

問 30 あなたの住む地域において日常生活に手助けを必要とする方を発見し、その方が抱える問題を解決するためには、どのような取組みが効果的だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 地域住民が気軽に集まることができる場所を作り出すこと
- 2 活動のリーダーやまとめ役を養成すること
- 3 活動に参加してもらえるように呼びかけや研修を行うこと
- 4 活動をしている団体への費用の助成を充実させること
- 5 地域の住民だけでなく事業者等にも地域活動に協力してもらうこと
- 6 活動についての情報提供など広報活動を充実すること
- 7 難しい問題の解決に取り組むような専門職員を区役所等に配置すること
- 8 その他 ()

問 31 地域活動と住民の支え合いについて、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

回答が終わりましたら、10月20日（木）までに同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにポストへ投函願います。